

官報

號外

昭和二年二月六日 日曜日

內閣印刷局

○第五十二回衆議院議事速記録第十一號

昭和二年二月五日(土曜日)午後一時十七分開議

議事日程 第十號

昭和二年二月五日

午後一時開議

第一 輸出絹織物取締法案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 大正十二年法律第三十五號中改正法律案(船員最低年齡法)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 不良住宅地區改良法案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 政治運動ノ爲金品供與ノ制限ニ關スル法律案(尾崎行雄君提出) 第一讀會(前會ノ續)

第八 政治結社加入勸誘方法ノ制限ニ關スル法律案(關直彦君提出) 第一讀會(前會ノ續)

第九 議員ノ職務ニ關スル法律案(曾田義一君提出) 第一讀會(前會ノ續)

第十 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(林田龜太郎君提出) 第一讀會

第十一 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會

第十二 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(廣瀬德藏君外二名提出) 第一讀會

第十三 治安警察法中改正法律案(田崎信藏君提出) 第一讀會

第十四 治安警察法中改正法律案(樋口秀雄君外二名提出) 第一讀會

第十五 營業收益稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出) 第一讀會

第十六 清涼飲料稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出) 第一讀會

第十七 市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(湯淺凡平君提出) 第一讀會

第十八 不在地主稅法案(清瀬一郎君外一名提出) 第一讀會

第十九 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(竹原樸一君外十六名提出) 第一讀會

第二十 議院法中改正法律案(鷺野米太郎君外一名提出) 第一讀會

第二十一 議院法中改正法律案(小川平吉君外二十六名提出) 第一讀會

第二十二 特別都市計畫法中改正法律案(關直彦君外四名提出) 第一讀會

第二十三 商法中改正法律案(土屋清三郎君提出) 第一讀會

第二十四 移住組合法案(津崎尚武君外九名提出) 第一讀會

第二十五 產業組合中央金庫法中改正法律案(由谷義治君外五名提出) 第一讀會

第二十六 造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會

第二十七 鑛業法中改正法律案(砂田重政君提出) 第一讀會

第二十八 大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ

關スル件)(佐々木平次郎君外十五名提出) 第一讀會

第二十九 北海道農地特別處理法案(丸山浪彌君外六名提出) 第一讀會(續)(委員長報告)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

不良住宅地區改良法案

(以上二月二日提出)

土地賃賃價格調査委員會法案

(以上二月四日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

大正九年法律第五十六號中改正法律案

(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

提出者

佐々木平次郎君

坂東幸太郎君

神部 爲藏君

黑住 成章君

松賀喜代太君

小池 仁郎君

神部 爲藏君

手代木隆吉君

高木 正年君

丸山 浪彌君

坂東幸太郎君

東 武君

松賀喜代太君

黑住 成章君

(以上二月三日提出)

果物罐詰原料砂糖戻稅法案

提出者

關稅定率法中改正法律案

提出者

東 武君

山內 範造君

土井 權大君

荒川 五郎君

植場 平君

岡田 溫君

松山兼三郎君

(以上二月四日提出)

丹後山田豐岡間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君

吉村 伊助君

園部篠山間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君

吉村 伊助君

宮津福知山間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君

吉村 伊助君

殿田小瀨間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君

吉村 伊助君

提出者

木津川改修工事速行ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君 木戸 豐吉君

由良川改修工事速行ニ關スル建議案

提出者

長田 桃藏君 木戸 豐吉君

淀川低水工事促進ニ關スル建議案

提出者

吉村 伊助君 木戸 豐吉君

岡山市ニ綜合中國帝國大學設置ニ關スル建議案

提出者

岡山市ニ中國鐵道局設置ニ關スル建議案

提出者

吉井川改修ニ關スル建議案

提出者

市町村吏員優遇ニ關スル建議案

提出者

寒河江橋岡間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

金澤市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案

提出者

佐藤 實君 室木彌次郎君

青山 憲三君 米原於菟男君

金澤市ニ綜合大學設置ニ關スル建議案

提出者

佐藤 實君 室木彌次郎君

青山 憲三君 米原於菟男君

金澤市ニ鐵道局設置ニ關スル建議案

提出者

佐藤 實君 室木彌次郎君

青山 憲三君 米原於菟男君

鎌倉葉山ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案

提出者

川口 義久君

橫須賀浦賀間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

川口 義久君

癩瘡養所國庫補助ニ關スル建議案

提出者

木村三四郎君

北海道一二級町村制改正ニ關スル建議案

提出者

澤田 利吉君 神部 爲藏君

壽都漁港修築ニ關スル建議案

提出者

澤田 利吉君 神部 爲藏君

提出者

水產講習所ヲ分テ水產專門學校及水產試驗場ト爲スノ建議案

提出者

小西 和君 村上紋四郎君

提出者

受驗資格撤廢ニ關スル建議案

提出者

瀨戸内海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案

提出者

山下 谷次君 嶋居 哲君

提出者

盛岡市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案

提出者

柏田 忠一君 藤川 清助君

提出者

志賀和多利君 熊谷 巖君

提出者

廣瀬 爲久君

提出者

海洋調査機關整備ニ關スル建議案

提出者

山形市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案

提出者

佐々木春作君 松岡 俊三君

尾張戶神社昇格ニ關スル建議案

提出者

尾張戶神社昇格ニ關スル建議案

拓殖省設置ニ關スル建議案

提出者

津崎 尙武君 牧山 耕藏君

內務當局者ノ責任ニ關スル決議案

提出者

羽室庸之助君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

提出者

對支外交ニ關スル質問主意書

提出者

貴衆兩院議員ノ待遇及事務局ノ職制並豫算ニ關スル質問書

提出者

蠶業獎勵ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

提出者

文政ニ關スル質問主意書

一 去一日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出

豫算委員 田口 文次君(丸山浪彌君補關)

一 去一日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

京都府ニ關スル法律案外四件委員

森田 茂君 平沼 亮三君

吉川吉郎兵衛君 中馬 興九君

廣瀬 德藏君 橫山 一格君

西脇 晉君 川口 義久君

山本 芳治君 瀨沼伊兵衛君

吉津 度君 木戸 豐吉君

砂田 重政君 井上 孝哉君

折原巳一郎君 筒井民次郎君

加藤鏡五郎君 林田龜太郎君

一 去一日大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案外一件委員栗山博君辭任ニ付其ノ補關トシテ山井儀重君ヲ、朝鮮事業公債法改正法律案外二件委員加藤六藏君辭任ニ付其ノ補關トシテ石塚三郎君ヲ、登錄稅法中改正法律案外四件委員兼松實太郎君辭任ニ付其ノ補關トシテ山本芳治君孰レモ議長ニ於テ選定セリ

一 去二日若槻內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

朝鮮總督府鐵道局長 大村 卓一

政府委員被仰付

復與局長官 堀切善次郎

內務省所管事務政府委員被仰付

營繕管財局理事 太田嘉太郎

大藏省所管事務政府委員被仰付

陸軍一等主計正 小野寺長治郎

陸軍省所管事務政府委員被仰付

海軍主計大佐 池邊 安雄

海軍省所管事務政府委員被仰付

商工省所管事務政府委員被仰付

吉野 信次

一 去二日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第七部請願委員

山宮 藤吉君

第九部豫算委員

太田信治郎君

一 去一日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第九部豫算委員

第五部選出

豫算委員 森田 茂君(建部遊吾君)

第九部選出

請願委員 安保 庸三君(倉元要一君)

第一

輸出絹織物取締法案(政府提出)

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

第一

輸出絹織物取締法案

御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ許可スルコトニ決シマス。日程

第一、輸出絹織物取締法案ノ第一讀會ヲ開

キマス、藤澤商工大臣

第一 輸出絹織物取締法案(政府提出)

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

輸出絹織物取締法案

第一讀會

却又ハ隠蔽スルコトヲ得ズ

前項ノ印章又ハ記號ヲ抹消、除却又ハ隠

蔽シタル輸出絹織物ハ之ヲ輸出スルコ

トヲ得ズ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千

圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條又ハ前條第二項ノ規定ニ違

反シ輸出絹織物ヲ輸出シ又ハ輸出セ

ントスル所爲ヲ爲シタル者

二 第三條又ハ前條第一項ノ規定ニ違

反シタル者

三 第二條ノ規定ニ依ル命令又ハ第四

條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反

シタル者

第九條 正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規

定ニ依ル當該官吏ノ臨檢査ヲ拒ミ、

妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答

辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル

者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 輸出絹織物ニ關スル營業者ハ其

ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人

其ノ他ノ從業者ガ本法若ハ本法ニ基キ

テ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分

ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デ

本法施行前ニ府縣ノ輸出絹織物検査所ノ

検査ニ合格シタル輸出絹織物ハ第一條ノ

規定ニ拘ラズ之ヲ輸出スルコトヲ得

本法施行前ニ製織シタル輸出絹織物ニシ

テ前項ノ規定ニ該當セザルモノハ本法施

行ノ日ヨリ一月内ニ輸出絹織物検査所ノ

認定ヲ受ケ本法施行ノ日ヨリ六月間第一

條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ輸出スルコトヲ

得

○川原茂輔君 是ヨリ豫算總會ヲ開キマス

カラ、委員諸君ハ委員室ニ御集リヲ願ヒマ

ス

○國務大臣(藤澤幾之輔君) 輸出絹織物取

締法案ノ説明ヲ致シマス、絹織物ハ我が輸

出品ノ大宗タルニ拘ラズ、其多クハ中小機

業家ノ製産ニ係ルガ爲ニ、動モスレバ粗製

濫造ノ譏ヲ免レマセヌ、仍テ政府ハ曩ニ或

ハ輸出羽二重精練業法ヲ制定シテ、其精練

ニ關スル弊害ノ矯正ヲ圖リ、或ハ輸出羽二

重取締規則ヲ發布シテ、不正ノ増量ヲ取締

リ、或ハ又其ノ主要ナル生産地及輸出港所在

ノ府縣ヲシテ輸出絹織物ノ検査ヲ厲行セシ

ムル等、本邦輸出絹織物ノ聲價ノ維持向上

ニ努ムル所ガアリマシタ、然レドモ時勢ノ

ハ多年私共絹織物輸出業ニ從事シテ居ル者ガ請求シ希望シテ居タル法案デアリマシテ、歡迎スベキ法案デアルト思フノデアリマシテ、併シ今大臣ガ説明サレマシタコトハ、甚ダ斷ニシテ其要ヲ得ナイノデアリマシテ、故ニ私ハ逐條ニ互テ極ク簡單ナ質問ヲシテ見タト思フノデアリマシテ、第一第二條ニ「主務大臣ハ輸出絹織物ノ售價ノ維持向上ヲ圖ルガ爲メ輸出絹織物ノ關スル増量ノ制限禁止、品質品種ヲ識別スベキ表而其ノ他ノ事項ニ付取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得」此條項デアリマス、是ハ近來我國ノ絹織物業デ非常ニ發達シタモノハ申スマデモナク富士絹ト申ス所ノ織物デアリマス、過去十箇年ノ間ニ極ク微々タルモノデアッタモノガ、今日ハ八十五万反モ產出シ、又其幅モ日本ノ在來ノ織物ノ如ク狭イモノデナクシテ、紗クモ二十九吋以上三十六吋、或ハ四十五吋ノ幅ヲ持テ居リマス、其一反ト申スモノハ五十碼ニナッテ居ルノデアリマス、故ニ我國ノ織物ニ較ベルナラバ、八十五万反ト云フモノハ優ニ三百万反以上ノモノニナルノデアリマス、斯ノ如ク絹織物デ最近發達シタモノハ他ニ無イノデアリマス、然ルニ此富士絹ニ對シテ近來粗製濫造ガ甚シクナリマシタ、而シテ其大ナル需要先ハ申スマデモナク濠洲デアリマス、初メハ至テ微々タル輸出デアリマシタガ、近年ハ我國ニ出來ル產額ノ約五割、即チ四千万圓ニ對スル產額中二千五百万圓以上ヲ輸出スル國ハ濠洲デアリマス、然ルニ此濠洲ニ於テ近頃需要家ガ甚シク此絹織物ニ向テ疑感ノ念ヲ起シテ來タ、何故ナラバ初メハ此富士絹ナルモノハ洗濯ニ堪ヘ、サウシテ水切レガ宜クテ肌觸リガ好イ、斯ウ云フ關係カラ遂ニ彼ノ國ノ婦女子ガ非常ニ多ク用ユルコトニナッタ、最近是ガ段々商賣人ガ惡クナリマシテ、是ハ決シテ製造家バカリガ惡イノデハナイ、又輸出業者バカリガ惡イノデハナイ、需要地ノ商賣人ノ惡イコトモ之ヲ認ムベキ十分ナル理由ガアリマス、ケレドモ、之ニ應ジテ相場ニ依テ代物ヲ惡クスルコトガ我國ノ産業上實ニ慎ムベキコトデ

アル、之ヲ今ニ於テ矯正シナイナラバ、是ダケ發達シタ産業ハ遂ニ濫滅シテシマフヤウナ機運ニ向イテ居ルト思フノデアリマス、故ニ私ハ昨年モ商工大臣ニ向テ此法案ヲ提出サレタコトヲ希望致シマシタ、本年ハ是ガ法律案トナッテ政府カラ出タコトハ、吾々非常ニ喜ブモノデアリマス、併ナガラ此文ハ甚ダ簡ニシテ如何ナル取締ヲナサレルカ、其取締ヲ若シ誤テスルナラバ、此發達シタ輸出絹織物ヲ、或ハ其取締ノ惡イ爲ニ非常ナル弊害ヲ來スコトガナイカ、或ハ其取締ノ者デアリマス、私ハ之ヲ慮レル者デアリマス、大臣ニ此法案ヲ御出シニナッテ主眼ハ那邊ニ在リマス、唯、維持向上ヲ圖ルガ爲メ云フコトダケデハイカナイ、紗クモ此富士絹ニ對シテハ整絲ハ何ボノモノヲ使フ、横絲ハ何ノモノヲ使フ、是レ以下ノ線ヲ使フコトヲ許サナイ、規格ニ於テ定メナイナラバ、目見タ位トカ、絲ノ數ヲ一寸見タ位トコトデハ、製造ノ遺方ニ依ッテ幾ラモ胡麻化スコトガ出來ルノデアリマス、故ニ此富士絹ニ對シテハ少クトモ規格ニ於テ整絲百三十手、横絲七十手ノモノヨリハ使ハヌ、是レ以下ノモノデ製織シタ織物ハ輸出サセヌト云フハキリシタ規格ニ依ッテ御取締ヲ願ヒタイ、是ハ技術上餘リムヅカシイ事デハナイ、私共取締テ居ル者ニハ能ク分ッテ居ルコトデアル、此邊ニ付テ明確ナル取締法ヲ御定メニナル御考デアルカドウデアルカト云フコトヲ聞キタイノデアリマス、モウ一ツ聞キタイコトハ、此所ニハ簡單ニ書イテアリマス、ケレドモ、是ハ決シテ簡單ナコトデハナイ、輸出絹織物ニ關スル増量ノ制限又ハ禁止ト書イテアル、是ハ如何ナルコトヲ爲サル御考デアルカ、實ハ之ニ付テハ私共貿易業者ガ多年困テ居ル問題デアル、今日世界中佛蘭西ヲ始メトシテ、荷モ絹織物ヲ作ル所ニ於テ、「ビニールシルク」ト云フモノニハ増量ハ至テ少ナイ、多クハ「ハイエスト」ノ絹織物デアル、又荷モ上等品デアッテ、増量ヲシテ居ラヌモノハ一ツモナイ、錫ヲ以テ増量ヲシテ、是ガ世界ノ市場ニ現レテ居ル、然

ルニ今日此増量ヲ制限或ハ禁止スル——制限ト云フコトハ非常ニ宜イコトデアルガ、ドウ云フ程度マデ制限スルノデアルカ、増量スルコトノ出來ナイ絹織物ニ増量シタ場合ニ禁止スルコト云フコトハ宜イカモ知レタセヌケレドモ、今日世界ノ市場ニ現レテ居ル所ノ、碼ガ三圓乃至五圓ト云フヤウナ上等品ノ絹織物ハ何處ノ國デモ増量ヲシテ居ルノデアル、増量シタ居ルモノ云フコトハ天下周知ノ事デアッテ、何等惡イ事デハナイ、然ルニ近來我國ノ商工省ノヤッテ居ル所ニ依リマス、増量シタト云フ判ヲ押スコトニナッテ居ル、世界何レノ絹織物ヲ商賣ヲシテ居ル國ニ於テモ、増量ヲシタト云フ判ヲ押アラウト思フ、察聞ニシテ私ハ知ラナイ、私ハ世界中ノ絹織物ノ市場ハ到ル處見テ歩イタ、即チ私ハ三十三年間貿易ニ從事シテ、我國ノ絹織物ヲ海外ニ紹介スルコトヲ以テ私ノ任務ト考ヘテ居リマシタカラ、此點ニ付テハ屢、研究ヲシタ、然ルニ從來我國ノ輸出シテ居リマス絹織物ニハ、検査ヲ受ケルト錫ノ増量ヲシタト云フ判ヲ押ス、外國カラ來タ物ニハ一ツモ無イ、奧地利カラ、佛蘭西カラ、亞米利加カラ、伊太利カラ、到ル處カラ此絹織物ハ參ッテ居リマス、ケレドモ、錫ノ増量ヲシタト云フ判ヲ政府ガ押シタモノハ私ハ見タコトガナイ、然ルニ我が政府ハ御丁寧ニ判ヲ押シテ居ル爲ニ、貿易上非常ニ損害ヲ被ッテ居ル、日本ノ絹織物ニ斯ウ云フ判ヲ押シテ居ル爲ニ、市場ノ相場ノ上ニ於テ、貿易上算フベカラザル損害ヲ是迄モ來シテ居ルノデアリマス、故ニ此取締ヲ嚴格ニサレルト云フコトハ非常ニ宜イ、先程モ申上デマシタ通り富士絹ノ如キ、是ハ私ガ數年來申シテ來タコトデアアルガ、日本ノ富士絹ハ洗濯ニ堪ヘ、サウシテ水切レガ宜クテ、幾度洗ッテモ惡クナラナイト云フ物デアレバ、一碼一圓十錢ヤ一圓二十錢ノ市價ヲ保チ得ルコトハ易々タルコトデアル、是ハ外國ノ毛織物ニ較ベテモ、或ハ「モスリン」ニ較ベテ見テモ一碼一圓十錢二十錢ニ賣ルコトハ決シテムヅカシクナ

イ、而モ絹絲紡織ハ「シルク」ニ違ヒナイカラ、如何ナル立派ナ判ヲ押シテモ賣ルコトガ出來ルノデアル、然ルニ此頃ハ織物業者ガ、其注文先カラ値ヲ安く値ヲ安くト言テ來ルノト、生絲ノ相場ガ下ッテ爲ニ、其一圓十錢二十錢ニ賣レテ居タル富士絹ガ、今日ハ五十七錢マデ下ッテ居ル、十分ソレダケノ價值ガ立派ナ織物、一圓二十錢ノ金看板ヲ以テ十分通り得ル織物ガ、今日ハ五十七錢ニ下ッテ居ル、是ハドウ云フ譯デアラルカト云ヘバ、一昨年来私共、大臣ニ向ッテ此取締ヲセンケレバ我國ノ絹織物、少クとも富士絹ト云フモノハ生命ヲ斷テシマフコトニナルト云フコトヲ警告シタ事ニ依ッテモ明カデアリマス、然ルニ優柔不斷ニシテ出タ、是ハ出ナイヨリモ出タコトハ確ニ宜イノデアリマス、ケレドモ、之ニ付テ茲ニヤントシタ規格ヲ定メナケレバナラヌ、是ガ需要ハ單リ濠洲バカリデハナイ、印度ニ於テモ英國ニ於テモ大分ノ使フヤウニナッタ、ソレハ何故カト云ヘバ、堅牢デアルト云フコト、「ビニールシルク」デアル、此二ツノ條件ヲ以テ是ガ賣レルノデアル、然ルニ今日ノ如ク横絲ヲ太クシテ整絲ヲ細クスル、サウシテ私ノ經驗デハ整絲百三十手、横絲七十手デ、五十碼一反少クとも五百八十反ヲ保ツベキモノデアル、然ルニ今日デハ五百二十反、甚シキハ五百反ノモノヲ輸出スルヤウニナッテ來タカラ、實用ニ堪ヘナイ運命ヲ持ッテ來タ、故ニ此富士絹ヲ扱フ所ノ者ハ、大御屋デモ之ヲ扱フコトヲ差控ヘテ居ル、中御屋或ハ小賣屋ニ至ルマデ之ヲ扱フコトヲ好マナクナッテ來テ居ル、ソレガ今日ノ濠洲ニ於ケル絹物市場ノ實狀デアル、故ニ此聲價ヲ恢復シヤウト云フニハ、少クトモ五百八十反ヲ保タシメナケレバナラヌ、増量デハナク、練上五百八十反ヲ確ニ保ツト云フコトヲ保障スル位マデヤッテ行ナラバ、今日ノ市價ハ直ニ四割方恢復シテ、一碼九十五錢、一圓二賣ルコトハ難クナイト思フ、幸ニ斯ノ如キ市場ガアリ、幸ニ此絹織物ガ發達シ

テ居ルノデアリマスヲ、商工大臣ガ茲ニ
注目サレマシテ、此法律案ヲ出サレタコト
ハ誠ニ宜イ事ト思フ、併ナガラ此増量ノ點
ニ付テ、茲ニ書イテアルヤウニ、或ハ禁止
スル、或ハ制限スルコト云フニ付テハ、其制
限ノ仕方、禁止ノ仕方ハ如何ナル方法ヲ以
テ爲サルノデアルカ、先刻申上ダタ如ク高
等絹織物ニ向テハ世界何レノ國ニ於テモ
増量シテ居ラヌ所ハ一モナイト言テ過言
デナイト思フ、之ヲ誤テ我國デハ上等ノ
物ニ増量ノ判ヲ押シテ居ル、富士絹ノヤウ
ナ下等ノ物ニハ増量ノ虞ハナイカラ、是ハ
堅絲ト横絲ノ規格ヲ定メテ、練上五百八十
奴ノモノデアルト云フコトヲ検査所デ十分
注意スルナラバ、此方ノ取締ハ割合ニ容易
デアテ事業上ヤリ易イノデアル、所ガ増量
ノ方ニ至テハ、ドウ云フ手心ヲ用ヒラレ
ルカ、之ヲ私ハ非常ニ疑フ、世界各國ノ製
作シテ居ル會社ハ、皆増量スルコトニ依
テ高等絹織物ノ販路ヲ得テ居ル、サウシテ此
高等絹織物ハ富士絹ノヤウニ決シテ洗濯ナ
ドラスルモノデナイ、是ハ各國トモ金持ガ
飾ルモノデアルカラ、外見ガ好クテ、艶ガ
好ク、光澤ガ十分ノモノナラ宜イ、一遍カ
二度ノ用ニシカ使ハナイノデアルカラ、金
満家ハ決シテ増量ナドハ咎メナイ、然ルニ
我國ハ丁寧ノ積リカ増量シタト云フ判ヲ押
ス爲ニ、貿易ノ競争上從來モ非常ナ不利益
ヲ被テ居ル、サウ云フ風デアリマスカラ、
今後此増量スルコトヲ或ハ禁止スル、或ハ
之ニ制限ヲ加フルト云フニ付テハ、其遺方
ニ餘程ノ御注意ヲ爲サラスト、所謂角ヲ矯
メル爲ニ牛ヲ殺スヤウナ法案ニ陷ルコトヲ
私ハ憂フルノデアリマス、仍テ此點ニ付テ
ハ御明答ヲ願ヒタイ、サウシテ將來ハ決シ
テ「ハイエスト」ノ高等絹織物ニ増量シタ
ト云フ判ヲ押スコトハ斷ジテ御止メニナ
シテ宜カラウト思フ、是ハ私商業上ノ立場カラ
申上ゲルノデアリマス、デハ多少ノ意見
ガ混テ居リマスケレドモ、意見ヲ言ハナケ
レバ質問ノ趣意ガ徹底致シマセヌカラ申上
ゲタノデアリマス、高等ノ絹織物ニ對シテ
ハ世界到處増量シテアルト云フコトガ周

知ノ事デ、何等疑フ要シナイ事デアリマスカ
ラ、是等ニ向テサウ云フ判ヲ押サヌト云
フコトヲ御明言ヲ願ヒタイ、同時ニ「シルク」
ノ種類ニ依テ、或ハ増量ノ制限ガアリ、
或ハ増量ノ禁止ノ必要ガアルカモ知レマセ
ヌ、ソレハ技術上ノ問題ニナリマスルガ、
大臣ハ今申上ゲマシタ此所ニ御書出シニナ
テ居ル貿易ヲ向上セシメル、折角出來タ貿
易ヲ阻碍シナイ爲ニ此法律ヲ出スト云フコ
トガ趣旨デアラナラバ、必ズ其意思ト並行
シタ所ノ趣旨ヲ以テ、貿易ガ愈々振興スル
爲ニ御努メニナラナケレバナラヌト思フ、
然ルニ此法律ニ書イテアル此制限、或ハ禁
止ト云フコトハ、ドウ云フ方法ヲ以テオヤ
リニナリマスカ、ソレハ内地ニ於テノ取締
上相當ナ考慮ヲ要サレテモ、輸出高等織物
ニ付テハ斯ノ如キ判ヲ押サヌト云フコトヲ
御明言ニナルカドウカ、斯ウ云フコトヲ承
リタイノデス、多少技術上ニモ關係シマス
ガ十分御答ヲ願ヒタイノデアリマス、サウ
シテ茲ニモウツ御尋シタイコトハ、第三
條ニ「輸出絹織物ノ精練業ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレ
バ之ヲ營ムコトヲ得ズ」是ハ當然デアラウ
ト思フ、大體ハ輸出絹織物ノ精練法ト云
フモノハ、唯、羽二重、縮緬ダケニ今迄ハ
應用サレテ居ラ、我國ノ産業ノ大切ナルモ
ノデアルニモ拘ラズ、精練法ガタタ羽二
重ト縮緬ニ限ラレテ居ルト云フコトハ實ニ
奇々妙々ノコトデアル、故ニ昨年モ最後ノ
日ニ私ハ少クとも今多ク出ル所ノ富士絹ト
絹紬トヲ精練法ニ入レテ賞ヒタイト云フ法
律案ヲ出シタノデアリマス、不幸ニシテ最
後ノ日デアラ、是ガ終了ヲ見ナカッタコト
ハ遺憾トシテ居ル、今日モ是ガ現レマシテ、
輸出絹織物ノ精練法ト云フモノハ、前ノモ
ノハ廢サレテ新シイモノニナルト云フコト
ニナツテ居リマスガ、此廢サレコトニ付
テ尙ホ御意見ヲ伺テ置キタイ、既設ノ精
練業者ハ今日實施サレル前迄タモノト
シテ、實施サレタ命令ニ依テ許サレテ居
ルノト同ジ資格ヲ與ヘルト云フコトデア
ル、是ハ既得權ヲ侵害サレヌコトデアリマ

スカラ、既設精練所ヲ持テ居ル者ハ喜ブ
ニ違ヒナイ、併シ是ハ相當主務省ハ目ヲ開
ケテ見ナケレバナラヌ、縱シ今日マデア
タ精練所デアラモ、今日此法律ガ改正サレ
テ、今日カラ實施スルト云フコトニナツ
ナラバ、今日迄拵ヘテ居ル所ノ工場ノ内
容ヲ能ク調ベテ見テ、名バカリノ精練所デ
アルナラバ、是ハ禁止シタ方ガ宜シイト思
フノデアリマス、國ノ法律トシテ定メラレ
ル限リニ於テハ、此邊ニモ十分ナル御注意
ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、而シテ此
輸出検査所ハ何處ニ置カレルカト云フコト
ハ之ニ明言シテアリマセヌ、多分私ノ思フ
所デハ神戸或ハ横濱ト云フ、此二大輸出港
ニ主トシテ國立検査所ガ置カレルモノト思
ヒマスケレドモ、既ニ我國ニハ十一縣ニ此
絹織物ノ輸出検査所ト云フモノガアル、是
ハ國立デハナイ縣立デアアルノデアリマス、
是ハドウ云フ風ナ御處置ヲナサルカ、矢張
ソレハ從前ノ通り其輸出場所ニ於ケル絹織
物検査所、地方ニ在ル今府縣ガ持テ居ル
モノヲ國ニ移スト假ニシマシテモ、其關係
ハ如何ナル方法ヲ御執ニナルカト云フコト
ヲ御聞キ申シタイノデアリマス、返ス々々
モ此増量ノ問題ニ付テハ十分ナル御考慮ヲ
御拂ヒニナツテ、決シテ外國ノ貿易業者ガ
ヤテテ居ルコトニ、我國ノ法律ノ取締上選
色ヲ受ケルヤウナコトノナイヤウニ御願
致シタイト思フノデアリマス、此點ニ付テ
御明答ヲ願ヒタイ

〔國務大臣藤澤義之輔君登壇〕

○國務大臣(藤澤義之輔君) 御答ヲ致シマ
ス、從來富士絹ハ取締ノ範圍ノ外ニ置カレ
タモノデアリマシタガ、今回之ヲ從來ノ羽
二重等ト同ジヤウニ取締テ行カウト云フ
コトニナツテ、此法案ガ提出サレテアルノ
デアリマス、ソレカラ富士絹ハ堅絲ヲ幾本
ニシテ横絲ヲ幾本ニスルカト云フヤウナ具
體的ノ御問ガアリマシタガ、是等ハ總て命
令ニ依テ決定ムル積リデアリマス、其詳細
ナコトハ委員會デ申上ゲルコトニ致シマ
ス、ソレカラ増量ト錫ノ使用方ニ付テノ御
尋ガアリマシタガ、是ハ共ニ從來發表サレ
テ居リマス所ノ省令ニ依テ取締ルト言テ
ハ言葉ヲ爲シマセヌガ、省令デ取締タノ
ト同ジヤウナ取締ヲシテ行ク積リデアリマ
ス、ソレカラ増量ノ點ニ付テハ、御承知ノ
通り之ヲ禁止致シテ居リマスガ、錫ノ點ニ
於キマシテハ、是ハ制限ヲ致シテ居ルノデ
アリマシテ、只今ノ所デハ其輸出ヲ禁止ス
ル意思ハ持テ居ナイノデアリマス、ソレ
カラ第三條ノ點ニ付テ精練ノコトヲ御尋ガ
アリマシタガ、是ハ矢張富士絹モ此精練ノ
中ニ這入ルノデアリマシテ、同ジヤウニ取
締ヲ受ケテ行クノデアリマス、ソレカラ從
來許シテ受ケテ精練業ヲ營ンデ居ラ者ノ
中ノ、殆ド名ノミデアラテ其實ヲ爲サナイ
ヤウナ者ニ對シテハドウ云フ取締ヲスル
カ、斯ウ云フ實際問題ニ付テノ御尋デアリ
マシタガ、ソレハ固ヨリ監督權ヲ持テ居
ルノデアリマスカラ、事實名ノミデアリマ
シテ、サウシテ其實ガ無カッタナラバ、之ニ
對シテハ、適當ナ考慮ヲ拂ハナケレバナラ
ヌコトハ勿論デアリマスガ、其ドウ云フ者
ニ對シテ如何ナル處置ヲ執ルカト云フヤウ
ナコトハ、是ハ委員會ニ讓テ戴キタイト
思フノデアリマス、ソレカラ此検査所ハ何
處ニ置クノデアルカト云フ御尋デアリマシ
タガ、ソレハ京都、神奈川、兵庫、群馬、
愛知、岐阜、福島、福井、栃木、石川、山
形、富山、是ハ從來府縣ニ於テ其検査ヲ行
テ居ラ場所ニ、矢張續イテ置ク積リデア
リマス、簡單デアリマスケレドモ御問ノ要
點ニ對シテ御答致シタ積リデアリマス
○森田金藏君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ申上ゲマス——今御答辯ガアリマシタ
ガ、此中デ最も大切ナル増量ノコトニ付テ
ハ、外ノ増量ハ禁止スル筈デアルガ、錫ダケハ
矢張制限ヲシテ置クノデアアル、斯ウ云フ風
ニ御答ニナツテ居ルノデアリマス、併シ此
錫ノ増量ヲシタモノニ、從來ノ如ク増量ヲ
シタト云フ印章ヲ押スト云フコトハ、貿易
上非常ナ誤リデアルト思フノデアリマス、
是ハ錫ノ増量ハ大臣モ御承知デアラウト思
ヒマスガ、世界何レノ國デモ用ヒテ居ルコ
トデアリマスカラ、我國ダケ斯ノ如キ判ヲ

上セラレテ居ラヌト云フコトデアリマスナラ、別ニ心配スルコトハ無イノデアルケレドモ、何カ他ニ有力ナル所ノ原因ガアツテ、全ク我國カラ輸出スル所ノ絹織物ガ其販路ノ杜絶致シタ結果、是等ノ諸國ニ我國ノ絹織物ガ入ラヌコトニナツタト云フコトナラバ、其原因ハ抑、何處ニ在ルデアリマセウカ、是レ本邦絹業者トシテハ大ニ憂慮セナケレバナラヌ事柄デハナカラウカ、又此原因ヲ探求致シテ置クト云フコトハ、極メテ必要ナル事ト存ズル故ニ、茲ニ質問ヲ申上グル次第デアリマス、更ニ御尋申上ゲタイノハ、横濱ニ在ル所ノ絹業試験所デアリマス、只今ニ於キマシテハ生絲検査所ノ一部ヲ借りテヤツテ居リマス、大正十八年即チ昭和四年ニハ、是ガ獨立致シタル所ノ建物ノ中ニ移ルコトニナツテ居リマス、所ガ之ニ對シ、絹織物業者ノ中ニハ、蠶業試験場ノ生絲試験ニ關スルモノハ、之ヲ絹業試験所ノ方ヘ委譲シテヤル方ガ、更ニ有力ナル所ノ絹織物ノ試験ガ出來ルデハナイカ、斯様ニ考ヘテ居ル者モアル、又蠶絲業者ノ中ニハ養蠶、製絲、絹織物ト云フ此三ツノモノハ不可分ノ大ナル關係ヲ持ツテ居ルデアアル、故ニ此絹業試験所ナルモノヲバ、之ヲ切離シテ別ニスルト云フコトデハ完全ナル試験ハ出來ナイノデアルカラ「簡單々々」ト呼フ者アリ）宜シク是ハ蠶業試験場ノ方ニ移シテ、三者統一ノ取レタル試験ヲヤラシムル方ガ宜イデハナイカト云フ意見ヲ持テ居ル者ガアル、然ルニ政府ハ此絹業試験所ナルモノヲ單獨ニ御設ケニナツテ居ル、之ニハ有力ナル理由ガナケレバナラヌノデアリマスガ、此點ニ於キマシテ政府ノ御意見ノアル所ヲ御尋申上ゲタイト思ヒマス、尙ホ御尋申上ゲタイ事モアリマスケレドモ、簡單々々ノ聲ガアリマスカラ是デ止メルコトニ致シマス（拍手）

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕
○國務大臣（藤澤幾之輔君） 御尋ノ點ガ數點アリマシタガ、第一ニ内地絹織物ノ取締ノ事ニ付テノ御尋デアリマシタ、内地絹織物ニ付キマシテハ、當業者各自ガ自治のニ

互ニ競争シテ其善ヲ責メテ居ルト云フヤウ
十次第アリマシテ、必シモ今日ニ於テ取
締法ヲ制定シナケレバナラヌト云フ程度ニ
至リテ居ナリト考ヘテ居ルノデアリマス、ソ
レカラ第二ニ染織ニ關スル御尋デアリマシ
タガ、其取締ハ本法ノ第四條ニ掲ゲテアリ
マスカラ、ソレヲ御覽ヲ願ヒタイノデアリ
マス、第三ニハ外國ノ需要關係ニ付テノ御
尋デアリマシタガ、是ハ貿易振興ノ上ニ直
接ノ關係ヲ持テ居ルノデアリマスカラ、政
府ハ有ユル手段ヲ用ヒテ其發展ヲ圖リテ居
ルノデアリマス、ソレカラ南洋方面ノ事ニ
付テノ御尋ガアリマシタガ、是ハ大體御尋
ノ通りデアリマシテ、時ニ或ハ進ム事モア
リ、退ク事モアリマスケレドモ、併ナガラ政
府ハ引續キ努力ヲ拂フ積リデアリマス、其
次ニ横濱ノ絹業試験所ノ事ニ付テノ御尋ガ
アリマシタガ、是ハ從來ノ通り商工省ノ管
轄トシテ、矢張繼續シテヤツテ行クコトガ
相當デアルト思フノデアリマス、是ダケノ
事ヲ御答ヲ致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 日程第二、右議案ノ
審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス
第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉
○砂田重政君 本案ハ議長指名九名ノ委員
ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異
議ハアリマセヌカ
〔異議ナシトノ聲起ル〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍チ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
三、大正十二年法律第三十五號中改正法律
案ノ第一讀會ヲ開キマス、安達謙藏大臣
第三 大正十二年法律第三十五號中改
正法律案(船員最低年齡法)(政府提
出、貴族院送付) 第一讀會
大正十二年法律第三十五號中改正法
律案
大正十二年法律第三十五號中左ノ通改正

本法ニ左ノ題名ヲ附ス
船員最低年齡法
第二條ノ二 十八歳未満ノ者ハ石炭夫又
ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス
但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ルコト能
ハサル港ニ於テハ十六歳以上ノ者ニ限
リ之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ
十六歳以上ノ者二人ヲ雇入ルコトヲ
要ス
專ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テ
ハ前項ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ定ム
ル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スル
コトヲ得
前二項ノ規定ハ主トシテ蒸汽以外ノモ
ノニ依リ推進スル船舶又ハ行政官廳ノ
認可ヲ受ケ教習船ニ於テ年少者ニ爲サ
シムル作業ニ之ヲ適用セス
第七條中「第二條ノ二」第二條ノ二」
ヲ加フ
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ石炭夫又
ハ火夫トシテ引續キ使用スル場合ニ於テ
ハ其ノ者ニ付第二條ノ二ノ規定ハ之ヲ適
用セス
〔國務大臣安達謙藏君登壇〕
○國務大臣(安達謙藏君) 曩ニ國際労働會
議ニ於キマシテ採擇ニナツテ居リキスル條
約ノ内容ヲ參酌致シマシテ、大正十二年法
律第三十五號ヲ以テマシテ、十四歳未満ノ
兒童ノ船員タルコトヲ禁止シタノデアリマ
ス、又十八歳未満ノ年少者ノ船員タラント
スル者ニ對シマシテハ、體格検査ヲ強制シ
マシテ、而シテ幼年者保護ノ制度ヲ設ケテ
居リマシタガ、元來各種ノ船内ノ労働中、
機關室ニ於ケル石炭夫及火夫ノ労働ハ最モ
過勞ニ流ル、性質デアリマスカラシテ、之
ニ付キマシテハ他ノ船員ヨリモ特ニ幼年者
ヲ保護スルノ必要ガアリマス、仍テ此際大
正十年瑞西「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ
マシタ所ノ、第三回國際労働會議ノ採擇ニ
係ル石炭夫又ハ火夫トシテ使用シ得ル年少者

ノ最低年齡ヲ定ムル條約案ノ其趣旨ヲ參酌
致シマシテ、此法律第三十五號ヲ改正シ、原
則トシテハ十八歳未満ノ者ノ石炭夫又ハ火
夫トシテ船内ニ就業スルコトヲ禁止致シマ
シテ、以テ幼年者保護ノ制度ヲ確立セント
スルモノデアリマス、而シテ右條約ハ決定
ノ當時ニ在リマシテハ、我國ノ船舶内ニ勤
勞スル十八歳未満ノ石炭夫又ハ火夫ノ數ハ
相當多數ニ上ツテ居リマシタ、仍テ右條約案
ヲ直ニ採用致シマスノ虞キハ、或ハ海運界ニ
多少ノ影響ヲ來スノ虞ガアリマスカラシ
テ、政府ニ於テ一時是ガ採用ヲ見合セテ居
タノデアリマス、然ルニ最近ノ調査ニ依リ
マスルト、此種ノ年少者ノ數ガ漸ク減少致
シマシテ、全體ノ石炭夫及火夫ノ約一割ヲ
算スルニ過ギサル狀況ニ立至タノデアリ
マス、ソレデ此際條約案ノ趣旨ヲ採用致シ
マシテ立法ヲ爲スモ、我國ノ海運界ニ著シ
キ影響ハナカレバベシト認メタノデアリマ
ス、是ガ故ニ本法改正案ヲ提出スルニ至リ
マシタ次第デコザイマス、極ク簡單ナ法律
デゴザイマスカラ、何卒速ニ御協賛アラン
コトヲ望ミマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ別ニ
質疑ノ通告モアリマセヌ、仍テ日程第四、
右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議
題ト致シマス
第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉
○砂田重政君 本案モ九名ノ特別委員ニ付
託セラレシコトヲ望ミマス、尙ホ其委員ハ
議長ニ於テ指名セラレシコトヲ望ミマス
○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシトノ聲起ル〕
○議長(粕谷義三君) 異議ナシト認メマ
ス、仍チ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
五、不良住宅地區改良法案ノ第一讀會ヲ開
キマス、內務大臣臨時代理安達謙藏君
第五 不良住宅地區改良法案(政府提
出) 第一讀會

不良住宅地區改良法案
第一條 公共團體ハ不良住宅密集シ衛
生、風紀、保安等ニ關シ有害又ハ危險
ノ虞アル一團地ニ付本法ニ依リ改良事
業ヲ行フコトヲ得
公共團體前項ノ規定ニ依リ改良事業ヲ
行ハントスルトキハ主務大臣ニ申請シ
テ地區ノ指定ヲ受クベシ
第二條 主務大臣特別ノ必要アリト認ム
ルトキハ前條ノ申請ニ依ラズシテ地區
ノ指定ヲ爲シ其ノ地區ノ屬スル公共團
體ニ對シ本法ニ依リ改良事業ノ施行ヲ
命ズルコトヲ得
第三條 主務大臣前二條ノ規定ニ依リ地
區ノ指定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ
公告スベシ
一 地區ノ區域
二 改良事業施行者
第四條 前條ノ公告アリタルトキハ事業
施行者ハ一年以内ニ改良事業方法ヲ定
メ主務大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スベシ
前項ノ認可アリタルトキハ事業施行者
ハ三月以内ニ事業ニ着手スベシ
事業施行者第二項ノ規定スル期間内ニ
改良事業方法ヲ認可申請ヲ爲サズ又ハ
第二項ノ規定スル期間内ニ事業ニ着手
セザルトキハ主務大臣ハ地區ノ指定ヲ
取消スコトヲ得
第五條 事業施行者ハ地區内居住者ヲ一
時收容スルニ必要ナル設備ヲ設クベシ
特別ノ事情アルトキハ事業施行者ハ主
務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ設備ヲ設ケ
ザルコトヲ得
第六條 事業施行者ハ地區内ニ於ケル土
地ノ區劃形質ノ變更、道路下水ノ施設、
地上物件ノ除去其ノ他地區改良ノ爲必
要ナル事業ヲ行フベシ
第七條 事業施行者ハ地區内居住者ノ居
住ニ充ツベキ住宅ヲ其ノ地區内ニ建設
スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ
主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ地區
外ニ之ヲ建設スルコトヲ得
前項住宅ノ數ハ地區ノ指定アリタルト

キ現ニ地區内ニ居住スル者ノ世帯數ヲ下ルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 改良事業ヲ施行シタル公共團體ハ前條ノ規定ニ依リ建設シタル住宅ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケベシ

第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業施行者ニ對シ其ノ事業ノ施行ノ爲支出スル經費ノ二分ノ一以テ補助ス

第十條 本法ニ依リ改良事業施行ノ爲必要アルトキハ事業施行者ハ地區内ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニシテ改良事業トシテ行フ建物ノ建設及公共ノ用ニ供セザルモノハ第六條ノ事業ノ完了後之ヲ賣却スベシ

第十二條 前條ノ規定ニ依リ土地ノ賣却ハ左ニ掲グル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ競争入札ニ依リ之ヲ行フベシ

一 改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二 改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ニ關シ其ノ土地收用ノ際權利ヲ有シタル者(擔保權者ヲ除ク)又ハ其ノ相續人

前項ノ規定ニ依リ使用スル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ハ主務大臣決定シ之ヲ公告スベシ

第十四條 本法ニ依リ改良事業施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ行政廳ハ地區内ノ建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命ジ又ハ其ノ占有者ニ對シ立退ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外土地收用法ヲ適用ス

第十六條 第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ付テハ第一條第二項若ハ第二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ地區ノ指定又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ決定ヲ以テ土地收用法第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ認定、第三條又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依リ公告ヲ以テ土地收用法第十四條ノ規定ニ依リ公告ト看做ス

第十七條 第十四條ノ規定ニ依リ移轉又ハ立退ヲ命ゼラレタル者其ノ移轉又ハ立退ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ事業施行者ハ其ノ通常受クベキ損害ニ限リ之ヲ補償スベシ

第十八條 第十四條ノ規定ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ對シ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 第十七條第二項ノ規定ニ依リ收用審査會ノ決定ニ對シ不服アル者ノ出訴ニ付テハ土地收用法第八十二條

第二十條 公益法人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依リ改良事業ヲ行フコトヲ得

本法ハ第二條ノ規定ヲ除ク外前項ノ認可ヲ受ケタル法人ニ之ヲ適用ス但シ第一條及第八條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中公共團體トアルハ前項ノ認可ヲ受ケタル法人トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣(安達謙藏君) 不良住宅地區改良法案ノ提出理由ヲ簡單ニ説明致シマス、住宅政策ハ國民ノ實生活ニ關係スル所ガ最も緊密ナルモノガアリマス、政府ハ常ニ深ク意ヲ此ニ用ヒマシテ、各般ノ施設ヲ講ジテ社會ノ福祉増進ヲ圖ルニ於テ遺漏ナカラシコトヲ期シ居ル次第アリマス、然ルニ都市人口ノ急激ナル増加ニ伴ヒマシテ、各地ニ不良住宅ノ密集地區ヲ現出スルニ至リタリマス、蓋シ是等ノ地區内ノ居住者ハ概ネ勞働者、日傭人夫其他ノ少額所得者デアリマシテ、其職業ノ關係上、市街地ヲ遠ク離レテ居住スル能ザルノ實情ガアルノデアリマス、然ルニ是等ノ地域ハ多クハ地盤ガ低下ナルガ爲メ濕潤ナルヲ免レザルノミナラズ、其通路ハ狹隘錯雜ヲ極メマシテ、建物及居住ノ密着狀態、建物構造上ノ缺陷及不良ナル管理ト相俟チマシテ、地區内居住者ノ生活狀態益々不良ナラシメ、衛生保安等ノ點ヨリ看過スベカラザルモノガアリマス、尙ホ其精神上ニ及ボス影響ニ至リマシテハ、洵ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアリマシテ、延イテ一般社會生活ニ及ボス影響亦頗ル重大ナルモノガアリマス、而シテ是等ノ不良住宅ノ密集地區中、約百戶以上集團セルモノハ、大正十四年六月ノ調査ニ依リマスルト、其地區數ハ二百十七箇所、地區内ノ居住者世帯數ガ約七万二千餘、其人口ガ三十万九千餘デアリマス、仍テ不良住宅密集地區ニ對シ、整理改良ノ施設ヲ行ヒ、以テ地區内ニ居住スル勞働者其

他ノ少所得者ノ生活ノ安定向上ヲ圖リ、併セテ社會ノ福祉ヲ増進致スコトハ、住宅政策トシテ最も緊密ヲ要スルモノト謂ハナケレバナリマセ、是レ本法案ノ提出致ス所以デアリマス、而シテ本法案ノ立案ニ付キマシテハ、曩ニ社會事業調査會ニ諮問致シマシテ、不良住宅密集地區ノ改善方策ニ對スル答申ヲ得マシテ之ヲ參酌スルト共ニ、事業施行ノ圓滑ヲ期スルコトニ留意致シタ次第デアリマス、此問題ハ社會政策上緊要ナル問題デアリマスカラ、何卒御審議ノ上ニ速ニ御協賛アラシコトヲ希望致シマス

○議長(粕谷義三君) 日程第六、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○砂田重政君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○砂田重政君 議事日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、即チ安藤正純君提出、東京市政ニ關スル緊急質問ヲ議題トシ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニハ成規ノ賛成アリト認メマス、此動議ヲ容ル、ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、東京市政ニ關スル緊急質問、其趣旨辯明ヲ許シマス、安藤正純君

東京市政ニ關スル緊急質問(安藤正純君提出)

○安藤正純君 昨ハ最近東京市會ニ起リマシタル重大問題ニ付キマシテ、自治體ノ監

督者デアル内務大臣ヲ初メ、其他此事件ノ質問ニ關係アリト思ヒマス所ノ當局ニ對シマシテ、質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、先づ内務大臣ニ質問シタイ、今回東京市ガ市會ニ提案ヲ致シマシタ所ノ、東京瓦斯會社報償契約ノ改訂ト、之ヲ遂行スル手段トハ、是ハ何人ガ見マシテモ洵ニ市民ノ利益ヲ無視蹂躪スル非常ノ暴舉ト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)何故ニ東京市及東京市會ハ東京瓦斯會社ト云フ一會社ニ私スル爲ニ二百万市民ノ利害休戚ヲ顧ミズシテ、斯ノ如ク横暴ヲ振舞フノデアルカ、一體大正八年ニ東京瓦斯會社ガ瓦斯料金ノ値上ヲ致シマシタ時ハ、炭價ガ——石炭ノ價格ガ——騰貴シタカラシテ値上ヲスルト云フ理由ニ基キタノデアリマシテ、隨テ炭價ガ下落シタ場合ニハ値下ヲスルト云フ約束ガアルノデアリマス、之ニ依リテ東京市會ニ於テハ、最近昨年ノ九月八日ヲ以テ瓦斯料金ノ適當ノ値下ヲ爲スベシト云フ決議ヲ全會一致ヲ以テ決議ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ今回東京市當局ハ此瓦斯會社ニ向ヒマシテ、市會ガ全會一致ヲ以テ決議シテ居ル所ノ料金ノ値下ト云フモノ、要求ヲシナイノデ、反テ會社ノ申請ニ依リ九朱ノ配當制限ヲ撤廢シテ一割ニ歩マデ、之ヲ許スト云フコトニ報償契約ノ改訂ヲ爲シ、又一ツニハ重役ノ賞與金及會社ノ積立金ハ、總利益額ノ百分ノ十五ヲ超過スルコトヲ得ズト云フ第九條ヲ削除スル報償契約ノ改訂ヲ突然トシテ提議シタノデアリマス、言フマデモナク東京市民ニ對シテ此位不利益ナコトハナイ、是レ東京市當局ガ或ル一派ノ議員ト結ビマシテ東京市民ノ利益ヲ斷斷シ、會社ノ私腹ヲ肥シ、且ツ己等ノ爲ニ私セントスル所ノ暴舉ニ非ズシテ何ゾヤト謂ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)、而シテ此案ニ對シマシテ、東京市會ノ最大多數ヲ制シテ居ル所ノ革新會、即チ憲政派ノ議員ヲ以テ滿タサレテ居リマス所ノ革新會ハ、此重大ナル案件ニ對シテ即決ヲ主張シテ居ル、東京市ノ理事者モ亦其即決說ニ賛成ヲ致シマシテ、市當局ト革新會議員トガ同腹ニナ

テ横車ヲ押シテモ之ヲ即決ヲシテシマハウトシタノデアリマス、一體四億圓餘ノ大豫算ヲ有シテ居ル所ノ東京市ハ、從來百圓ノ土地ヲ賣買致シマスノモ必ズ委員付託ト致シテ、慎重ナル審議ヲ遂ゲタノデアリマス、然レニ今回ノ報償契約改訂ハ九朱ノ配當ヲ一割ニ二分マデ伸バサウト云フノデアル、會社ガ市ニ對スル公納金ノ十分ノ六ト云フモノヲ差引キマスト一割八厘マデハ上ゲ得ラレト云フコトニナルカラ、數字ヲ以テ勘定致シマス、是ガ爲ニ市民ノ負擔ト云フモノハ百餘萬圓ノ重キニ達スルト云フ勘定ニナルノデアリマス、縱ンバ公納金ガ十分ノ八ト改訂サレモ、市民ノ負擔ガ非常ニ加重サレルノハ言フマデモナイ、斯ノ如キ東京市民ニ對シテ重大ナル關係ノ及ボス問題デアリ、況ヤ東京市ハ大震災災ノ災厄ニ罹リマシテ、今日表面ニ於テハ聊カ其外觀ハ繕テ居リマスアレドモ、内容ノ缺陷ニ至テハ洵ニ言フニ忍ビザル苦シイ狀態ニ在ルノデアリマス、斯ノ如ク二百万市民ニ對シテ利害ノ大關係ヲ持ツ所ノ此事柄ヲ委員付託ニシナイデ、即決ヲシヤウ、即決ヲスルト云フコトヲ承知ヲシナケレバ、決シテモトモトナ壓迫ヲシテモ、即決ヲサシテシマハウト云フ此裏面ニハ、何等カ餘程重大ナル醜怪事實ガ伏在シテ居ルト見ナケレバナラヌマイト思フ(拍手)抑、内務大臣ハ自治體ノ監督者デアリマス、斯ク市民ヲ無視シテ横暴ナル振舞ヲナス場合ニ立至テモ、現内務大臣ハ自治體ニ對スル監督權ヲ行使セラレト云フ所ノ御考ハナイノデアリマス、私ハ内務大臣ノ責任上默視シテ居ル時デナイト思フ、之ヲ明瞭ニ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、第二ニ司法大臣ニ質問ヲ致シタイ、聞ク所ニ依リマス、今回ノ事件ニ付テハ中々複雑ナ事情ガ裏面ニ伏在シテ居ルヤウデアリマス、瓦斯會社ガ昨年一億圓ニ増資ヲ致シタ時ニ、新株ノ百十万株ノ中、十五萬五千株ト云フ功勞株ヲ分配スルニ當リマシテ、此中五萬五千株タケハ行方不明ニナツテ居ル、是ハ殆ド公然ノ秘密デアリマス、此不明ノ五萬五千

株ト云フモノガ、恐ラク今回斯ル重大案件委員付託ニモシナイデ、一夜ニ即決ヲシテシマハウト云フ、所謂即決ノ背後ニ閃イテ居ル所ノ一大勢力デハナカラウカト思フノデアリ(拍手)而モ其行方不明ノ株ノ大元締ヲシテ居ルノハ政界ニモ關係ノアル所ノ東京市政界ニ於ケル有力者デアルト云フコトモ、是モ亦殆ド公然ノ秘密ニナツテ居ルノデアル、司法大臣ハ此點ニ付テ、司法權ノ發動ハナイモノデアルカ、司法權ガ飽迄獨立ナラバ、當然其活動トナラネバナラス、私ハ之ヲ質問シタイノデアリマス、向ホ聞ク所ニ依リマス、今回ノ報償契約即決ノ爲ニ運動費ヲ十二萬餘圓使シテ居ル、其十二萬餘圓ノ運動費何處カラ出シテ居ルカト云フト、是ハ瓦斯會社カラ出シテ居ラナイ、從來瓦斯會社ノ問題ニ付テハ、醜怪事件ガ屢アリマシテ、懲リテ居ル故カ、今回ハ瓦斯會社自身デ此運動費ヲ出シテ居ラヌ代リニ、瓦斯會社ト姉妹關係ノアル「コークス」會社カラ此運動費ガ出テ居ル、斯ウ云フコトハ世上一般ニ言ヒ傳ヘラレテ居ルノデアル、之ニ對シテ犯罪捜査ノ手ガ進ンデ居ルカドウデアルカ、又今日マデ手ヲ著ケテ居ラナイトスレバ、相當明ニナツテ世上專ラ風説サレテ居ル此事件ニ付テ、今後捜査ノ手ヲ御進メニナル御考カドウデアルカ、之ヲ明瞭ニ司法大臣ニ承リタイノデアリマス(拍手)、第三ニ商工大臣ニ質問ヲシタイ、瓦斯ノヤウナ獨占事業ハ必ズ將來市營トシテ買上ゲル時機ガ來ルニ違ヒナイ、報償契約ニ依レバ、市ノ買收ノ場合ハ、其價格ハ株券ノ時價五年ノ平均、又ハ平均配當額ノ二十倍ト云フコトニナツテ居リマス、然ルニ現在ノヤウナ九朱ノ配當ヲ致シマスルト、一年九百萬圓、之ヲ二十倍シテ一億八千萬圓デ濟ムノデアリマスガ、若シ一割二分マデ今度之ヲ許スコトニナルト、一年千二百萬圓ノ二十倍ト致シマシテ、二億四千萬圓ト云フコトニナル、サウ致スト、其差六千萬圓、此六千萬圓ハ看ス々々東京市民ガ大震災ノ傷痍癒ヘザル上ニ更ニ過重サレルト云フコトニナル、之ニ對シテ商工大臣

並ニ内務大臣等ハ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレルノデアルカ、之ヲ質問シタイノデアリマス、第四ニ此問題ト直接ノ關係ハナイカモ知レナイガ、向ホ是ハ此際能ク考ヘナケレバナラヌコトデアルト思フ、私ハ此際序ニ文部大臣ニ質問ヲ致シタイノデアル、思想問題ハ現在言フマデモナク喧マシイ、殊ニ現文部大臣ハ非常ニ國民ノ思想ヲ憂ヒラレテ居ルヤウデアル、而シテ岡田文部大臣ノ思想ハ謂ハバ監督思想デアル、到ル所ニ此監督思想ヲ發揮シヤウトスルヤウニ見ラレル(拍手)監督思想モ或ル場合ニ於テハ結構デアル、ダガ其監督思想ヲ文部大臣ガ行使スルニ當テ、都合ノ好イ所ニバカリ監督思想ヲ現ハシテ、都合ガ惡クナルト監督思想ノ影ヲ潜メルト云フニ至テハ、岡田支相ノ監督思想ハ徹底シナイ、是デハ便宜的監督思想トナツテシマヒハセヌカ(拍手)謂フマデモナク九朱トナツテ居ルモノガ一割二分ト云フコトニナツテ株主ノ利益トナル、會社ノ利益トナル、其結果今デハ値上シナイト云フモノ、何時カ値上ヲスルト云フコトニナル、隨テ苦シムノハ市民、市民ノ中デモ最モ苦シムノハ中産階級以下下層階級、無産階級、勞働階級ノ者ガ最モ生活ノ脅威ヲ是ガ爲ニ受ケルト云フコトニナルノデアル、思想ノ善導ト云フコトハ唯、机上ノ上バカリデハ駄目デアル、斯ノ如ク日常生活ノ問題カラシテ多數國民ノ思想ヲ惡化ニ導クコトガ最も多イト思フノデアリマス、學問ノ自由ヲ越ヘテ稍、其擧外ニ出テ居ル、宜シクナイト云フテ之ニ嚴重ナル監督手段ヲ施ス、ソレハ或ハ場合ニ依ッテハ善イカモ知レマセヌ、唯、ソコマデニ監督思想ヲ及ボシテ居ル所ノ文部大臣ハ目ニ見エテ勞働階級、無産階級、中産階級ノ生活ノ脅威ニナルト云フ所ノ今回ノ問題ニ付テ、ソレハ俺ノ監督外デアルト言フテ抛棄セラレル御考デアルカ、願クハ國ヲ憂ヘ思想ヲ憂フル所ノ文部大臣ノ御考ヲ煩シタイノデアリマス(拍手)最後ニ今一ツ内務大臣ニ質問シタイ、此報償契約即決ノ爲ニ憲政派ノ議員ハ結束ヲ固メテ非常ナ横暴ヲヤ

タコトハ明カデア、殊ニ自分ノ派ノ議員中節ヲ枉ゲナイデ、委員付託デナケレバナラヌト云フテ聽カナク、數名ノ議員ニ對シマシテ、憲政會ノ壯士ヲ送テ之ヲ毆打シ、負傷ヲサシタト云フガ如キ所ノ狀況ヲ呈シタノデアリマス、而モソレヲ指圖シタ人ハ誰デアルカ、風聞スル所ニ依レバ政府ノ立派ナ政務官デアッタ人デアリマス、政務官デアッタ人デハナイ、今日デハ政務官デアッタ人ダガ、二三日前マデ暴行事件ノ起タ時マデハ、現在ノ政務官デアル、ソレガ爲ニ自分ノ本職タル議會ノ方ノ職務ヲ廢シテモ、東京市ノ方ヘ出掛ケテ自派ノ言フ事ヲ聽カヌ議員ヲ毆ル差圖マデシタ、直接ニシタカ、間接ニシタカ知レズガ、左様ナコトマデ致シテ居テ、差支ナイモノデアルカドウカ、一體政務官ニハ官吏服務規律ト云フモノハ適用セラレナイモノデアルカ、又政務官ニ限テハサウ云フコトヲシテモ、辭表ヲ出セバソレレデ済シマフコト云フコトニ、政務官ニ限テサウ云フ恩典ヲ浴セシメテ置クコト云フ意味デアルカドウカ(拍手)此點ヲ質問シタイノデアリマス、抑、現内閣ハ明ケテモ暮レテモ綱紀肅正ヲ標榜シ、社會政策ヲ高唱シテ居ル、然ルニ今東京市ノ此問題、立派ナ非社會政策デアル、而シテ之ヲ強行スル爲ニハ官紀紊亂、綱紀紊亂ノ甚シキモノヲ現出致シタノデアル、之ヲ監督スル所ノ内務大臣ハ、之ニ對シテ對岸ノ火災視シテ構ハナイデ置ク考デアルカ、監督權ノ行使ハ此所ニ及バナイノデアルカ、此問題ハ單ニ東京市及東京市民ノ問題デハナイ、延イテハ自治體ノ破壞ト云フ問題ニ到著スルト思フノデアリマス、大臣諸公ノ明瞭ナル御答辯ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 内務大臣臨時代理安達謙藏君

○國務大臣(安達謙藏君) 只今東京市會ニ於ケル東京瓦斯株式會社ト、東京市トノ報償契約ニ關スル市會ノ問題ニナツテ居リマスコトニ付テ、安藤君ノ御質問デアリマ

スルガ、御承知ノ通り此問題ハ只今市會ノ問題ニ上テ居リマス、市會内部ニ於ケル問題デアリマス、市會内部ニ於テ即決可決ガ宜シイ、或ハ委員付託ガ宜シイト云フヤウナ論ガアツタ、内務大臣ガ監督權ヲ以テソレハ即決シテハ宜シクナイ、委員付託ニセヨ、監督權ト云フモノハ、サウ云フモノニマデ干涉スベキモノデハナカラウト思フ、之ヲ簡單ニ申シマスルト、現在ニ於キマシテハ、内務大臣トシテ此監督權ヲ行使スルヤウナ場合ニ到達シテハ居ラヌト私ハ考ヘテ居リマス、内務省ハ何等監督上意テハ居リマセヌ、御承知ノ通り今日ノ此地方制度アリマス、マダ府知事カラモ何等報告ヲ得テ居リマセヌガ、此地方自治團體ニ對スル監督權ト云フモノハ、濫ニ行使スベキモノデハナカラウト考ヘマス、只今安藤君ハ市民ノ利益ヲ無視シ蹂躪シタル無謀ナル提案ト云フ、斯ウ云フ御言葉デアリマシタガ、果シテ其通りデアッタラ、是ハ東京二百萬市民ヲ代表シテ居ル所ノ多數ノ市會議員ノ人ガ居ラレマスカラ、私ハ市會議員ハ斯ル市民ノ利益ヲ無視シ蹂躪シタルヤウナ、無謀ナル提案ヲ贊成セラル、トハ思ヒマセヌ、私ハサウ考ヘナイノデアリマス、ソレデ東京市民代表者ノ其市會ニ於キマシテ、私ハ相當ナル議決ガアルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ憲政會員ヲ以テ充サレタル革新會云々ト云フ御話デアリマシタガ、是ハ少シク御言葉ガ行過ギテハ居ラヌカト考ヘマスガ、革新會ナリモノハ決シテ憲政會ノ別名デハアリマセヌ(ノウ)革新會ノ中ニ八十人以上上憲政會系ニアラザル人ガ居ラレト云フコトヲ斷言シテ置キマス、ソレガ眞相デアリマス、又此自治團體ニ對シマシテハ、選舉其他ニ付キマシテ憲政會本部ト致シマシテハ、何等是迄關係シタコトハアリマセヌト云フコトヲ斷言シテ置キマス(拍手)又東京市ノ選出ノ代議士ニ於キマシテモ多數居ラレマスガ、多數ノ御方ハ此問題ニ付テ何等是迄承知ガナイト云フコトヲ私斷言シテ置キマス、ソレカラ政

務官デアッタ人ガ此問題ニ付テ壯士ヲ教唆云々ト云フヤウナコトガアリマシタガ、是ハ三木前大藏參事官ノコトヲ御話デアリマシタカ知ラヌガ、私ハ壯士ヲ教唆シテ同士ヲ毆打セシメタト云フヤウナコトハ、萬々無イモノト確信シテ居リマス、是ダケ御答致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 江木司法大臣

○國務大臣(江木翼君) 安藤君ノ御尋ノ如キ事實ニ對シマシテハ、未ダ何等ノ報告ヲ受ケテ居リマセヌ、サリナガラ苟モ犯罪行為ガアリ、其行為ガ縱令續續デアラウト、暴行デアラウト、犯罪行為ガアリマシタ場合ニ於テハ、司法官憲ニ於キマシテハ、唯、法ノ命ズル所ニ從ヒマシテ嚴正ノ處置ヲ執ル外ナイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 岡田文部大臣

○國務大臣(岡田良平君) 只今安藤君カラ文部大臣ハ監督思想ニ富ムト云フ御説ガ出マシタガ、監督思想ト申スコトハ私ニハ十分ニ了解ガ出來マセヌガ、兎ニ角私ニハシマシテハ、法律勅令ノ命ズル所ニ從ヒマシテ監督スベキハ嚴重ニ之ヲ監督致サンケレバ、自分ノ義務ガ濟マヌト思フテ居リマス、是ガ私ノ職務デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ此監督ノ範圍ヲ超越スルト云フコトハ是亦職務ニ背ク譯デ、左様ナコトハ決シテ致サヌト云フ考ヘヲ持テ居ルノデアリマス、東京市ノ瓦斯問題ニ付テ私ガ監督權ヲ振フト云フコトニナリマシタナラバ、果シテ如何デゴザイマセウカ、私ハ少シク超越ニ屬スルコト、考ヘテ居リマス、隨テ又何等監督ハ致シ居リマセヌ(拍手)

○議長(粕谷義三君) 藤澤商工大臣

○國務大臣(藤澤義之輔君) 只今安藤君カラ所謂報償契約ノ第六條ノ配當金、ソレカラ同ジク第十三條ノ買收價格ノ件ニ關シテノ御尋ガアリマシタ、瓦斯事業法第十二條ノ第四項「市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル決定ニ基キ瓦斯事業者

カ市町村ノ承認ヲ求メタル場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス」斯ウアルノデアリマシテ、配當金ニ付テハ只今市會ニ於テ爭テ居リマシテ、未ダ其決定ヲ見ナイヤウデアリマス、未ダ其報告ヲ受ケテ居リマセヌカラ確タルコトハ申上ダ兼ネマスケレドモ、事實其通りデアルヤウデアリマス、サウシテ見マスレバ、未ダ監督權ヲ行フ、即チ爭議ニ對シテ裁定ヲ致ス時デナイノデアリマス、買收ニ關シテハ尙更ノコトデアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒマス

○安藤正純君 簡單デスカラ此處デ述ベタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○安藤正純君 私が質問ニ對スル大臣ノ御答ハ總テ唯、表面的デ責任ダケヲ免レヤウト云フ御答辯デアリマシテ、一向満足ヲ致シマセヌ、唯、併ナガラ尙ホ一應簡單ニ申上ダテ置キマスガ、安達内務大臣代理ノ御答、市民ノ代表者デアル市會議員ガ相當ニ解決ヲスルデアラウト言ハレル、ソレハ當然市會ニ懸テ居ルコトデアリマスカラ、市會ガ之ヲ何等カ決メルノデアリマス、併ナガラ目ニ見エ市民ノ利益ヲ蹂躪ヲ致シテ居ル所ノ此報償契約ノ改訂ヲ、理事者ガ會社ノ申請ニ基イテ之ヲ提出致シテ居ル、其自治權ノ監督ヲシテ居ルノガ内務大臣デアリマスカラ、目ニ見エソレガ自治體ノ不利益ニナルト云フコトデアラナラバ、監督者タル内務大臣ハ、豫メ之ニ對シテ干涉ニ及ラザル範圍ニ於テ適當ナル注意ヲ監督ヲ之ニ及ボスト云フノガ當リ前デハナイカト思フ、私ハ其點ヲ伺ヒタイノデアル、市會ノ講釋、市會ノ組織ヲ此處デ伺ヒタイト思フテ居ルノデアリマセヌ、ソレカラ革新會ハ憲政會ト云ハレテハ困ル、革新會ノ中ニ憲政會デナイ議員モ何人カアルト云フ、ソレハ何人カアルデアリマセウ、又表面ハ憲政會ニ席ヲ列シテ居ル人バカリデハナイカモ知レナイ、私ハサウ云フ表面ノコトヲ言フテ居ルノデハナイ、結局革新會ト云フノハ憲政會派トシテ世間カラ看做サ

レ、市民カラ看做サレテ居ル、其革新會ガ實ニ横暴ナル行動ヲ執テ、自分ノ派ノ中デ意見ガ違フ委員付託ニセヨト言フ議員ヲ壓迫シテ、壯士ヲ伴レテ來テ打毆シマウト云フヤウナコトヲシテ居ルノデアリマス、ソレガ革新派デアル、憲政會派デアルト云テ東京市民カラ睨マレテ居ルノデアリ、私ハ東京市政ニ關シテハ、政友會ノ憲政會ノ上云フノデハナイ、是ガ爲ニ憲政會ノ名ガ汚レルト云フコトヲ寧ロ私ハ憲政會ノ爲ニ惜ム、貴方ガサウ云フ風ニ御辯ジニナリマシテモ、革新會ハ横暴デアル、今日横暴ナ横車ヲ押通サウトシテ居ル派ハ憲政會デアルト云フコトハ、内務大臣ハ御否定ニナッテモ、市民ハ之ヲ知ラテ居ルト云フコトヲ今日此處デ申上デ置キマス（拍手）ソレカラ參與官ノコトデアリマス、是ハ聲ガ小サクテ聴取レマセズデシタガ、現在參與官ノ在官當時ニ本當ノ職務デアル議會ノ方ヲ缺席シテモ、市會ヘ懇々毎日足ヲ運シテ、サウシテ色々ナ畫策ヲシテ居タコトハ、是ハ事實デアリマス、之ニ對シテ官吏服務規律ヲ適用シテ、モット嚴重ニ何故之ヲ取締ラナイノデアルカ、又サウ云フ失態ヲ仕出カシタ者ニ對シテ——何故之ニ對シテモット嚴重ナル處分ヲ行ハナイノカト云フコトヲ御間キ申シタノデアリマス、併ナガラ之ニ對シテ別ニ御答辯ガ出來ナケレバ敢テ求メル必要モゴザイマセヌ、唯、是ダケノコトヲ申上デ置キマス、又司法大臣ニ對シテ一言シテ置キマスガ、報告ヲ受ケテナイ、誰モサウ云フ報告ヲシナイデ居ルカモ知レナイ、サウ云フ後暗イコトガアッタト云フコトヲ、誰モマダ報告シナイカモ知レナイ、併シ報告スルト云フノハ司法大臣ノ部下ニ居ル人ガヤルノデアルカラシテ、サウ云フ人ガ凡暗デアレバ、マダ貴方ノ所マデハ報告ガ届カナイ譯デス、併シ國家ノ政ハソレデハ困ル、ソレデハ帝都ノ、此輩ノ下ニアル東京市政ガ何時モ暗クナッテ困ル、今度又從來アタ醜怪ノ事實ガ茲ニ再現シヤウト云フコトヲ憂フルノデアリマス、世ノ中ニハモウ十分公然ノ秘密トシテ傳ヘテ居

ル問題デアルカラ、既ニ搜查ノ手ヲ進メテ居ラレナケレバナラナイ、殊ニ斯ウ云フヤウナ色々ナモノヲ御探リニナル、探偵ヲ爲サルト云フヤウナコトニハ特ニ敏感デ居ラレル現司法大臣ノコトデアルカラシテ、既ニ調査ノ手ヲ御進メニナッタカドウカ進メナケレバ早ク進メネバナラヌト云フコトヲ質問シ、且ツ希望シタノデアリマス、商工大臣、文部大臣ノ答辯ハ勿論満足セヌガ、是デ省略ヲ致シテ置キマス

○砂田重政君 再ビ議事日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、即チ日程第二十九、北海道農地特別處理法案ヲ繰上ゲテ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、引續キ其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

（賛成「ト呼フ者アリ」）

○議長（粕谷義三君） 砂田君ノ日程變更ノ動議ニハ成規ノ賛成アリト認メマス

○工藤鐵男君 此ハ此際質問ガアリマス、日程變更ノ動議ニ對シテ質問ガアリマス

○議長（粕谷義三君） 動議ハ既ニ議題ニナッテ居リマス、成立シテ居リマス、工藤鐵男君

○工藤鐵男君 此席ヨリ御許ヲ願ヒタイ、案件ハ澤山アルノデアリマスガ、此北海道農地特別處理法案ト云フモノハ昨日終了致シマシテ、未ダ吾々ハ其詳細ナル委員會ノ筆記スラモ得ナイヤウナ状態デアリマス、澤山ナ重要案件ヲ控ヘテ僅カ四時間ノ間ノミ審議ヲシテ、六千万圓ノ公債ヲ發行スルト云フコトヲ直ニ日程ヲ變更シテ、重要ナル案ヲ第二ニ廻ハスト云フ理由ハ何處ニ在ルカト云フコトヲ、私ハ發言者ニ質問致シタイノデアリマス、明快ナル御答辯ヲ願ヒマス

○砂田重政君 只今ノ質問ニ御答ヲ致シマス、是ハ從來ノ先例ニ依リマシテモ、議員提出ノ案ノ前ニ當リテ、委員長ノ報告ヲスベキ状態ニマデ進シテ居リマスル日程ノ上テ居ル場合ニハ、其第一讀會ノ續キヲ開クト云フコトガ、從來ノ先例ニナッテ居ルノデゴザイマス、其先例ニ依リテ、本日午前十一時憲政會ノ諸君、本黨ノ諸君ト、政友會

ノ人々ガ相集シテ一致シテ、是ハ日程ヲ變更シテ、茲ニ上スト云フ約束ガ成立致シテ居ルノデアリマス、決シテ此重大ノ案ヲ咄嗟ノ間ニ速ニ之ヲ日程ヲ變更スルガ如キ行動ヲ執ツタモノデハ斷ジテナイノデゴザイマス、何卒此意味ニ於テ此日程ハ變更セラレマシテ、直ニ審議セラレンコトヲ望ミマス

○議長（粕谷義三君） 採決ヲ致シマス

○工藤鐵男君 此ハ趣旨ガ徹底シナイヤウデアリマスカラ一應御許ヲ願ヒタイ

○議長（粕谷義三君） 何デスカ、マダ質疑デスカ

○工藤鐵男君 唯、先例ノミヲ以テヤルト云フコトデゴザイマスレバ、現ニ之ニ相當案ガアルノデアリマス……

○議長（粕谷義三君） 討論ハ許シマセヌ

○工藤鐵男君 故ニ私ハ此點ニ對シテ反對デアルト云フコトヲ主張シテ置キマス

○議長（粕谷義三君） 採決ヲ致シマス、砂田君ノ日程變更ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

（賛成者起立）

○議長（粕谷義三君） 起立多數ト認メマス、日程ハ變更セラレマシタ

（此時發言スル者多シ）

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス、日程第二十九北海道農地特別處理法案ノ第一讀會ノ續キヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス

委員長原夫次郎君

第二十九 北海道農地特別處理法案

（丸山浪彌君外六君提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一 北海道農地特別處理法案（丸山浪彌君外六名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告屆候也

昭和二年二月四日

委員長 原 夫次郎

衆議院議長粕谷義三殿

（原夫次郎君登壇）

○原夫次郎君 此ハ只今議題ト相成タル北海道農地特別處理法案ニ付テノ委員會ノ

經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、此委員會ハ前後三回ニ亙リテ會議ヲ致シマシテ、其審議ハ殆ド十二時間ニ亙リテ審議ヲ致シタノデアリマス（發言スル者アリ）

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス

○原夫次郎君（續） 而シテ提案者側、政府側、反對者ト各、三ツ巴ニナッテ、色々論議ヲ開ハサレタ委員會デアリマス、先ヅ大體ノ議論ハ、政府側ニ於キマシテハ、本案ハ政府カラ別ニ提案致シタル所ノ北海道拓殖第二期計畫ガ提案ニナッテ居ルノデアルカラ、此案ガ成立致シテ、此計畫ノ遂行ノ結果ニ鑑ミマシテモ、本案ハ其時ニ之ヲ考慮ヲ致シテ如何デアルカ、斯ウ云フ主張デアルノデアリマス、又反對側ニ於キマシテハ、主トシテ憲政會側ノ委員諸君ニ依リテ提唱致サレタノデアリマスガ、其意見ノ大要ハ、既ニ北海道拓殖第二期計畫ト云フモノガ提案ニナッテ居ル以上ハ、本案ハ全ク此北海道拓殖ノ所謂屋上ニ屋ヲ築クヤウナ有様デアアル、其意味ニ於テ色々ナ質問應答ヲ加ヘラレタノデアリマス、又本案ノ提案者側並ニ其賛成側ニ於キマシテノ主張ハ、全體此北海道ノ土地ト云フモノニ付キマシテハ、是ハ内地ト趣ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、目下人口若クハ食糧問題ヲ解決シナケレバナラナイ場合ニ、北海道ノ拓殖ニ付テハ特別ナル眼識ヲ以テ、特別ナル政策ニ基イテ、特ニ此處理法案ヲ提出致シテ、拓殖ノ歩ヲ進メナケレバナラヌノデアリマス、縱ヘ拓殖第二期計畫ガアツテモ、本案トハ決シテ矛盾衝突スルモノデハナイノデアアル（ヒヤ）（スウ云フ見解ニ基キマシテ、結局委員會ニ於キマシテハ、委員長タル私ヲ除イテ贊否兩者トモ同數デアッタノデアリマス、ソコデ私ハ此案ニ賛成ヲ致シマシテ、多數ヲ以テ本案ハ委員會ニ於テ可決相成タノデアリマス、此段御報告ヲ申上ゲマス（拍手）

○議長（粕谷義三君） 本案ニ對シテハ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、工藤鐵男君

○工藤鐵男君 此席ヨリ御許ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 登壇ヲ願ヒマヌ
○工藤鐵男君 只今本案ニ關スル原委員長ノ御報告ガアリマシタ、議論ノ要點ハ拜聴致シマシタガ、六千万ノ圓ノ交付公債ヲ發行スル此大ナル法案ノ、而モ新事業ノ基礎ニ付テノ何等ノ御報告ガ無イノハ悲シム者デアリマス、又委員會ノ記録ニ依リマスレバ、大法案ハ僅カ四時間ソコノ時間ノ間ニ質問應答ヲ重ネラレテ、討論ニ這入テ居ルモノデアアル、此ニ於テ吾々ハ本

案ニ對スル態度ヲ決スル爲必要ナル要件ハ、利用スベキ土地、此法律案ガ成立シタ後ニ、其適用ヲ受ケテ而シテ其利用スベキ土地ガ如何ナル面積デアツテ、如何ナル價格デアアルカト云フコトニ付テ、私共ハ明ニ致シタイノデアリマス、委員會ノ速記ガ出來マシタナラバ、私共ノ疑問ノ一部ヲ諒解シ得ルノ途ガアリマセウカ知リマセヌガ、只今ノ所ニ於テハ其途ノ無イノヲ誠ニ遺憾トスルノデアリマス、第一御尋シタイノハ、委員會ニ於テ本案提出者ノ主張セラレテ居ル農耕ニ適スル民有地ニシテ、全ク未墾ノ儘ニ放棄セラレ、又ハ其利用ノ完キヲ得サルモノ等約百二十万町歩アル、此民有地ガ多クアルガ爲ニ、開墾ガ阻碍セラレテ居ルト云フ所ノ主張ハ、本案ノ成立ノ大ナル原因ヲ成シテ居ルノデアリマス、然ラバ委員長ニ對シテ先ヅ以テ伺ヒマス、本法案提出ノ理由書中ニ在ル百二十万町歩ノ中、如何ナル種類ノ地目、如何ナル面積、而モ之ヲ例ヘバ上中下ニ分タナラバ、大體ニ於テドレダケノ價格ヲ以テ之ヲ買收スルノデアアルカト云フコトハ、委員會ニ於テ明瞭トナツテ居ルカドウカト云フ點ヲ先ヅ以テ伺ヒマス、次ニハ此法律案ハ色ニナ點ヨリ私共ハ幾多ノ疑問ト、而モ更ニ進ンデ實情ヲ討究致シマスルコト云フト、衆議院創マツテ以來稀ニ見ル所ノ醜怪ナル分子ヲ含シテ居ルノデアリマス、何故カトナレバ、假ニ百二十万町歩ノ土地ハアリト致シマシテモ、是等ハ數年ニ亘テ地上ノ材木ヲ伐去テ相當價格ノアルモノヲ懷口ニ入レテ、

而シテ十年五年ソレヲ其儘ニ放置シテ居テ、許可ヲ受ケル際ノ條件ト致シマシテノ土地ノ開墾其他ノ仕事ヲ怠シ、之ヲ爲サル土地ヲ、政府ハ更ニ高價値段ヲ以テ買上ダナケレバナラヌ義務ガ何處ニ在ルノデアリマスカ(ヒヤ)、「拍手」開墾者ハ國家ノ利益ノ爲ナリト稱シ、國富ヲ増加スル爲ナリト稱シ、而モ數年ニ亘テ之ヲ放置シテ、何等資本ヲ投ゼザルモノ、單純ナル土地ノ「ブローカー」ノ手ニ渡テ居ルモノヲ、一會社ヲ以テ而モ六千町歩アルモノデアリマス、此醜怪ナル拓殖會社ハ、或時ニハ其地方ニ於ケル或ル政治家ノ財源トナツテ居ルト云フコトガ明瞭ニナツテ居ルデアリマス(拍手)國家財政ハ窮乏シ、種々ナル所ノ財源ヲ要シ、又交付公債ヲ發行致スモノニ致シマシテモ、尙且吾々ハ爲サナケレバナラナシ所ノ仕事ハ山ノ如ク諸君ノ眼前ニ展開シテ居ルノデハナイカ(拍手)北海道ノ計畫ハ現ニ豫算委員會ニ於テモ之ヲ認メラレ、自作農創定若クハ之ヲ保護スル所ノ施設ハ、諸君ノ協賛ノ下ニ數日ヲ出ズシテ是ハ成立スルノデアリマス、本案ヲ見マシレバ、政府ガ現ニ計畫シ、諸君ノ協賛ヲ與ヘント欲スル北海道拓殖案トハ、別ノ意味ニ於テ此法律ヲ作ラントスルノデアリマス、ケレドモ、其理由ハ同ジク自作農創定ト云フ近來流行看板ニナツテ居ル其看板ヲ利用シテ、以テ不當橫暴ナル法律ヲ通過スルノハ、衆議院ノ名譽ノ爲ニ私ハ惜ムノデアリマス、法律ノ實體カラ見マシテモ、幾多私共論議スベキ點ガアル、第一ニハ凡ソ所有權ナルモノハ、憲法上保障ニ依ツテ侵害セラル、コトナシ、公益上法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外デハアリマス、ケレドモ、先ヅ以テ所有權ニ對シマシテ、憲法ハ特ニ明確ニ吾々ニ保障ヲ示シテ居ルノデアリマス、然ルニ假令公益ノ名ニ於テ法律ヲ制定致ストハ申シナガラ、此憲法上保障セラレタル所有權ヲ、微々タル一地方長官ノ爲ニ、而モ地方長官ノ諮問機關アルカノ如キ機關ノ決議ヲ經テ、以テ一長官ニ吾々ノ所有權ヲ侵害セラルガ如キ法律ハ、立

憲治下ニ於ケル一大惡法トナルノデアリマス(拍手)又其土地ヲ收用シテ利用スル場合ニ於キマシテハ、土地收用法ヲ適用スルト云フコトニナツテ居リマス、固ヨリ土地收用法ニ併行シタル所ノ價值ノ法律トシテ現ハレルノハ當然デアリマス、ケレドモ、一長官ニ此絶大ナル權限ヲ與ヘ、動モスレバ北海道ハ或ル政黨者ノ一部ノ者ニ、其利益ヲ蹂躪セラレテ居ルト云フ位ノ歴史ヲ持テ居ル、此北海道ノ土地ヲ北海道長官一人ノ手ニ委シテ、以テ吾々ハ國家ノ財産ヲ奪ハレルコトハ斷ジテ欲シナイノデアリマス(拍手)故ニ此點ニ關シ、果シテ憲法上ニ於ケル所有權ハ安全ニ保障セラレ、即チ微々タル一地方長官ニ蹂躪セラレ、コトナクシテ、確實ニ是ハ保障セラレル事ニ付テ何等カ、此法律ニ關スル政府若クハ提案者ヨリ言明ガアツカドウカ、是ガ第一點、又更ニ從來本院ニ現レタル所ノ議案審議ノ慣例カラ致シマスレバ、或ハ政府當局ハ責任ヲ執ツテ法律案ヲ出ス場合ニ於キマシテハ、命令ニ委任シタル所ノ主ナル要項ハ、必ズ議員ニ示シテ以テ其協賛ノ材料トシテ居ルノデアリマス、然ルニ此處理法ハ、極メテ大切ナル所有權ノ支配ヲスルモノデアアルニ拘ラズ、此命令ノ内容ニ關シテ何等吾々ニ示ス所ガナイト云フコトハ、此一點ダケヲ以テシテ醜怪ナル事實ガ伏在シテ居ルト云フコトガ見ラレルノデアリマス、若シ此命令ニ依テ規定スル第一條、或ハ第二條、或ハ第六條等重要ナル條項ニ付テ、如何ナル命令ノ内容ヲ備ヘタルモノヲバ、此法律ノ執行ノ補助命令トシテ出スノデアアルカト云フコトニ付テ委員會ノ問題ヲ伺ヒタイノデアリマス、更ニモウ一ツハ、委員會ニ現ハレタル所ノ提案者ノ計算ニ依リマスレバ、未ダ利用セラレザル土地、草茫茫ト生エテ十分利用出來ナイ所ノ土地ヲ一段歩十二圓ヲ以テ買收セントスルヤウナコトヲ委員會デ言明シタヤウデアリマス、諸君、北海道ノ農村ヲ振興セシメ、天然資源ヲ開發スルト云フコトデアラナラバ、民有地ハ勿論デアリマスルガ、政府自體ニ於

テ其北海道拓殖案ニ示シテ居ルガ如ク、未ダ歟ヲ入レザル所ノ豐穰ナル土地ハ澤山アルノデアリマス、而シテ政府ガ自作農ニ對シテ拂下ダル所ノ金額ハ、一町歩幾何デアアルカト申シマスレバ、一町歩十五圓、一段歩一圓五十錢デアリマス、一圓五十錢ノ價ヲ以テ政府ハ其施設ヲ執行スルガ爲ニ農民ニ許可ヲスル土地ヲ一方ニ有テ居リナガラ、未ダ歟ヲ入レザル土地ニ對シ一反歩十二圓ヲ以テ買收スルノ寬大ナル法律ハ、天下稀ニ見ルノデアリマス(拍手)一例ヲ舉ゲマシテモ斯ノ如キモノデアアル、此點ニ關シ、此數字ノ基礎ニ關シテ、委員長ハ委員會ニ於テ現ハレタル正確ナル數字ヲ御示シテ願ヒタイノデアリマス、次ニハ政府ニ對シ質問致シマス、北海道長官ハ公益上必要ト認メテ土地ノ處分ヲ致シタノデアリマス、ガ、一千町歩以上有テ居ル所謂大地主ナルモノハ、幾何ノ人數ガアツテ、幾何ノ筆數ニナツテ居ルカ、聞ク所ニ依レバ、貴族院議員ノ中ニモ、富豪ノ中ニモ、或ハ本院ノ或ル隅ニ於ケル人モ、莫大ナル土地ヲ有シテ以テ高價ニ買上ダセシメント欲シテ居ルノデアリマス、天下惡法多シト雖モ、立憲治下ニ於テ、進ンデハ所有權ヲ侵害シ、退イテハ綱紀紊亂、若クハ官紀紊亂ヲ誘發スルガ如キ法律ハ、吾々トシテ協賛スルヲ斷ジテ肯ニゼザルコトヲ表明スル者デアリマス、故ニ此終リノ點ニ關シマシテハ、政府ハ正確ナル數字ニ依テ其根據ヲ示サレ、更ニ又利用スベキ土地、即チ提案者ノ主張シテ居ル所ノ買上價格其他ニ關シ申上ダタヤウナ點ニ關シ、委員會ノ經過ヲ改メテ御報告ヲ願ヒ、更ニ私ハ之ニ關シテ質疑ヲ加ヘタイト存ジテ居ル次第デアリマス(拍手)

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 只今本案ノ委員會ノ委員長トシテ、只今御質問ニナツタル工藤君ニ對シテ御答ヲ致シマス、尙ホ私ノ答ニ付テ足リナイ所ハ、更ニ本案ノ提案者カラ補足致スデアリマセウ、先ヅ冒頭ニ於テ、工藤君トモアルベキ人ガ先程御尋ノヤウナ杜撰ナル御尋ハ、洵ニ驚キ入りマシタ、工藤君ハ

此北海道に僅ニ一衣帶水ノ青森ノ選出デアル、北海道ニ付テハ餘程進シタル知識ヲ御持チニナリテ居ル方ト吾々ハ常ニ考ヘテ居タ、一體今ノ質問ハ何デアリマスカ、モウ少シ言フ謹ンデ戴キタイ、先ツ第一番ニ、本委員會ハ僅ニ四時間デ終リタナド、云フコトハ、誰カラサウ云フコトヲ聞イタノデアるか、此委員會ハ二日ニ亙リ、一度ハ午前正十時カラ始メ午後一時迄續テ、二回目ハ更ニ午前十時カラ午後一時前迄續テ、更ニ今度ハ午後二時迄テハ、一時半カラ三時半四時頃迄續テシタルデアル、其處デ工藤君ハ私ガ申上ダタ基礎アル數字ニ依テ其御計算ヲナスタナラバ、是ガ四時間デアルト云フコトハ言ヘナイダラウト思フ、又質問應答ニ付テハ、是ハ委員諸君ガ十分ナル御見識ノアル方デアリマス爲ニ、總テ質問應答ハ要點ダケニ向テ行ハレタノデアリマス、又政府委員ノ説明ニ依テモ、委員諸君ノ質問應答ニ依テモ、一體此法律案ノ如キモノハ、既ニ我が帝國議會ニ現ハレタル幾多ノ議案ガアツタノデアル、或ハ數年前、或ハ十數年前ニ於テ、同様ナル法案ガ提案ニ相成テ居ル、又北海道ニ於キマシテハ、最近北海道會ニ於テ……

〔嗚フ言フナト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○原夫次郎君(續) 北海道會ニ於テ、滿場一致デ此法案ノ決議ガ相成テ居ル、(ノウ「ト」呼フ者アリ)是等ノ點ニ鑑ミマシタナラバ、先程工藤君ガ言ハレタヤウナ何カ醜怪ノ事實ダトカ何トカ云フヤウナ事ノ無イト云フコトハ、モウ僕政府委員ニデモ、或ハ中川北海道長官ニデモ、能ク御聽キニナツテカラ此處ヘサウ云フ問題ヲ起サナケレバイカヌ(拍手)進ンデ御尋ニナリ第一點カラ第四點ニ付テ御答ヲ致シマス、第一ニ此未開地百二十万町歩ノ中買収スベキ面積ハドレダケノ町數デアるか、又買収スルノニ價格ノ見越ハルデアるか、斯ウ云フ問題ニ付テ、如何ナル質問應答ガアツタカト云フコトデアリマス、委員會ニ於キマシテ

ハ此點ニ付テ十分ナル質問應答ガアリマシテ、是ハ此法案ニ定メテ居ルガ如ク、此法律ガ一旦制定致サレマシタナラバ、此法律ニ規定シタルガ如ク別ニ北海道ニ於テ北海道農地特別處理委員會ト云フモノガ出來ルノデアリマス、此處理委員會ニ於テ總テノレ等ノ問題ヲ決シテ、而シテ此北海道長官タル政府ノ力ニ依テ此法律ノ運用ヲ爲ス、斯ウ云フ事ニ此法律自體デ定メテ居ル所ノ此六千万圓ヲ限リテ公債ヲ發行スルコトガ出來ルト云フ、此根本ハドウスル考デアるか、斯ウ云フヤウナ御尋デアルノデアリマスガ、是ハ讀ンデ字ノ如ク、此法案ニ規定シタル如ク、若シ法律ガ制定ニナツタナラバ、此公債ノ處理法ニ基イテ發行ヲ致スノデアリマス、ソレカラ第二點ト致シテ、北海道デハ土地ノ拂下ヲ受ケテ、毛上ノ材木ヲ賣渡ス、其殘タ土地ニ付テ隨分荒廢致シテ居ル、之ヲ買上ダスルト云フ場合ニ於テ、憲法ノ所有權ノ保障ト矛盾スルノデヤナイカト云フ御尋ガアツタノデアリマス、此點ニ付テハ委員會デ政府當局ト十分ニ質問應答ガアツタ點デアリマス、政府當局ノ此點ニ對スル御答ト致シマシテハ、多少サウ云フ嫌ガアルカモ知レナイノデアるか、併ナガラ其點ハ免モ角ト致シマシテ、第一番ニ第二期計畫ト云フモノヲ、政府ガ提案シ來テ居ルノデアるか、先ツ此法案ノ實質ニ付テ反對デアルト云フヤウナ意見デアッタノデアリマス、而シテ提案者側ニ於テ、既ニ此點ニ付テ辯明ヲ致サレタノハ、先ツ今日ノ我國ノ食糧問題、人口問題ヲ解決スル非常ナル大キナ公益問題ヲ提ダテ、此法案ト云フモノガ出テ居ルノデアるか、隨テ此處理法ノ上カラ云フト、全部ソレハ公益問題デアるか故ニ、公用徵收ノ規定ヲ適用スルノハ當然デアツテ、決シテ憲法違反ニハナラナイノデアルト云フ答デアッタノデアリマス、又第三ノ御答ト致シマシテ、一體此法律ハ總テ細イ所ノ事柄ハ勅令ニ讓テ居ルノデアるか、何カ此勅令ト云フコトノ審究ヲ致シタカド

ウカ、一體其内容ガ甚ダ怪シイデヤナイカト云フヤウナ御質問デアッタノデアリマスガ、私ハ斯ウ云フドウモ質問自體ガ甚ダ可笑シカラウト思フノデアリマスガ、法律ヲ制定スル場合ニ於テハ、憲法ニモ規定シタルガ如ク、必ズ法律デ總テノ事ヲ規定スベキモノデハナクシテ、法律ノ範圍内ニ於テ法律ヲ執行スル總テノ細則ニ付テハ、是ハ勅令ニ讓テ居ルノデアリマス、此勅令ニ何レ又法案通過ノ後ニ於テ政府當局ガ特ニ審究致シテ、樞密院ニ御諮詢ニ相成ルコトデアリマスカラ、何モ工藤君ガ尋ネラレタヤウナサウ云フ疑惑其他ノ點ハ、毫モ御心配ニハ及バナイ問題デアルト考ヘルノデアリマス、最後ニ一段歩當リ十二圓位デ、隨分荒廢シタ土地ヲ買入レルト云フヤウナ計畫デアナイカト云フヤウナ事デアッタノデアリマスガ、委員會ニ於テハ此點ニ付キマシテ質問應答ノ結果ニ依リマスト云フト、或ハ農耕適地ト稱シテモ、隨分安イ土地ガアルカモ知レス、其時々ノ時價ニ應ジテ、土地ガ安イ土地デアルナラバ、或ハ一段歩一圓ノモノガアルカモ知レス、或ハ五十錢ノモノガアルカモ知レス、ソレハ總テ先ニ申上ダタ處理委員會ノ決議ニ依リ、其議決ヲ經テ北海道長官ガ之ヲ執行スルト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、以上ヲ以テ大體御答ト致シマス

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 工藤君ノ御尋ノ北海道ニ於テ所有スル私有地ノ千町歩以上ノモノ、筆數及其姓名ノ御尋ガアリマシタガ、筆數ハ千町歩以上ノモノガ百四十七、其總段別ガ三十一萬七千二百九十八町歩デアリマス、此各人ノ人名ハ一部分ハ此處ニアリマスガ、是デハ全體ヲ知ル譯ニハ行キマセヌカラ、是ハ尙ホ全體ヲ調ベタ上ニシタ方ガ宜カラウト思ヒマス、然ラバ膽振支廳管内ニ於テ北海道炭礦汽船株式會社、是ガ四千四百九十二町歩、ソレカラ石狩支廳管内デ我妻阿蘇男ト云フ人外十名、是ガ千町歩、網走支廳管内デ信田壽之、是ガ千六百十九町歩、同ジク網走支廳管内デ升本大三

郎外五名、是ガ千九百九十三町歩、田口源太郎外五名、是ガ千四百四十町歩、河西支廳管内十勝開墾株式會社、是ガ千八百八十四町歩、新田帶草株式會社、是ガ千四百四十五町歩、同ジク新田帶草株式會社、是ハ箇所ガ違ヒマスカラ別筆ニナリテ居リマスガ、ソレガ三千四百四十四町歩、日本皮革會社三千四百七十九町歩、合資會社利別農場三千三百六十一町歩、黑岩四方之進千三百五十五町歩、歷舟牧畜會社千零四十四町歩、珠玖農場千零五十三町歩、新田製糖會社、是ガ二千七百八十三町歩、北海道製糖會社、是ハ取消シ、次ニ高倉安次郎千二百八十五町歩、是ダケノ調ベシカアリマセ

○工藤鐵男君 只今原君ノ御答ハ洵ニ實體ニ觸レザルコトヲ甚ダ遺憾ト致シマス、尙ホ此際政府ニ御尋致シマスノハ、政府ハ本案ガ兩院ヲ通過シタ場合ニ於テハ、無論當然法律トシテ效力ヲ有スルモノデアリマセウガ、此法案ノ實行ハ可ナリ影響ノ大ナルモノガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、財源ノ點カラ見マシテモ、或ハ又種々ナル情實ガ行ハレテ奇怪ナル所ノ手段ニ依ッテ、此土地ノ處理問題ガ屢、世上ノ問題ニナルト云フコトモ今ヨリ豫測スルニ難カラナイ、更ニ又一面ニ於キマシテハ假令公益ノ爲トハ申シナガラ、此所有權ヲ確保スル點ニ於テ、憲法並ニ法律ハ明ニ保障シテ居ルニ拘ラズ、法律ノ委任トハ申シナガラ、微細タル一地方長官ニ此權限ヲ託スルト云フガ如キハ、實ニ危險至極ナリト信ジテ居リマスカラ、以上ノ點ニ對シテ政府ノ御答ヲ御願致シマス

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 只今ノ工藤君ノ御尋ハ、要スルニ本案ニ付テノ政府ノ見ル所ノ御尋デアルト考ヘマス、勿論本案ガ衆議院ヲ通過シマスルシ、又貴族院ニ於テ通過シタ曉ニ於キマシテ如何ニスルカハ、只今御答スル限リデアリマセヌ、併ナガラ本案ニ付テ政府ガ如何ニ考フルカト云フ意味ノ御尋ニ付キマシテハ、此際政府ノ所見ヲ一應御話ヲ申上ダテ置イタ方ガ、御審議ノ御

便宜デノルカト考ヘルノデアリマス、本案ニ付キマシテハ只今御問ノ土地收用ニ關スルコトデアリマス、本案ハ其土地ノ買得ニ付キマシテハ勿論任意ノ買收ヲスルガ、若シ其任意ノ買收ニ應ゼザル場合ニ於キマシテハ、公力ヲ以テ強制收用スルト云フコトニ規定ガ相成ッテ居ルノデアリマス、此土地收用法ヲ適用シテ、公力ヲ以テ所有權ヲ強制買收スルト云フコトニ付キマシテハ、是ハ立法上餘程重大問題デアリマス、御承知ノ通りニ土地收用法ハ官ガ直接ニ其土地ヲ公共ノ用ニ供スルカ、又ハ官業ノ用ニ供スルカ、將又民間ノ事業ト雖モ、例ヘバ鐵道軌道ノ如ク其事業ガ公益ノ爲ニ必要デアル場合ニ於テ、其事業認定ヲ内閣ニ於テ致シマシテ、之ニ對シテ土地收用法ノ適用ヲ許シテ居ルノデアリマス、此何レノ場合ニ於キマシテモ、其收用スル場合ニ於キマシテハ、其土地其モノガ局限ノ必要デアルト云フ場合デアリマス、而シテ此農地處理法案ニ於キマス所ノ其土地ハ、是非其其土地ニ限ルト云フ性質ノモノデアリマセヌ、何處デモ構ハナイ、恐ラクハ此法案ノ其買收ニ關スル趣意ハ、目下北海道ニ於テハ國有未開地ヲ一般ニ特定ヲ以テ拂下ゲテ居ルシ、即チ安ク拂下ゲテ居ルシ、又小面積ニ於テハ只吳レテ居ル時代アルノデアリマスルガ、併ナガラ段々土地ガ拂下ガラレテ、最早交通不便ノ處デナケネバ、國有未開地ハ殘ラヌノデアリマスルガ、交通ノ便ナ所ノ土地ニ付キマシテハ、其民有地ヲ其所有者ヨリ任意土地ヲ買上ゲテ、ソレヲ分割賣買スルト云フ趣意デアリマスノデアリマス、此場合ニ於キマシテ若シ任意賣買ニ應ゼザレバ、強力ヲ以テ賣買スルト云フコトノ趣意アルノデアリマス、併ナガラ斯ウ云フ小農扶植ノ精神ニ於テ其土地ニ限定シテ——局限シテ其土地ニ限ルト云フモノデハナイノデアリマス、是非トモサウデナケレバナラヌト云フ趣意デアアリマセヌカラ、此局限ノ土地ヲ要スルト云フ意義ニ於ケル土地收用法ヲ適用シ、強力ヲ以テ民有地ヲ強制買收スルト云フガ如キコトハ、是レ恰モ

茲ニ於テ議論ガアリマスル如ク、憲法上保障セラレタル各人ノ所有權ノ侵害ニナル虞ガアルト云フ議論モ、蓋シ此處ヨリ生ズルモノデアルノデアリマス、而シテ是ハ立法ノ上ヨリ、即チ斯ウ云フ問題ニ對シテ土地收用法ヲ適用シ、所謂所有權ヲ強力ヲ以テ買得スルト云フコトハ、立法其モノ、上カラ甚ダ不穩當デアルト云フコトノ意味ヲ申上ダタノデアリマスルガ、更ニ進シテ此法案ノ實行ニ付テハ幾多ノ困難ガアルノデアリマス、其幾多ノ困難ノ第一ハ任意賣買デアル、任意賣買デアツテ、其土地ノ買得ハ蓋シ價格ハ所有者ガ満足スベキモノデナケレバナラヌデアリマセウ、所有者ガ満足スベキ價格ト云フナラバ、必ズ其土地ハ相當ノ價格デナクテハナラヌノデアリマス、而シテ若モ政府ガ土地ヲ買フコトニナリマスレバ、勢ヒ其土地ノ價格ガ上ルコトハ當然デアリマス、其價格ガ上ツタ場合ニ於キマシテ、任意ノ賣買ニ於キマシテハ、高イ土地ヲ政府ハ買ハナケレバナラヌ、ツレカラ更ニ土地收用ノ場合ニ於テ論ジマスルト、所有權其モノハ強力ヲ以テ收得ハ致シマスルガ、其報價ハ勿論適當ナル報價ヲ與ヘナケレバナラヌ、其報價ヲ與ヘル場合ニ於キマシテハ、御承知ノ通りニ、收用法ノ場合ニ於キマシテハ、其報價ハ裁判所ニ訴ヘテマデ其報價ノ價格ヲ所有者ハ要求スルコトガ出來ルノデアリマス、其報價ノ金額ハ同ジク任意賣買ノ場合ニ於テモ、必ズ多額ノ金額ニナルコトハ略、想像ニ難カラヌノデアリマス、斯ノ如ク政府ガ土地ヲ買フ場合ニ於テ、任意賣買ノ場合ニ於キマシテモ、強制賣買ノ場合ニ於キマシテモ、其價モ高クナツタ場合ヲ想像致シマス、其高クナツタ場合ニ於テハドウ云フコトニ此土地ガ取扱ハル、カ、成程一般ニ小面積ヲ希望スル所ノ、所謂自作農ヲ希望スル者ガ買ヒタイト云フ土地ニ付キマシテハ、政府ガ買ウタ其土地ハ小分割ノ上デ直ニ處分モ出來マセウ、併ナガラ是ハ價ニ條件ガ附カナケレバナラヌ、高イモノナラ誰モ買手ガナイ、高イモノナラ誰モ望ミ手ガナイ、

若モ高イモノデアッテ、望ミ手ノナイ場合ニ於テハ、如何ニ相成ルカト言ヘバ、其高イ價ノ土地ハ政府ノ手持ニナル譯デア、目下北海道ニ於キマシテハ、實ハ此法案ノ取扱上強制買得ノ規定ハアリマスガ、實ハ或ル大面積所有者ハ、此場合土地ノ持扱ヒニ困ッテ居ルカラ、任意賣買ヲスル場合ガ多クアリマセウ、而シテ若モ政府ガ今申上ゲル如ク、高イ價ヲ以テ買得スル場合ニ於キマシテハ、其土地ハ各人ニ分割シヤウトシテモ、分割ヲ希望スル者ハナシ、遂ニ高イ土地ハ手持ニナル、是ハ現時ノ状況カラ申シマスルト、北海道ノ大面積所有者ガ手持ニ困ッテ居ル狀態デア、政府自ラガ其困難ナ立場ニ陷ラナケレバナラヌノデアリマス（拍手）若モ茲ニ財源ガ十分ニアッテ、其財源ニ十分ナル餘裕ガアル場合ニ於キマシテハ率如ラズ、今日ノ如キハ國庫ノ財源ニ於テハ甚ダ乏シキヲ想ヘテ居ル場合デア、ルノミナラズ、拓殖財源ニ於キマシテモ、ヨリ多ク有用ニ使ヒタイ仕事ハ澤山アルノデアリマス、此場合ニ於キマシテ、右申シマスルガ如ク、自作農扶植ノ目的ヲ達シ得ナイ、所謂高イ土地ノ「ストック」ガ政府ノ手ニ止マルト云フコトニ付キマシテハ、此目的ヲ達スル譯ニ行カナイコトニナッテ來ルノデアリマス（拍手）ソレカラ申上ゲルガ如ク、一方ニ於キマシテハ、政府ハ唯、土地ヲ呉レテヤルトカ、安イ土地ヲ特ニ希望スル者ガアル場合ニ於テハ、特賣シテヤルト云フ制度ガ今日尙ホ北海道ニ現存シテ居ル現今ニ於キマシテ、今申上ゲマスガ如ク、一方ニハ高イ土地ヲ買ッテ、高イ價ヲ以テ小分割ヲシテ、以テ自作農創定ノ目的ヲ達シヤウト云フコトニ付キマシテハ……

〔發言スル者多シ〕

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員（俵孫一君）（總） 實際ニ實行不能ニ終ルデアラウト私ハ思フノデアリマス（拍手）又他面ニ於キマシテハ、此法案ニ依リマスト公債交付、即チ買得又ハ強制賣買ノ價ニ對シマシテハ、公債ヲ交付スルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、其公

債交付ノ此案ニ在リマス如ク、六千万圓ヲ限度トシテ公債ヲ發行スルト云フノデアリマスガ、此公債發行ノ方法ハ、現内閣ノ政策ト全ク反對スルモノデアリマス(拍手)此意味カラ致シマシテモ、到底本案ニ賛成シ能ハザルモノデアリマス、之ヲ要スルニ何レノ點カラ申シマシテモ、一ハ立法ノ上ヨリ、他ハ實際ニ實行不能ニ終ルカモ知レント云フガ如キ點ニ於キマシテ、本案ニ遺憾ナガラ賛成ガ出來ヌノデアリマス(拍手)他面ニ於キマシテハ、現ニ拓殖計畫ニ於テハ同ジ目的ヲ以テ自作農創定ノ計畫ガアルノデアリマス、然ラバ此方法ニ依ッテ、其目的ヲ十分ニ達シ得ルモノデアルト思フノデアリマス、私ハ只今ノ工藤君ノ御問ニ對シテ、茲ニ明ニ政府ノ所見ヲ一言申上ゲテ置ク次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シマシテハ田崎信藏君ヨリ成規ノ賛成ヲ得テ議事延期ノ動議ガ提出サレテ居リマス、議事進行ノ動議デアリマスカラ直ニ之ヲ議題ニ供シマス、田崎信藏君

○田崎信藏君 簡單デアリマスカラ此席ヨリ御許ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

〔登壇々々〕ト呼フ者アリ

〔田崎信藏君登壇〕

○田崎信藏君 本案ハ洵ニ重大ナル案デアリマシテ、本員等ハ本案ニ對シマシテ慎重ニ考慮ラシタイト思フノデアリマス、即チ深甚ナル考慮ヲ致シタイト存ズルノデアアル、只今委員長ノ御報告ヲ承リマシタガ、其御報告ニ依ッテハ十分ニ満足スルコトガ出來ナイノデアリマス、又委員會ノ經過ニ付キマシテハ、未ダ速記録ヲ拜見スルコトガ出來得ナイノデアリマス、賛否ノ御議論モ詳カデナイノデアリマス(「マダヤラナイデチャナイカ」ト呼フ者アリ)委員會ニ於ケル所ノ御議論モ十分ニ分ラナイノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○田崎信藏君(續) 提案者ノ御説明モ十分ニ盡サレテ居ラヌヤウデアリマス(「早マッ

タコトヲ言フナト呼フ者アリ私ハ早マツテ居ルノデハナイ、委員會ノ經過ガ分ラナイ、ソレガ爲ニ此案ハ世間ニモ可ナリ風評ノ多イ所ノ案デアアル(拍手)前刻政友會ノ安藤君ガ緊急質問ヲサレタ如ク、斯様ナ案ニ對シマシテハ慎重ニ審議スル必要ガアリマスルガ故ニ、本案ハ審議ヲ延期セラレンコトノ動議ヲ私ハ茲ニ提出シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 此動議ニ對シテ賛成ノ通告アリマス、順次之ヲ許シマス、井本常作君(發言スル者アリ) 靜肅ニ願ヒマス

○井本常作君 此ハ此動議ニ賛成スル者デアリマス、本案ニ付キマシテハ田崎君モ申サレタ通り、吾々ノ手許ニ於キマシテハマダ委員會ニ於ケル詳細ノ速記録ヲ拜見致シマセズ、ソレガ爲ニ此審查材料ニ付キマシテハ甚ダ乏シイノデアリマスカラ、之ヲ延期致シマシテ、慎重ニ審議セラレンコトヲ希望スルノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 森田金藏君——森田君

○武藤山治君 森田君ハ只今席ニ居リマセヌカラ私ガ代テ……

〔議場騒然〕

○議長(粕谷義三君) 靜ニ御聽キ下サイ——靜ニ願ヒマス、武藤君ハ改メテ發言ヲ通告セラレタノデアリマス、武藤山治君

〔武藤山治君登壇〕

○武藤山治君 私ハ田崎君ノ提出セラレマシタ本議案ヲ議スルコトヲ延期スル動議ニ賛成致シマス(拍手)凡ソ議會ニ於テ提案者ガ其審議ヲ急グコト程惡イモノハアリマセズ(拍手)現ニ東京ノ市會ニ於テ、憲政會ノ一派ト稱セラル、革新會ガ急イデ居ル所ノ議案、此議案ニ對シテ安藤君ガ言ハレタ所ハ正ニ此場合ニ私ハ適應スルモノデアラウト思フ(拍手、發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○武藤山治君(續) 諸君……(發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス——靜肅ニ願ヒマス

○武藤山治君(續) 諸君……(發言スル者多シ)

多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○武藤山治君(續) 諸君、議會ハ向ホ數十日ノ時日ヲ持ツテ居リマス、本案ノ如キヲ急イデ審議スル必要ハ毫モアリマセズ(「ヒヤ」)「拍手」此本案ヲ政友會ノ諸君ガ急ガレ、ハ急ガレル程、私ハ反對シタイノデアル

〔議場騒然〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス——他ニ發言ノ通告ガアリマセヌカラ採決ヲ致シマス、田崎信藏君ノ議事延期ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

〔賛成者起立〕

〔議場騒然〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス——起立少數ト認メマス(拍手)

〔議長「異議アリ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 只今ノ——御靜ニ願ヒマス——靜肅ニ御聽キ下サイ、只今ノ議長ノ宣告ニ對シマシテハ異議ノ申立ガアリマス、是ヨリ記名投票ヲ以テ之ヲ決シマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス——靜ニ御聽キ下サイ、議事延期ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ白票デアリマス、反對ノ諸君ハ青票デアリマス——閉鎖——氏名點呼ヲ命ジマス

〔書記官氏名ヲ點呼ス〕

○議長(粕谷義三君) 投票漏ハアリマセヌカ

〔「アリマス」ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ナシト認メマス、投票函閉鎖——開匣——開鎖

〔書記官投票ノ數ヲ計算ス〕

○議長(粕谷義三君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス

〔中村書記官長朗讀〕

投票總數 三百一

可トスル者 白票 百三十八

否トスル者 青票 百六十三

〔拍手起ル〕

○議長(粕谷義三君) 只今ノ結果ニ依リマシテ議事延期ノ動議ハ否決セラレマシタ

〔參照〕

田崎君提出議事延期ノ動議ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ

石塚 三郎君	井本 常作君	原 脩次郎君	西脇 晉君	戸井 嘉作君	戸澤民十郎君	大島 要三君	岡本實太郎君	川崎安之助君	神田 正雄君	加藤政之助君	金澤安之助君	横山 一格君	吉川吉郎兵衛君	吉田 磯吉君	高橋元四郎君	頼母木桂吉君	田中 武雄君	田中 養達君	谷口源十郎君	中原徳太郎君	中野 寅吉君	村上紋四郎君	室木彌次郎君	野村 嘉六君	栗延敬太郎君	山田 又司君	山田 道兄君	山本 勝次君	山本 儀重君	松井 郡治君	町田 忠治君	深井 功君	小島 證作君	小寺 謙吉君	小西 和君
石黒大次郎君	一柳仲次郎君	西 英太郎君	本田 恒之君	戸田 由美君	富田幸次郎君	小野 重行君	奥村 千藏君	神谷 彌平君	神部 爲藏君	加藤十四郎君	横山勝太郎君	横山金太郎君	吉原 義雄君	高木益太郎君	高田 耘平君	武内 作平君	田中 善立君	谷口宇右衛門君	俵 孫一君	中谷 貞頼君	中野 實君	村山喜一郎君	内ヶ崎作三郎君	工藤 鐵男君	山宮 藤吉君	山田 助作君	山口 嘉七君	山本 厚三君	山本 襄一君	丸山 五郎君	古屋 慶隆君	藤井 敬慎君	小島 七郎君	小山 松壽君	小池 仁郎君

否トスル議員ノ氏名左ノ如シ

木樽三四郎君	紺野九右衛門君	寺島 權藏君	淺川 浩君	青木知四郎君	荒井 建三君	佐竹 庄七君	佐藤 實君	齊藤 隆夫君	齊藤 金吾君	由谷 義治君	斯波 貞吉君	信太儀右衛門君	下元鹿之助君	平川松太郎君	平井光三郎君	望月小太郎君	關矢 孫一君	杉浦 武雄君	菅村 太事君	坂東幸太郎君	尾崎 行雄君	田崎 信藏君	武藤 嘉門君	山口 政二君	松山兼三郎君	佐々木安五郎君	湯淺 凡平君	羽室庸之助君	鷺野米太郎君	武藤 山治君	井止 雅二君	淺賀長兵衛君	磯部 尚君	岩崎幸治郎君	今井 健彦君	石原正太郎君	井上敬之助君	井口延次郎君	泰 豐助君	濱田 國松君	鳩山 一郎君	
近藤重三郎君	江藤 榮吉君	手代木隆吉君	阿由葉勝作君	蟻川五郎作君	作間 耕逸君	佐藤富十郎君	佐藤藤三郎君	齊藤仁太郎君	澤田 利吉君	三橋四郎次君	清水留三郎君	鹽田 團平君	廣瀬 徳藏君	平野 光雄君	森田 茂君	栗山 博君	關 俊吉君	菅原 英伍君	林田龜太郎君	馬場 義典君	岡田 溫君	永田新之允君	畔田 明君	増田 義一君	小屋 光雄君	清瀬 一郎君	關 直彦君	千葉 三郎君	田中 謙君	小林 彌七君	武藤 孫九君	太宰 孫九君	菊池謙二郎君	板野 友造君	今里準太郎君	石坂 豐一君	飯村 五郎君	井上 孝哉君	伊坂秀五郎君	濱口吉兵衛君	八田 宗吉君	原 惣兵衛君

西澤 定吉君	西方 利馬君
堀切善兵衛君	星島 二郎君
土井 權大君	長田 桃藏君
大竹 謙治君	大口 喜六君
小川 平吉君	岡田伊太郎君
若尾幾太郎君	若宮 貞夫君
渡邊 伍君	渡邊 祐策君
加藤 知正君	川口 義久君
吉津 度君	吉植庄一郎君
吉村 伊助君	竹原 樸一君
竹内友治郎君	田中 定吉君
高井 商二君	高橋熊次郎君
高橋 光威君	高草美代藏君
中島 守利君	中村 清造君
難波 清人君	内田 信也君
内野辰次郎君	植原悦二郎君
浦山助太郎君	上埜安太郎君
野田 俊作君	來栖 七郎君
能谷 巖君	黒住 成章君
工藤十三雄君	山本 芳治君
山本 慎平君	山本 泰太郎君
山口 義一君	山口 恒太郎君
山下 谷次君	山内 範造君
山内 確三郎君	山崎 達之輔君
前田 米藏君	松本 眞平君
松本 君平君	松岡 俊三君
松山常次郎君	松實喜代太君
牧野 良三君	藤田胸太郎君
藤田 包助君	藤川 清助君
古川 清君	小橋藻三衛君
古林 新治君	兒玉 右二君
神崎 勳君	安藤 正純君
青木 精一君	青山 憲三君
青柳郁次郎君	秋田寅之介君
秋田 清君	東 武君
齋藤藤四郎君	榎原 經武君
佐々木文一君	佐々木春作君
佐々木長治君	坂井 大輔君
坂梨 哲君	木戸 豊吉君
吉良 元夫君	三善 清之君
三土 忠造君	志賀和多利君
嶋居 哲君	島本 信二君
廣瀬 爲久君	平山爲之助君

森 島親君	森 恪君
瀬沼伊兵衛君	砂田 重政君
菅原 傳君	隅田 豊吉君
杉 宣陳君	井坂 豊光君
岩切 重雄君	原 夫次郎君
本多貞次郎君	星 廉平君
堀 喜幸君	東郷 實君
陣 軍吉君	沼田嘉一郎君
小島 義作君	小川郷太郎君
小野 寅吉君	大園榮三郎君
大城幸一君	奥野小四郎君
加藤謙五郎君	高島 順作君
高木第四郎君	田中 隆三君
田口 文次君	津崎 尚武君
筒井民次郎君	中村啓次郎君
中村 嘉壽君	長峰 與一君
植場 平君	浦野 謙朗君
則丸 由庸君	熊谷五右衛門君
栗林 五朗君	山谷徳治郎君
前田房之助君	前田 兼實君
牧山 耕藏君	松田 源治君
丸山 浪彌君	麓 純義君
兒玉 實良君	寺田 市正君
櫻内 幸雄君	逆瀬川仁次郎君
岸本 賀昌君	三浦 數平君
志波安一郎君	志村清右衛門君
清水市太郎君	清水 長郷君
平田民之助君	森田 政義君
森 肇君	佐藤 潤象君
多木久米次郎君	

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ討論ニ入リマス、通告順ニ依テ其發言ヲ許シマス、澤田利吉君

(澤田利吉君登壇)

○澤田利吉君 諸君、私ハ今茲ニ提案セラレテアリマス所ノ北海道農地特別處理法案ニ對シテ反對スル者デアリマス、今聊カ其理由ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、提案ノ趣旨ハ曩ニ委員長ヨリ大體申サレタ如ク、交付公債ヲ六千万圓北海道發行致シテ、ソウシテ土地ノ買収ヲ行ヒ、之ヲ以テ小作ヲ自作ニ創定スル意味ニ於テ賣付ケヤウト云フコトガ大體此法案ノ趣旨デアリマ

ス、之ニ對シテ委員會ノ經過ハ四名ノ賛成ニ四名ノ反對デアツテ、委員長ノ採決ニ依ツテ是ガ可決シタノデアリマス、私共ハ之ニ反對スル理由ノ第一トシテハ、既ニ此目的ヲ達成スベキ北海道第二次拓殖計畫ナルモノハ既ニ樹立セラレタノデアリ、御承知ノ通り北海道ニ於キマシテハ第一次拓殖計畫既ニ終リ、本年度ヨリシテ、所謂北海道百年ノ計畫ヲ立ツルト云フ意味ノ下ニ、而モ是ハ北海道ノ問題ニアラズシテ、我が日本ノ今日ノ人口食糧ヲ解決スベキ國策トシテ立テラレタル所ノ拓殖計畫案ガアルノデアリマス、之ニ依ツテ此目的ハ達セラレルノデアリ、更ニソレノミナラズ、自作農維持創設法ニ依リマシテ、此法ハ全國ニ適用セラレ、北海道ニ於テモ亦同時ニ此法ガ適用サレテ居ツテ、此法ニ依ツテモ更ニ自作農ノ維持創設ガ出來ルノデアリマス、以上此二點カラ考ヘテモ、何ガ故ニ更ニ斯様ナ無用ノ案ヲ出シタノカ其意思ガ分ラヌ位デアリマス、第三ハ憲法上頗ル疑義ヲ挾ムモノデアリマス、第四ハ吾々ガ長イ間苦心致シマシテ、政府ハ勿論、政黨ヲ超越シテ所ノ總テノ人々ガ、各般ノ機關ヲ通ジテ拵ヘ上ダタ所ノ此拓殖計畫ノ基礎ヲ素シ、根本カラ破壊スル憂ガアルノデアリマス、第五ハ此案ノ提案其モノ、動機ニ頗ル不純ヲ含ンデ居ルノデアリマス、大體斯様ナ意味ニ於テ反對スルノデアリマス、少シク順序ヲ逐ウテ論ヲ進メテ見タイト思フノデアリマス、北海道ノ拓殖ノ事業タル一ニシテ足ラズ、吾々ハ北海道ノ事業ヲ爲ス上ニ於テ澤山ノ希望ヲ持テ居リマス、併ナガラ事ヲ爲ス上ニ於テハ、ドウシテモ財源ガ本デアル、ソコデ此度政府ガ提案シマシタ所ノ其案ハ、諸君ハ既ニ御承知ノ通り昭和二年度ヨリ向フ二十箇年度ノ間ニ於テ、北海道カラ上ラタ所ノ其金ノ中、費用ヲ差引イタル残り全部ヲ北海道ニ入レテ、北海道ノ拓殖ノ進運ヲスルト云フ目的ノ下ニ、九億七千六百万圓ト云フ大ナル計畫ガ立テラレタノデアリマス、此計畫ニ對シテハ北海道ノ道民ハ頗ル満足ヲシテ居ルノデアリマス、向

ホ一應私ハ茲ニ諸君ノ諒解ヲ願ハナケレバナラヌコトハ、斯ク申ス私ハ北海道ノ出身者デアアル、若シ此案ガ北海道ノ爲ナリト云フナラバ、吾々何ノ反對スルモノカ、而モ此拓殖計畫ノ九億七千六百万圓ノ其内容ヲ見マスレバ、色々ノ植民或ハ森林、治水、港灣、色々アルガ、其一ツ々々ニ涉テ見レバ、實ハ尙ホ吾々ハ本當ノ目的ハ達シテ居ナイ、尙ホ澤山豫算ハ欲シイ、併ナガラ豫算ニハ當然ノ限度ガアル、所謂北海道カラ上ガル金ヲ以テ計畫スルノデアルト云フ上カラ、當然之ニ均霑センケレバナラヌ、北海道ノ拓殖ハ當然ハ益進シテ行カナケレバナラナイ、或ル一ツノモノ、ミニカラ入ル、コトハ出來ヌノデアリマス、然ラバ今此提案爲サレタ所ノ精神カラ考ヘテ、人口食糧調節ノ上ニ大切ナル法案デアルト言ウテ出サレタ所ノ其法案ガ、如何ナル目的ヲ有スルノカ、ソレニ對シテ拓殖計畫ハ如何ナルコトヲ計畫シテ居ルカヲ茲ニ對照シテ考ヘテ見タイノデアリマス、曩ニモ申上ダマシタル如ク、此案ハ六千万圓ノ交付公債ヲ發行シテ土地ヲ買上ゲルト云フノデアル、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ此六千万圓ト云フ基礎算定ハ何ニ置イタカト云フコトヲ聽キマシタ所ガ、提案者ノ説明ハ海ニ杜撰デアアル、如何ナル土地ヲ買テドンナコトニスル考デアアルカト云フコトヲ聞キマシタ所ガ、提案者ガ私ノ一家言ナリトシテ言ハレタ所ノ其内容ヲ申シマスレバ、未墾地十三万町歩、半開地五万町歩、水田七千町歩、畑地六万三千町歩位ヲ此金デア買フノデアアル、而シテ是ガ十二箇年カ或ハ十五箇年ニナルカ、サウ云フ間ニ買テ、更ニ又此方法ヲ以テ進メテ行クノデアアル

(粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ著席)

斯様ニ仰セラレノデアリマス、然ラバ拓殖計畫ニ於テ此問題ヲ解決スル上ニ、ドウ云フ計畫ヲ立テ居ルカト申シマス、拓殖計畫ニ於テハ昭和二年度カラ向フ二十箇年度ノ間ニ於テ、民有未墾地ノ中、農耕ニ適スベキ其土地ヲ四十万六千九百七十五町歩

ヲ、地主ト田畑ヲ作ラントスル者ノ任意賣買ニ依ル、サウ云フ風ニ賣買サセテ、所謂自作農ヲ植付ケテ、相當ノ低利資金ヲ貸シテ、サウシテ之ニ利子ノ補給ヲシテ、自作農ヲ創定スルト云フ立派ナ案ガ立ッテ居ルノデアリマス、唯、此一事ヲ以テ較ベテ見レバ、拓殖計畫ニ依レバ四十万六千九百七十五町歩ヲ買フト云フノ反シテ、一方ハ年限デ胡麻化サレテ居ルガ、其目的ハ僅ニ二十万町歩、ソレカラ半開地ト云フモノハ如何ナルモノヲ指サレルノデアアルカ、別ニ半開地ト云フモノハ五万町歩、之ヲ加ヘテ見マシテモ十八万町歩デアル、尙ホ政府計畫ノ案ニ比シマスルト半分ニモ満たナイノデアリマス、ソコデ一體吾々ガ今人口食糧ト云フ問題ヲヤカマシク言フテ居ルガ、之ヲ解決スルト云フコトハ何ニ依テ解決スルカト云ヘバ、北海道ニアル所ノ未墾地ニ澤山ノ人ヲ入レテ、所謂内地過剰人口ヲ北海道ニ移ス、サウシテ開拓シテ、ソコニ人口ヲ植付ケタ上ニ、食糧ヲ產出サントスルノガ目的デアアルニ反シテ、此元來ノ目的ニ於テ其提案ノ内容ヲ聽キマス、殆ド政府ノ計畫ノ半バニ達シテ居ラナイ、提案者ガ聲ノミ大ニシテ積極計畫云々ト言ハレルガ、既ニ此計畫ニ於テ然リデアル、ソレカラ又現ニ小作シテ居ル人々ヲ自作サセル爲ニハ、ドウシテモ此土地ヲ買上ゲテ、自作ニセンケレバナラナイニ付テハ、此法案ヲ適用センケレバナラナイト云フ御話デアアル、此趣旨ニ於テハ當然吾々ハ賛成スル者デアアル、併ナガラ拓殖ノ目的ト社會政策ノ目的ハ全然別ニ之ヲ考ヘンケレバナラヌノデアアリマス、拓殖ノ爲ニハ政府ノ方法デヤッテ行ク、何ニモ茲ニ不都合ガナイノデアアリマス、唯、現在小作人ヲシテ自作ナラシメントスルニハ如何ニスルカ、是ハ全然然目的ハ別デアッテ、是ハ社會政策ノ上カラ論スベキ問題デアアル、然ラバ此社會政策ニ對シテ政府ハ如何ナル方法ヲ立デ、居ルカト申シマスレバ、申スマデモナク農林省ニ於テハ自作農維持創設法ナルモノガアリマシテ、現ニ昨年度カラ此法ハ實施セ

ラレマシテ、大正十五年度ニ於テ七百萬圓出シテ居リマス、此中北海道ニモ亦二十萬圓割當テラレタルノデアリマス、提案者ハ此問題ヲ捉ヘ來ッテ、ソレガ不足デアアルカライカナイト仰シヤルノデアアルガ、其不足デアアルト云フ一ツノ例トシテ、此法案ガ昨年開始メテ布カレタノデアアルガ、北海道廳ハ全道ノ各町村ニ向ッテ自作農維持創定ヲ行ハル、ニ對シテ希望ヲ申請セシメタノデアリマス、其結果トシテ希望シテ來タ所ノ金額ト、又割當ラレタ所ノ此金トヲ對照シテ、斯ノ如ク不足デナイカト云フコトヲ言ハレルノデアアル、申請シタ所ノ金額ハドレダケデアアルナト云フト、三百八十萬圓デアアル、之ニ二十萬圓シカ割當ガナカッタカラ、斯ノ如キ不足デハ何時マデ經テモ自作農創定ガ出來ヌト云フ御議論デ、是ハ最も力強ク言ハレタ所デ、如何ニモト聽キ得ル所ナノデアリマス、併ナガラ是其内容ヲ考ヘナケレバナラナイ、其申込ノ口數ヲ考ヘマスト云フト、町村數ニ於テ二十六、組合數ニ於テ六デアリマス、併ナガラ其中ニ一ツカニ二ツノ町村デ非常ニ大キイ申込ヲシテ居ルノデアアル、例ヘバ其中デ常呂郡ノ如キハ、一郡ニシテ其申込町歩ガ千六百町歩デアル、或ハ又上川郡ノ如キハ一郡ニシテ三千二百二十七町歩デアル、此様ナ大キイモノヲ除キマスと云フト、後ハサウ大キイモノハナイノデアアル、先月ノ三十日ニ同廳ガ此金ノ割當ヲ實際行ウタ結果ニ依リマスと云フト、其中九箇町村及二組合ニ貸シタノデアリマス、サウスルト云フト、申込ノ全高ハ別トシテ、申込者ノ上カラ行キマスと云フト組合ニ於テハ三分ノ一、町村ニ於テモ三分ノ一強ニ當リテ居ルノデアリマス、世ノ中ノ問題ハ是ノミナラズ、總テノ希望ト云フモノヲ集メタナラバ、如何ナル問題デモ非常ナ大キイモノニナル、ソレヲ悉クニ對シテ満足ヲ與ヘルト云フコトハ、是ハドウシテモ出來ヌコトデアアル、然ラバ農林省ハ何時マデモ七百萬圓ニ限定シテ居ルカト言ヒマス、本年度所謂昭和二年度ノ豫算ハ、更ニ此金額ヲ増サレマシテ、御承知ノ通り

七百萬圓ヨリ一千三百五十萬圓ニナッテ居ルノデアリマス、殆ド昨年度ノ金額ヨリ倍額ニナッテ居ル、此比例カラ行キマスレバ、北海道ノ割當額ハ當然又其倍額四十萬圓ニナル、斯様ニ致シマスと云フト、十年デ四百萬圓、二十年デ八百萬圓、而シテ段々ト世ノ中ガ好クナッテ行クト、此低利資金ガ増セバ、又是等ノ目的ハ十分ニ達シ得ラレル、是等ノ事ヲ考ヘテ見ルト云フト、提案者ハ自作農創定ノ爲ニ金額ガ不足デアルト言ハル、ガ、此法ガアル以上、何ヲ苦ンデ新シク斯様ナ法案ヲ出ス必要ガアラウカ、尙又拓殖計畫ニ對シテハ政府ノ聲明スル所、諸君御承知ノ如ク財源ノ按排ヲ考慮致シマシテ、更ニ二段々ト公債募集又ハ其他ノ方法ヲ以テ此計畫ヲ繰上ゲ、或ハ又新ニ之ニ附加ヘテ、サウシテ北海道ノ拓殖ヲ促進スルコト云フコトヲ聲明シテ居ルノデアリマス、斯様ニ考ヘマスと云フト、何等ノ不都合ガ感ズナイノデアリマス、ソコデ、此法案ハ仕事ヲ行フ上ニ於テハ不都合ガ感ズマセヌガ、此法ヲ行ヒマス其結果トシテ、非常ニ私ハ惡イ結果ヲ產出シハセヌカト云フコトヲ頗ル憂フル者デアリマス、先程來政府委員ノ説明ニモアリマシタ如ク、之ヲ憲法ノ上カラ考ヘレバ、正ニ吾々ハ憲法ニ於テ財產ノ保障ヲ與ヘラレテ居ル、其保障ニ對スル侵害ノ憂アルノミナラズ、一面ニ於テハ世ニ是ガ地主保護案ト謂ヒ、又其半面ニ於テ或ル地主ニ壓迫スル恐ロシイ法案トナルノデアリマス、殊ニ強制買収ト云フコトヲ盛ニ此法案ノ非常ナ特長デアアルカノ如ク言ハレルケレドモ、假ニ此處ニ百箇ノ土地ガアツタ、ソレヲ強制買収ヲシテ他ノ者ニ賣付ケヤウト云フコトヲ仰シヤルノデアアルガ、強制買収ハ出來得マセウケレドモ、強制賣付ハ出來ナイノデアリマス、現ニ此地方ニ於キマシテモ色々ト土地會社等ガアリマスガ、果シテ其土地ガ皆ク賣レルカ、可ナリ良イ處ハ賣レルガ、必ズ殘ル處ガ澤山アル、北海道ノ土地ヲ此處理法ニ依ッテ處分セントスト雖モ、矢張ソレト同一ナル

理由ニ依ッテ、或ハ半分殘ルカ、或ハ四割殘ルカ、必ズ殘ルノデアリマス、之ヲ如何ニスルノカ、要マルニ先刻來ノ政府ノ「ストック」トナルノデアリマス、尙又北海道ニハ先ニ工藤君モ言ハレタ如ク、民有未墾地ノ以外ニ國有ノ未開地ガ澤山アリマシテ、原則ト致シマシテハ一戸五町歩ヲ限度ト致シテ居リマス、又場合ニ依リマシテハ七町五反、場合ニ依ッテハ十町マデ無代デ讓ルノデアリマス、殊ニ新規ニ移住スル者ニ對シテハ、移轉費マデ與レテ獎勵シテ居ル場合ナノデアリマス、ソコデ今是等ノ法ヲ直ニ行フト言ウタ所デ、ソレハ事實ノ上ニ於テ實際ハサウマデ急ニ進ンデ、居ラヌ、一般ノ人ガ其所マデ進ムト云フコトハ、中々容易デナイ、松實君ハ委員會ニ於テ或例ノ一ツトシテ斯様ニ言ハレテ居ルノデアリマス、北海道ノ農民ノ思想ハ頗ル惡化シテ來タ、所謂左傾派ト云フ連中ガ煽テ來タ、大地主ガ土地ヲ分配シテ賣ラウトシテモ、小作人等ハ之ヲ買フコトヲ欲シナイ、今ニ地主ガ投出スダラウ、其時買ヘバ宜イト云フヤウナコトヲ言フテ居テ、現ニ蜂須賀侯爵家ノ農場ノ如キハ、既ニ其一ツノ實例デアアルト言ハレタノデアリマス、デアアルカシテ此法案ヲ布クコトガ遅クナッタノデ、モウ三年モ四年モ前カラ此法案ヲヤラナケレバ、ナラナカッタノミ、モウ遅イノデアアル、今ニ一生懸命ニ持タサウトシテモ、持ツコトヲ欲シナイト云フコトニナルノデアッテ、遂ニ何時迄經テモ此儘ニシテ置クナラバ、思想ハ此上ノ位惡化スルカ知レスト云フヤウナコトヲ言ハレタノデアアル、此事ハ一面ニ於テハ私ハ其蜂須賀農場ノ實際ヲ知ラヌガ、一部ニ左様ナ傾向ハアリマセウ、北海道ノ大地主ノ中ニハ、立派ニ經營サレテ居ル農場モアリ、又殆ド持テ餘シテ居ル農場モアルノデアリマス、立派ナ農場主ガ小作ヲ入レテ立派ニ經營サレテ居ルモノデアレバ、ソレハ其儘デ、拓殖ノ上ニ於テ何等ノ障害ヲ與ヘテ居ラヌノデアリマス、ソレハ其儘デ宜イノデアアル、ソレカラ一面ニ於テ困ッテ居ル地主ガ澤山アル、困ッテ居ル

地主が賣レバ宜シイノデ、殊更ニ此法案ヲ早ク拵ヘテ、一生懸命ニ拵ヘテ、此地主ヲ救済スルニ汲々トスルノ必要ハナイノデアル、所謂賣ルモ買フモ自然デナケレバナラヌ、政府ノ手ヲ以テ殊更ニ人ノ土地ヲ買收スル、ソノ手數ヲスルヨリハ、賣ラントスル地主、買ハントスル小作——買ハントスル所ノ、内地ノ自作農ヲラントスル人、此相互ノ當事者間ニ賣買サレタルモノニ對シテ自作農ヲ創定スベク、吾々ハソレヲ助成スルコトヲ考ヘレバ宜シイノデアル、然ルニ此法案ハ今申上タル通り、坂東君ノ口ヲ藉テ言ヘバ屋上屋ヲ架スル、吾々ハ長イ間此計畫其モノニ對シテ——事業其モノニ對シテハ精神ハ宜シイガ、併シ本日之ヲ出スト云フコトハ頗ル不思議ニ思フノデアリマス、先程委員長報告ノ一節ニ斯様なコトガアリマシタ、北海道ニ於テハ、道會ニ於テ各政黨ヲ超越シテ、此案ガ決議サレテ居ル案デアルト、斯様ニ言ハレタノデアリマス、如何ニモ北海道ニ自作農ヲ創定スルコト、及未墾地ヲ開拓スル其希望、ソレニ對スル方法等ニ於テハ、過去ニ於テハ道會ノミナラズ、其他ノ總テノ機關ニ於テハ吾々自ラ決議シタコトデアルト、其決議ハ何ノ爲ニ決議シタコト云フ、今政府ガ提案致シテ居リマス所ノ、此第二次拓殖計畫ヲ完成セシムガ爲デアルト、昨年政府ハ民間ノ委員トシテ、各政黨ヨリレノ代表者ヲ出シ、憲政會、政友會、政友本黨及革新俱樂部等ヨリ、ソレノ委員ガ出ラレマシテ、慎重審議セラレ、當然此問題ニモ十分ノ考慮ヲナサレテ、殆ド一致デ決議サレタ、ソレハ先刻申サレマシタ所ノ、吾々ハ過去ニ於テ道會其他ノ團體ニ於テ決議シテ、其結果ガ此計畫ニ現レテ居ルノデアラテ、何モ新シク斯様ナ案ヲ出シテ貰フ上ニ於テ、吾々ハ勿論道民トシテ何等望ミヲ持テ居ラヌノデアルト、要スルニ此政府ノ北海道拓殖計畫ト此案ト、二ツヲ對照シテ、然ラバ何方ガ宜イカト云々ナラバ、政府案ハ一番確實デアルト、未墾地ハ買フ、ソレニ對シテハ利子ノ補給ノ方法ガアル、自作農

創定ニハ自作農維持創定ノ方法ガアル、然ルニ此法案ハ殆ド境界ナク、其内容ヲ伺ヒマスト、ソコニ何等根據ナク、或ハ六千萬圓ノ交付公債ヲ發行シテ土地ヲ買收シヤウ、強制買收ヲシヤウト云フニ外ナラヌノデアリマス、此點ニ付テハ實際ノ上カラシテモ、全然ハ杜撰極マル案デアルト云フコトハ斷言スルコトガ出來ルノデアリマス、第三ハ先刻申シマシタ如ク、憲法上ニ於テ頗ル疑義ガアル、第四ハ吾々多年ノ努力ニ依テ、政府ガ茲ニ提案致シマシタル所ノ北海道拓殖計畫其モノヲ、根本カラ基礎ヲ破壊スルモアデノル、基礎ヲ紊スモアルカドウカ、立派ニ一ツノ案ガ立ッテ居ルニモ拘ラズ、同種ノ而モソレヨリモ劣タ案ヲ出シテ、更ニ屋上屋ヲ架スルト云フコトハ、茲ニ立派ニ出來ル所ノ拓殖計畫其モノヲ破壊セントスルモノデアルト、斯様な意味ニ於テ吾々ハ斷ジテ此問題ニ反對スルノデアリマス、北海道ノ人々ハ此拓殖計畫ノ成タコトニ付テ非常ニ喜ンデ居ル、ソレカラ其次ハ、此案ノ提案ノ動機其モノニハ、世間幾多ノ噂ヲ爲シテ居ルノデアリマス、又吾々自ラモ多少始終自分等ノ頭ニ刺戟ヲ受ケテ居ル澤山ノ事實ガアル、此案ハ先刻委員長ガ、是ハ十數年以來ノ問題デアルトト仰シヤッタガ、ソノナコトハナイ、或ル一部ト連中ハ北海道ヲ喰物ニシテ、澤山山ニ木ノアツタ時ニハ、其山ヲ運動シテ賣ル木ヲ賣ル、或ハ其土地ヲ持テ餘シテ之ヲ會社ニ賣付ケ、或度ハ又持テ餘シタモノヲ政府ニ賣ラウト、連續的ニ、左様ナ人物等ニ依テ或ハ十數年ニ亙ラタ所ノ計畫デアッタカモ知レナイ、併ナガラ少クモハ社會ニ公ノ問題トナタタト云フコトハ、マダ三四年シカ經テ居ラス、而シテ今其目的ハ此政府ニ依テ今年ノ議會ニ拓殖計畫案ナルモノガ出來上ルノデアリマス、既ニ目的ハ達シ得ラレタノデアリマス、最近ニ於ケル二三ノ不純ナル動機トシテ吾々ノ考ヘルコトハ、所謂北海道ニ於ケル或政商ト云ハレル大キナ人、名前ヲ言フテモ宜シイ、(言ヘ

言ヘト呼フ者アリ)所謂田中清輔君ハ中心人物デアルト、ソレニ加フルニ蜂須賀家ノ顧問格デアルト所ノ小林孝太郎君、是ガ策動シテ居ル、ソレニ大地主ガ加テ頻ニ此運動ヲ盛ニシタモノデ、吾々モ諒解ヲ得ル爲ニ二三色々話サレタコトガアル、併ナガラ吾々ハ眞正直ニ正面カラ之ヲ考ヘテ、彼ノ人ハ北海道拓殖計畫ノ爲ニ本當ニ心配シテ吳レルンダト思フテ居タ、而シテ此拓殖計畫ガ成タ以上、其目的ガ達シ得ラレルヲラウト思フノニ、新シク又斯様な案ヲ出スト云フコトハ、彼等ハ今迄北海道拓殖ノ爲ニ盡クスノダト云フ、大キナ聲ヲ言フテ來タコトハ、全ク偽リデアッテ、此法案ヲ拵ヘシテ來タ、北海道拓殖ト云フ大ナル聲ヲ發シテ來タシヤナイカ(拍手)然ラザレバ斯様な重複ナ、而モ其内容ノ却テ世ヲ毒シ、又何等北海道民ノ悦バザル、斯様な案ガ茲ニ出ヤウ等ガナイ、吾々實際問題トシテ一部北海道ノ人々ガ言ヒマス、兎ニ角政友會ハ上手ダ、色々ナア、云フ案ヲ出ス直過君モ吾々ニ乘テラドウカ、君等ハ正直過ギルト云フヤウナ評モアル(拍手)併ナガラ實際問題トシテハ北海道拓殖進運ノ爲ニハ、立派ナ案ガ立ッテ居ル以上、一部サウ云フ方面ニソノ論ヲ爲ス者アリト雖モ、其等ノ人々ニ敢テ媚ル必要ナク、吾々ハ正々堂々ト進ンデ行カケレバナラナイノデアリマス、又北海道民ハ決シテ斯様な大地主ノ爲ニ土地ヲ救済スルニ便宜ナ法律、場合ニ依テハ惡イ政府ガ出來タ場合ニ於テ、其政府カラ睨マレタリスルトキニ、此法案デギユツノト苦メラレルヤウナ惡法律、斯様な法律ハ決シテ望ンデ居リマセヌ、自作農創定ノ事ニ付キマシテモ先刻來申シタ如ク、他ニ幾多ノ途ガアルノデアリマシテ、唯 提案者ハ聲ノミ、大キクシテ、此實行ノ上ニ於テ或ル者ノ懷中ヲ肥スカ、然ラザレバ或ル者ヲ苛メルカ、危險極マル此法案ハ絶對ニ反對シテ居ルノデアリマス、最後ニ一言申上ゲマス、昭和新政ノ初頭ニ於テ、吾々ハ政治ノ公正ヲ最モ期シテ居ル、此際ニ斯様な白晝出スベカラザル所ノ危險ナル不

純ナル案ガ出タト云フコトハ、實ニ遺憾ニ思フノデアリマス(拍手)政友本黨多數ノ御方々ガ之ニ賛成シテ居ラレバ、思フニ眞簡此案ヲ未ダ十分ニ御研究ナサレズ、普通ノ案ノ如ク御附合ニ之ニ賛成シテ居ラレル方ガ澤山アルノデアラウト私ハ信ジマスガ、諸君、此案ハ唯一黨一派ノ案デアリマセヌ、諸君、私共既ニ北海道ニ居ッテ此案ニ反對スルノデアリマス、況ヤ諸君ハ北海道ノ遠キ所ニ行ッテ——其土地ニ行ッテ此案ノ通過シタ内容ヲ言ハレタナラバ、諸君ハ選舉民ニ如何ナル顔ヲ以テ之ニ向フコトガ出來マスカ(拍手)ドウゾ感情ヲ去リ、全ク御互ノ本當ノ正シイ心ニ立歸ッテ、ドウゾ此法案ノ通過セザランコトニ努力セラレムコトヲ希望シテ、反對ノ意見ト致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 松實喜代太君(松實喜代太君登壇)

○松實喜代太君 諸君、私ハ本案ニ賛成スル一人デアリマシテ、其理由ヲ成ベク簡單ニ述ベタイト思フノデアリマス、暫ク御清聴ヲ煩シマス、本案ハ五十一議會ニ提出シタ案ト殆ド同一デアリマス——殆ドデアリマセヌ、成文ハ一字一句ノ修正ヲ加ヘナイノデアリマスガ、唯、理由書ニ少シバカリノ相違ヲ來シテ居ルダケデアリマシテ、本案提出ノ理由ハ昨年十分述べテアルノデアリマス、ソレデアリマスルカ、私ハ今此處ニ其提案ノ理由ハ省略致シマスガ、只今澤田君ヨリ本案ニ反對ノ理由ヲ述ベラレマシタ、又先程政府委員ノ俵政務次官ヨリモ、反對ノ理由ヲ述ベラレタノデアリマスルカ、其等ニ付テ聊カ所見ヲ述ベテ、諸君ノ御判斷ヲ御願ヒシタイト思フノデアリマス、先づ最初ニ申上ゲタイコトハ、澤田君ハ幾多中傷的ノ言葉ヲ以テ此案ニ臭味ヲ付ケタノデアリマス、澤田君ガ申サル、通リ本案ハ極メテ重要ノ案デアリマスルカラ、須ラク冷靜ニナッテ——冷カニナッテ、サウシテ此案ノ可否ヲ研究シテ見タイト思フノデアリマス、澤田君ガ本案ニ反對スル第一ノ理由トシテハ、拓殖計畫ニ自作農創定ノ

コトガアルザヤナイカト云フコトガ第一デアリマス、故ニ本案ノ必要ヲ認メナイト云フ、斯ウ云フコトデアリマス、ソレハ幾分其通りノコトハアリマス、即チ拓殖計畫ノ中ノ殖民ノ項目ノ下ニ、此自作農創定ノ間違ヒマシタ、民有未墾地開發ト云フコトガアルノデアリマス、民有未墾地開發ト云フハ、名ノ如ク民有ノ未墾地——未墾地ハカリテ開發スルコト云フノデアリマシテ、例ヘバ不在農場トカ、或ハ過大農場ト云フヤウナコトニ向テノ開發ノ途ハナイノデアリマス、拓殖デハナイト呼フ者アリ、拓殖デハナイノデアリマスルガ、又ソレニ付キマシテ頻リト此拓殖計畫ニ對スル、全般ノ御話ヲシテ居ルヤウデアリマシタガ、私ハ此事ニ付テハ他日機會ヲ以テ、果シテ此拓殖計畫ナルモノガ道民ガ満足シテ、澤田君ノ仰シヤルガ如クニ共鳴ヲシ、謳歌シテ居ルモノデアリヤ否ヤト云フコトハ、他日ノ機會ニ於テ論及スル積リデアラカラ、今日ハ其問題ニ付テハ避ケル積リデアリマス、第二ハ農林省ノ自作農創定ト云フモノハ、北海道ニ施行サレデハナイカ、斯ウ云フノデアリマス、私共ガ從來唱ヘ來タノハ勿論民有未墾地モ含シテ居リマスガ、過大農場、不在農場ノ如キモ開發スル必要ガアル、即チ十分ニ利用セラレザル土地ニ對シテ、是ハ自作農ヲ創定シテ、サウシテ其土地ノ利用ヲ全カラシムル必要ガアルト云フノデ、此自作農創定ト云フコトヲ唱ヘ來タノデアリマス、又農林省ノ所謂自作農創定ト云フコトハ、成程北海道ニモ適用サレテ居ルノデアリマス、而シテ今澤田君ガ此處デ申サレタヤウニ、昨年ノ此調ベアリマスル、申込金額ガ三百八十萬圓デアリマシテ、ソレニ對シテ許可シナクハ僅ニ二十萬圓前後デアリマス、即チ約二十分ノ一強デアリマス、斯ウ云フヤウナコトデハ北海道ニ到底其自作農創定ノ目的ヲ達成スルコトハ出來ナイノデアリマス、然ラバ先程モ御話ガアリマシタガ、府縣ト北海道トハ同ジヤウニ行クノデアラカラシテ、何モ北海道ニダケ特別ニサウ云フ事ヲシナク

テモ宜イデハナイカト云フ、斯ウ云フ御説デアリマシタガ、私共ハ北海道ト府縣トノ事情ノ異ナルコトヲ證スルノデアリマス、先ツ北海道ガ特別ニ扱ヒヲサレテ居ルト云フノハ、此事柄ニ近イ開發助成法ノ如キハ、今日迄北海道ニハソレガ適用ヲ受ケテ居ラヌ、拓殖費ノ中デ幾分ノ補助ヲ水田業者、水田開發ニ補助ヲ與ヘラレテ居リマスケレドモ、ソレハ非常ニ補助ノ額ガ少ナイ、府縣ハ開發助成法ハ田畑突込シテ一段歩約七十五圓強ニ當テ居ルノデアリマスガ、今日マデ北海道ニ補助サレタ率ハ一段歩二十二圓餘、十三圓位シカニ當テ居ラヌ、サウ云フヤウナ風ニ北海道ト府縣トハ特別ニ扱ヲ異ニシテ居ル、ノミナラズ北海道ニ大地主ノアルト云フコトハ、ドウ云フコトデアルカト申セバ、開拓ノ初メカラシテ、北海道ニ大ナル力ノアル者、大ナル資本ノアル者ヲ招來シテ、サウシテ北海道ヲ開ク必要ガアルト云フノデ、華族或ハ富豪ニ向テ大地積ノ土地ヲ拂下ゲ、或ハ貸下ゲタ制度ガアル、其結果トシテ北海道ニハ大地主ト云フヤウナモノガ生マレテ來タノデアアル、又モウツハ牧場デアリマス、以前ハ其土地ハ牧場適地トシテ處分シタノデアリマシタケレドモ、段々地方ガ開發サレニ從テ、今ハ此土地ヲ農耕地トシテ立派ナ土地ガアルノデアリマス、併ナガラ此牧場トシテ貸下ゲ、或ハ拂下ゲ受ケタノデアリマスカラ、牧場トシテハ立派ニ成功シテ、サウシテ所有權ガ移轉サレタノデアリマス、併ナガラ所有權ガ移轉シタ今日ニ至テ、其儘ニ矢張立派ナ農耕地デアリナガラ、其土地ガ開墾サレズニ其儘殘テ居ルト云フヤウナ實狀モアル、サウ云フヤウナ譯デアリマスカラ、自然ニ土地制度ト申シマスガ、土地制度即チ開拓ノ必要上、此大地主ト云フヤウナモノガ生レテ來タノデアアル、決シテ個人ガ土地ヲ壟斷シ、利權ヲ占領スル爲ニヤッタノデアリマセヌ、併シ物ニハ利害ガ伴フモノデアリマスカラ、多少サウ云フ利權ヲ壟斷シタ者モアルカモ知ラヌ、ケレドモ是ハ其利ニ伴フ弊デアツテ、此事一事ヲ

捉ヘテカラニ非常ニ彼此レ申スト云フコトハ、甚ダ其當ヲ得ヌト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、此第二拓殖計畫ノ中ニ民有未墾地開發ト云フノガアルカラ、此案ハ必要デアアル、或ハ又農林省中ニ自作農創定ト云フノガアルカラ、是ガ不必要デアルト云フコトハ、論據ニナラナイト私ハ信ズルノデアアル、此案ハ北海道ノ民有未墾地、半開地ト先程澤田君ガ申サレタガ、半開地ト申シタノハ十分ニ利用サレザル土地、即チ不在農場トカ、過大農場トカ云フヤウナ土地、又ハ既ニ開發サレテ居リマスガ、耕作地トナツテ居ルヤウナ土地ニ對シテ、此本案ヲ適用シタイト斯ウ云フノガ本案提出ノ理由デアアルノデアリマス、ソレカラ先程澤田君ノ説明ニハ、此自作農創定ノ申込三百八十萬圓全部デアルガ如キノヤウニ聞エタノデアアル、サウ云フ意味デ申サレタノデアリデセウガ、サウ聞エタノデアアルガ、是ハ決シテサウ云フ意味デナイ、今後此自作農創定スル爲ニ益、必要ヲ感ジテ來ル、先程工藤君ノ問ニ對スル政務次官ノ答辯ニ依テモ、千町歩以上ノ地主ガ澤山アルヤウデアリマスガ、ソレ等ニ對シテモ蓋シ必要ヲ感ジテ申込ガ出テ來ルダラウト思ヒマス、サウ云フ譯デアリマスノデ、決シテ此案ヲ不必要ナル案ト云フコトハ何處カラ出テ來タ言葉デアアルカ、私ハ甚ダ其了解ニ苦シムノデアアル、又社會政策ト土地ヲ開墾スルコトハ別問題ト云フヘラレヌコトモナイガ、自作農ヲ創定スル、土地ヲ開發スルト云フコトハ、即チ經濟問題デアアル、社會問題デアアル、又土地ヲ開發スル所以デアアル、之ヲ必シモ政府委員ノ俵君ガ之ヲ別ニ考ヘル方ガ宜イト云フヤウナ説ヲ爲シテ居ルガ、必シモ之ヲ別ニ考ヘナケレバナラヌト云フ理窟ハ毛頭ナイト思ヒマス、皆社會政策、土地開墾、土地ノ經濟的利用、皆是レ關聯シタ問題デ、北海道ト云フ一ツノ土地ニ對シテ、一ツノ塊リノ地方ニ對シテ自作農創定、即チ特別處理法案ヲ應用スルコトハ寧ろ私ハ適當ダト信ズ

ルノデアリマス、其次ハ憲法上ノ疑義ニ付テ彼レ申サレマシタガ、私ハ其學ニ於テハ甚ダ迂ナル者デアアルガ、委員長報告ニ依テ十分明ニナツテ居ルト思フ、又斯ウ云フ一ツノ實例モアル、水面埋立ヲスル際ニ當リマシテ必要ナル土地ヲ買收スルト云フ時ニハ、事業者トソレカラ土地水面ヲ持テ居ル所有者トノ間ニ協定ノ不調ナリ場合ニハ、地方長官ハ適當ニ裁定スベシ、其地方長官ノ裁決ハ最終ノモノトシテ異議ヲ許サズト云フヤウナ、土地收用法ニ對スル特別ノ例ガ開カレアル、是ハ水面埋立、水面埋立ニ對シテサヘモサウ云フコトガアル、自作農創定、食糧調節、或ハ人口ノ調節ト云フコトガ、今日ハ非常ナル我國ノ國策トシテ必要ナル譯デアリマスルカラ、是以上ニ必要デアアル、故ニ此土地收用法ヲ以テ土地ヲ收用スルト云フコトハ、何等憲法ニ抵触シナイト私ハ信ジテ居リマスガ、併シ私ハ茲ニ一言ヲ費サルヲ得ナイコトハ、政府當局ノ御話モ、只今澤田君ノ御話モ、極端ノ所ヲ説明シテ居ル、斯ウ云フ場合ガアタナラバドウスルカト云フ、極端ナ場合デアアル、土地收用法ヲ應用シナイデモ、北海道ニハ澤山土地ガアル、此處ニモ書イテアリマスガ、直ニ農耕地ニ利用シ得ベキ土地ガ百二十萬町歩モアルト云フ、是ハドウ云フ數字カラ割出シテ來タカト申セバ、道廳ノ統計ニ依ルト云フト、民有地ト云フモノガ百二十萬町歩アル、此百二十萬町歩ノ中、道廳ノ見ル所ト吾々ノ見ル所トハ多少異ニシテ居マスガ、私共ノ見ル所ハ八十萬町歩ガ直ニ農耕地ト爲シ得ル土地ト信ジテ居ル、此他ニ過大ノ農場、若クハ不在農場ト云フヤウナ十分利用サレザル土地ガ四十萬町歩アル、之ヲ合セルト百二十萬町歩ナルノデアリマス、斯ウ云フ風ニ未墾地、若クハ十分ニ利用サレザル土地ガ百二十萬町歩モアル、其他ニ立派ニ開ケテハ居ルガ小作地ニナツテ居ル土地ガドウ云フ風ニアリカト申セバ、田地ガ約十三萬町歩アリマスガ、其中ノ約半分ト云フモノハ小作地ニナツテ居ル、又畑地ハ約六十八萬町歩アリマ

スガ、其中約半分が矢張小作地ニナッテ居
ル、要スルニ只今十分ニ開發セラレザルモ
ノ、全ク未墾ノ儘ニ在ルモノ百二十万町步
アル、此外二田ニ於テハ六万五千町步、畑
ニ於テハ三十四万町步ト云フモノガ小作地
ニナッテ居ル、ソレデ是等ノ土地ヲ自作化
スルト云フ上ニ於テ、必ズシモ憲法ヲ適用
シナケレバ買収ガ出來ナイト云フノデナ
イ、是ハ萬々一ノ場合必要ガアル隣地マデヲ
買上ダタガ、ソコニ中間ニ挾テ居ッテ、
サウシテ自作農ヲ創定スルニハ差支ガアル
カラ、ドウシテモ此土地ヲ賣ッテ買ハナケ
レバナラヌ、買ハネバナラヌ、斯ウ云フ際
ニ當テ因業ナ地モガアッテ、ソレハ賣ラレ
ナイ、斯ウ云フコトニナリマスレバ、其土
地ヲ牧用スルコト——買収スルコトガ出來
ナイカラ、或ハ其土地ニ限ッテ土地收用法
ヲ適用シナケレバナラヌコトモアラウガ、
是ハ萬一ニ備ヘル爲デ、始終アルト云フノ
デナイ、諸君、ソレヲ始終アル如ク極端ニ
論ジテ居ルノハ、吾々ノ見ル所ト大ナル差
異ノアル點デアリマス、ソレカラ拓殖計畫
ヲ破壞スルト云フガ、此法案ガ出タカラト
云、若シ衝突スル所ガアレバ、ソレハ民有
未墾地開發ト云フ一節目ニ支障ガ起ルト云
セウ——サウ云フ一節目ニ支障ガ起ルト云
フノデス、ソレヲ以テ此案ガ出テ拓殖計畫
ノ全般ヲ破壞スルト云フコトハ曲言モ亦甚
シト言ハザルヲ得ヌト思ヒマス、決シテ
ソレナモノデナイ、此案ト或ハ政府ノ案ト
兩立サシテヤッテモ宜カラウ、隨テ此案ガ成
立シタラバ政府ハソレト一絡ニヤルノハイ
カラカラト言フノナラバ、其民有未墾地開發
ト云フ一節ダケヲ一寸修正スレバ宜シイ譯
デアル、ソレヲ以テ何デモ此案ガ成立スレ
バ拓殖計畫ノ全般ヲ壞スナド、言フコトハ、
洵ニ私ハ言ヒ過ギタコトデナйкаト思フノ
デアリマス、ソレカラ其次ニハ提出者ノ動
機ニ不純ガアルト頻ニ嫌味ヲ並ベタノデア
リマスガ、サウシテ其一例トシテ田中清輔
ノ御話ガ出タ、是ハ私共能ク知ッテ居ルガ、
今ハ田中清輔個人ハ決シテサウ云フヤウナ
自作農ヲ創定シナケレバ處置ニ困ルト云フ

ヤウナ土地ヲ持ッテ居リマセヌ、私ハ能ク
知ッテ居リマス、是ハ北海道ノ開發ノ爲ニハ
金錢モ惜マズシテ自ラ運動ヲシ——運動ト
云ヒマスガ、東京ニ出テ來テ、サウシテ熱
心ニ盡力シタ、又色々全ク此拓殖ノ爲ニ犧
牲ノ精神ヲ以テ働イテ居ル人デアアル、是ガ
以前ハ土地ヲ持ッテ居ラ、土地ヲ持ッテ居
リマシタガ、ソレハ彼ハ自カラ自作農ノ創
定ヲ行ッテ立派ニ數箇所ノ自作農創定ニ成
功シテ、サウシテ其部落、其村ト云フモノ
ハ富裕ナル立派ナル村トナッテ、今日ハ田中
清輔自カラ決シテサウ云フ土地ハ持ッテ居
ナイ、又此問題ニ付テ蜂須賀農場ノ小林孝
太郎云々ト云フ御話モ出マシタガ、是モ全
ク間違ッテ居ルノデアアル、何故ナラバ小林
孝太郎ノ關係シテ居ル蜂須賀農場ト云フモ
ノガ引合ニ出サレタカラ私ハ話ヲスルノデ
アルガ、ソレハドウ云フ風ニナッテ居ルカ
ト云フ、數千町步ノ立派ナル田地ヲ持ッ
テ居ラレル、此案ガ通過シタカラト云、
此案ノ御厄介ニナルコトハナイ、直接ニ小
作人ト解決ガ著クノデス——既ニ著イタ答
デアリマス——ソレハ昨年デアリマシタ
カ、小作人ヨリ二十箇年賦ニシテ、今ノ一
等地ノ小作料ハ六斗デアアルガ、ソレヲ一割
負ケテ二十箇年賦ニシテ、土地ノ所有權ヲ
移シテ與レト云フコトヲ小作人ガ申出シタ、
即チ一割負ケルトスレバ六斗カラ一割ヲ引
ケバ五斗四升、五斗四升デ以テ二十箇年賦ニ
シテ、ソレデ土地ノ所有權ヲ移シテ與レ、斯
ウ云フコトヲ小作人ガ申出シタ所ガ、小林
孝太郎君ハ準備期間トシテ五年ヲ存置シ、
二十五年ノ後ニハ小作人ニ全部土地ノ所有
權ヲ移スガ、五箇年ノ準備期間ヲ置イテ與
レ、斯ウ云フコトノ爲ニ直ニ解決シナカ
タカモ知レヌガ、今日ハ最早解決シタラウ
ト思フ、決シテ、云フ大農場、而モ蜂須
賀侯爵ノ農場ノ如キヲ此法案ガ成立シタカ
ラ、此法案ニ依ッテ買収シテ小作人ヲ自作
農ニスルナドト云フコトハ、全然私ハナイ
コト、確信シテ疑ハヌデアリマス、斯ウ
云フ嫌味ヲ以テ此案ニ臭味ヲ付ケヤウト云
フコトハ、甚ダ卑劣ナ、是コソ不純ノ動機

デナクシテ——卑劣ノ動機デアルト私ハ思
フ、ソレカラ又第二ニハ地主擁護、是ハ昨
年モ此處デ坂東君ガ非難サレタコトデアリ
マスガ、決シテ地主擁護デハナイ、吾々ハ小
作人ヲ救済——救済ト云フ言葉ヲ遣ヘバ或
ハ語弊ガアルカモ知レヌガ、小作人ヲ無クシ
テ——小作地ヲ無クシテ、サウシテ全部自
作農地ニシ、自作農者ニシタイト云フノガ
吾々ノ理想デアアル、是カラ出發シテ居ルノ
デアアル、澤田君ハ此案ハ二三年前ニ持出サ
レタコトダト言フガ決シテサウデハナイ、
此事柄ハ大正ノ初頃、明治四十二年頃
カラ始タコトデ、諸君ハ御承知デアリマ
セウ、彼ノ北海道帝國大學ノ農政ニ精
通サレテ居ル所ノ高岡博士ガ其頃ニ主
張シ、又元ノ河島長官、中村純九郎長官
ノ如キモ北海道ノ拓殖ヲ進メルコトニ付テ
ハ、唯、單ニ未開地ヲ處分シタダケハイケナ
イ、民間ノ手ニ移ッテ居ル所ノ土地ヲ十分
自作農化セシメルニハ、政府ノ方ニ於テ相
當ノ力ヲ貸サナケレバイカヌト云フコトヲ
唱ヘテ來タノデアアル、現ニ本議會ニ建議案
ガ提出ニナッテ居リマスガ以前ニモ東代議
士ノ名ニ依ッテ建議案ハ大正二年ニ提出ニ
ナッテ居ルノデアアル、ソレカラ大正十一年、
十二年ニ於テハ私モ提案ヲ致シマシタ、又
前代議士ノ木下成太郎君モ提案シテ居ル、
一昨年ハ憲政會ノ諸君ト一絡ニ此案トハ少
シ異ツテ居リマスガ法案ヲ提出シテ、多數
ヲ以テ衆議院ヲ通過シテ居ル、サウ云フヤ
ウナ歴史ガアル、決シテ昨今是ガ現ハレタ
モノデハナイ、今日ニ至ル迄此事柄ハ十幾
年、或ハ二十年以上ニモ互ニテ論究サレテ
居ル問題デアアル、サウ云フヤウナ譯デ私共
ハ之ヲ提出シタケレドモ、決シテ政友會ノ
案デヤナイ、北海道會ニ於テモ幾度カ之ヲ
建議シ、憲政會ノ諸君モ之ヲ政綱トシテ掲
ゲ、本黨ノ諸君モ之ヲ政綱トシテ掲ゲテ居
ル、決シテ吾々政友會ノ單獨ノ案デヤナイ
ノデアリマス、道民ガ一致希望スルノミナ
ラズ、全ク現代ニ於テハ、是ヨリ北海道ヲ開
クノ途ハ無イト確信シテ居ルノデアリマ

ス、ソレカラ是ハ政務次官モ御心配ノヤウ
デアリマシタ、只今澤田君モ御心配ノヤウ
デアリマシタガ、土地ガ賣レズシテ背負ヒ
込ム虞ガアル、(ストク)スル虞ガアル、斯
ウ云フコトヲ言ヒマスガ、是ハ全ク其實情
ニ適セナイモノデアアル、賣レヌヤウナ土地
ヲ何モ好ンデ買フ必要ハナイ、賣レルヤウ
ナ土地、自作農ヲ創定シナケレバナラヌ
土地ニ向ッテ之ヲヤルト云フコトガ、先ヅ
以テ處理委員會ニ於テ決定スルノデアアルカ
ラ、ソレニ依ッテ處理シナケレバナラヌト
云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ又
一部分賣レナカラドウスルカ、ソレハ
買フ時分ニ各筆ニ就テ十分調査研究ヲシタ
ナラバ、全ク農耕ニ適セナイ土地モアリマ
セウ、サウ云フモノハ安タ買ヒ、或ハ無價
値ノモノガアルカモ知レナイ、サウ云フモ
ノニ向ッテハ無論買受人ガナイデセウ、農
耕地トシテ買受人ガナクとも、植樹地、放
牧地、林場トシテ安ク買入レル、又買受人
ガナイヤウナ土地ナラバ、無價値ノモノデ
アル、決シテ政府ガ土地ヲ背負ヒ込ムヤウ
ナ虞ハアルベキ筈ノモノデハナイノデア
ル、之ニ付テ向御考ヲ願ハナケレバナラ
ヌノハ、斯ウ云フヤウナ土地ガ在ルガ爲ニ、
奧ノ方ニ國有未開地ガアッテモ、交通ガ遮
斷サレル爲ニ、奧地ノ開發ヲ妨ゲルコトガ
到ル處ニアルノデアリマス、之ヲ處分シナ
ケレバ國有未開地其モノヲ處分スルコトニ
於テモ、亦困難ナ事情ガアルノデアリマ
ス、是ハ政府ガ十分能ク知ッテ居ル筈デア
リマス、到ル處ニサウ云フ土地ガアル、ソ
レカラ又未開地ガアルカラ云々ト云フ話モ
アル、未開地モ勿論アリマス、アリマス
ガ、斯ウ云フヤウナ便利ナ土地ニ澤山民有
ノ未墾地ガアルカラ、之ヲ併セテ自作農創
定ヲシタイト云フノガ目的デアアルノデア
リマス、大分時間ヲ費シマシテ諸君ノ御清聴
ヲ煩ハシマシタ、是デ止メマスガ、以上申
シタヤウナ趣意デアリマスルカラ、何卒本
案ニ御賛成ヲ願ッテ、通過スルヤウニ希望
スル次第デアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 坂東幸太郎君

(坂東幸太郎君登壇)

○坂東幸太郎君 此法案ニ對シマスル
ト一ノ戰慄ヲ感ズルノデアル、ソレハドウ
云フ譯デアラカト申シマスレバ、此法案ガ
最初現ハレタル第五十議會中ニ於キマシテ、
私ノ反對演説ニ對シテ止メテ吳レト云フ所
ノ脅カシ文句モ聽イタノデアル、又私ノ宿
ニ私ノ友人デ、ドウカアノ案ニ賛成シヤウ
デヤナイカト云フ工合ニ、一種ノ買収的ノ
言葉ヲ以テ來タ人間モ二三アタノデアル
(謹聽私ハ苟モ議會ニ於テ國家ノ重大ナル
問題ヲ議スル時ニ當テ、或ハ脅迫的ノ言葉
ヲ弄スル者ガアリ、或ハ自分ノ宿所ニ殆ド
買収センガ如キ言葉ヲ以テ來ルト云フ風ナ
人間ガアルト云フコトハ、誠ニ聖代ノ不祥
事ト言ハナケレバナラス、ソコデ私毛絲ノ
「シヤツ」ハ著テ居リマスガ、ブルノト身ハ
震ヘル、只今松實君カラ色々御話ガアリマ
シタガ、ドウモ松實君ノ御話ガ分ラヌ、益
反對ノ程度ガ高クナラテ來ル、何トナレバ
松實君ハ或ル時ニハ六千萬圓ノ公債ニ依
テ、十三四万町歩位買入レルト云フコトヲ
言フコトモアル、又或ル場合ニハ四十万
町歩位買入レト云フコトモアル、又或ル時
ハ二百二十万町歩買ヒ、或ハ牧場ニモシ、
若クハ植樹モスル、斯ウ云フ風ニ委員會
ハ屢々異テ談フ爲シテ居ルノデ(委員會コ
トハナイト呼フ者アリ)チヤント私ハ委員
會デ聽イテ居リマシタ、其速記録ハマダ出
來ナイデヤナカ、其速記録ノ來ナイ中ニ
出スト云フコトハ間違テ居ル、即チ提案
者ノ説明ニ依ルト、殆ド其眞意ガ何處ニ在
ルカ少シモ分ラヌノデアル、斯ウ云フ法案
ニ對シテ賛成スルト云フコトハ出來ベキモ
ノデヤナ、諸君此問題ノ中心ハ、先程澤
田君ノ御話ノ通り、田中清輔君ト小林孝太
郎君デアリマシタ、田中君ノ勢力ノ下ニ
ハ、大キナ數万町歩ノ未開地ヲ持テ居ル
ノデアル、其小林君ハ昨年來田中君トハ少
シ仲ガ惡クナレタ、東君ガ經營スル「タイ
ム」紙上ニ於テ、寧ロ反對ノ意見ヲ出シテ
居ルノデアル、サレバ事實ニ於テ此法案ノ
策源地ト見ルベキモノハ、田中清輔君一派
ノ人ミト云ハナケレバナラス、是ガ先ヅ第
一ニ私ノ反對スル所ノ理由デアリマス、一
體提案者諸君ノ眞意ヲ私ハ疑フノデアリマ
ス、現在北海道ノ民有地ハ山程アルノデ
アル、幾ラデモ安ク買フコトガ出來ルノデ

アル、若モ此法案ニ依テ土地ヲ買ヒマシ
タナラバ、現在ノ土地ヨリモ地價ガ高クナ
ルトモ賣レナイ所ノ土地ガ高ク賣レカ、安
クトモ賣レナイ所ノ土地ガ高ク賣レカ、私
ハ此點ニ於テモ提案者ノ眞意ヲ疑フノデア
リマス、又松實君ニ一言致シマスガ、松實
君ハ拓殖計畫ノ中ニ於テ、第一ニ大地積ノ
處分ノ法ガナイト云フコトヲ只今申サレマ
シタガ、ソレハ何カノ間違ヒデアル、松實
君ハ民間委員トシテ拓殖調查委員會ニ於テ
熱辯ヲ用ヒ長廣舌ヲ振ヘタ人デアリマス
トアリマス、而モ其一説ニ依リマス其事ガチヤン
トアリマス、即チ民有未利用地ヲ約五千
万圓ノ程度ヲ以テ、所謂低利資金ノ貸付先
取特權ヲ與ヘル、サウシテ其利ヲ四分ハ
厘トナシ、三分五厘ハ土地賣主ノ負擔トナ
シ、一分三厘ハ拓殖費ノ負擔トスル、其金
額ハ七百七十五萬圓トシテ計上シテアル
ニ、即チ未利用地ノ政策ト云フモノハ完全
ニ拓殖計畫ノ中ニ立テ居ルノデアリマス、
一體北海道ガ開拓スベクシテ、其促進
ガ遲延シタル原因ハ何處ニアルデアリマセ
ウカ、私ハソレハ所謂大地主、過大農場主
ノ橫暴ナリト斷ジテ憚ラヌノデアリ(拍手)
私モ松實君ト同様三十六年北海道ニ居テ
能ク知テ居リマスガ、勿論大地主ガ出來
タノハ、ソレハ法律ノ根據ニ基クノデア
ルカラ、ソレハ不正デヤアリマセヌガ、而モ
當然開墾スベキ義務ガアルニモ拘ラ
ズ、或ハ之ヲ放任スルカ、或ハ検査官
ニ賄賂ヲ使フテ、所謂検査ヲ瞞シテ
居ル、サウ云フヤウナコトガアルガ爲
ニ、北海道ノ大地積ノ過大農場ト云フモ
主ニ誠意ガアルナラバ、上派ニ開墾ス
コトガ出來ル、例ヘバ蜂須賀農場ノ如キ若
クハ其他澤山アリマスガ、相當ノ資本ヲ
投ジテ之ヲ經營シタ大農場ト云フモノハ、
皆相當ニ成功ヲ收メテ居ルノデアル、併ナ
ガラ田中清輔一派ノ勢力下ニアルヤウナ土
地ハ、當然開墾スベキ義務ヲ怠テ居ルカ
ラ、即チ荒廢シテ居ルノデハナイカ、サウ
云フ荒廢シテ居ル土地ヲ政府ガ應法律ノ
力ヲ以テ買上ゲ、サウシテ義務ヲ急テ居
ル大地主ヲ救済スル必要ハ少シモナイト私
ハ信シテ居ル、北海道ノ人ハ恐ラク小作人
モ此法案ニハ反對デアラウ、其理由ハ現在
ナラバ地主ト妥協シテ比較的安ク買フコト

ガ出來ルガ、若シモ政府ガ之ヲ買上ゲテ自
分等ガ買フ場合ニハ、却テ高クナルカラ反
對ダト云フコトヲ言ウテ居ル、又其様ニ北
海道民ノ全體ノ輿論ト云フモノハ決シテ斯
ノ如キモノヲ歡迎シテ居ルモノデハナイ
デアリマス、又一體北海道ノ開拓ト云フモ
ノハ、松實君ガ言ハレタル如ク自作農本位
デハナイ、北海道ノ未開地、北海道ノ未利
用地ヲ開拓シテ、サウシテ人口食糧政策ヲ
實現スルト云フノ目的デアル、決シテ自
作農其モノガ本位デハナイノデアル、而モ
自作農ヲ創定スルニハ先程來ノ御説ノ如
ク、日本全體ヲ通ズル所ノ所謂法律ニ依
内地モ北海道モ同様ニ、低利資金ト云フモ
ノガ供給セラレテ居ル、然ラバソレ以外ニ
開拓ノ必要ナカ、所謂九億六千万圓ノ二
十箇年計畫ヲ立テ、未利用地ノ利用ト云フ
所ノ規定ヲ設ケテ居ルノデアル、然レニモ
拘ラズ、更ニ斯ノ如キ非難多キ法律ヲ以テ、
此自作農創定ト云フヤウナ事ヲヤルトシタ
ナラバ、三重ノ負擔ト云フコトニナルノデ
アル、決シテ其必要ハ無イノデアル、又即
チ強制買収、土地收用法ノ適用ト云フ事ハ
ゴザリマスルガ、私ノ信ズル所デハ土地收
用法ト云フモノハ、即チ或土地ノ局限シテ
收用法ノ規定ニ依テヤルベキモノデア
ウト思フ、他ノ法律ノ中ニ於テ唯、土地收
用法ヲ適用スルト云フヤウナ簡單ナモノデ
ハナイト思フ、言換ヘマズルバ、土地收
用法ノ適用セントスルナラバ、土地收
用法ノ條文ノ中ニ、斯ル場合ニハ之ヲ適用ス
ルト云フ一項ヲ、土地收用法中ニ設ケナケ
レバナラヌト思フ、此ニ於テ土地收用法ノ
適用ト云フコトハ、所謂憲法違反デアルト
云フ所ノ議論ガ起ルノデアリマス、德斯ノ
如ク如何ナル方面カラ見マシテモ、斯ノ如
キ法律ヲ作ルト云フコトハ、所謂屋上
造リモノデアル、又程北海道民殆ド全部
ガ反對シ、殆ド全部ガ之ニ向テ或一種ノ
疑ノ眼ヲ投ジテ居ルモノヲ、咄嗟ノ間ニ定
ナケレバナラヌト云フ必要ハナイノデア
(ヒヤ)又「本法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム」ト規定スルノデアルカ、若モ本
當ニ諸君ガ此法律ヲ速ク施カナケレバナ
スト云フナラバ、即チ公布ノ日カラ之ヲ施
行スルト云フノガ當然デハアリマセヌカ
(小泉副議長議長席ヲ退キ、粕谷議長
復席)

サウシマシタナラバ、唯、法律サヘ作レバ
實施ハ政府ノ手加減ニ委ヌ、言換ヘマスレ
バ、或方面カラ此法律ヲ作ル或ル一ツノ義
務ヲ負擔シテ居ルノデハナカラウコト云フ
疑ガ起ル、即チ北海道拓殖計畫ハ政友
會ノ諸君ニ於テモ恐ラク豫算ニハ賛成ノ態
度ヲ執ルト云フコトガ新聞ニアリマスガ、
諸君ハ豫算ニ於テ二十箇年九億六千万圓ノ
拓殖計畫ト云フモノヲ是認セントシテ居
ルノデアル、然レニ拓殖計畫ノ系統ヲ素
ウナスノ如キ法律ヲ作ルト云フコトハ、是
ハ大ナル矛盾ト謂ハナケレバナラス(拍手)
所謂昭和ノ新政ニ當テ、斯ノ如キ疑義ノ多
イ所ノ法案ヲ作り、委員會ノ速記ガ十分
出來ナイ中ニ、咄嗟ノ間ニ之ヲ決メントス
ルナラバ、世人ノ議會ニ對スル信用ト云フモ
ノハ薄ラグノデハナカラウコト云フコトヲ
思フ(拍手)諸君ヨ、希クバ冷靜ニ此法案ヲ
研究サレテ、絕對ニ反對シテ之ヲ即刻否決セ
ラレンコトヲ希望シテ此壇ヲ降リマス(拍
手)

○議長(粕谷義三君) 丸山浪彌君
(丸山浪彌君登壇)

○丸山浪彌君 此ハ本期議會ノ政局ニ鑑ミ
マシテ、苛烈ナル政爭ハ避ケンコトヲ希望
スルモノデアリマス、併ナガラ本法律案ニ
付キマシテハ、實ニ我國現代ノ國難ト叫
バ、所ノ人口食糧ノ國策問題ノ上ニ於テ、
此法律ノ成否如何ト云フ事ガ重大ナル關係
ヲ持テ居リマス故ニ、提案者ノ一人ト
シテ暫ク諸君ノ御耳ヲ汚シタイト思フデア
リマス、私ハ先以テ先刻來澤田君、坂東
君、兩君ノ反對ノ御意見ヲ謹聽致シテ居
リマシタガ、此御意見ニ對シテ先ヅ一言ノ反
駁ヲ加ヘタル後ニ、私ノ此提案ノ眞意如
何ニ只今眞意ガ分ラヌト云フコトデア
リマスカラシテ、其眞意如何ニ付テ十分ニ
御耳ヲ汚シタイト思フ(拍手)澤田君ハ過去
ニ於テ斯ノ如キ問題ハ北海道ニ於テモア
タ、吾々ガ道會議員ノ時代ニ於テアツタ、ソ
レハ今度ノ拓殖計畫案ヲ速ニ樹立セントコ
トヲ希望スルガ爲ニ、建議案ヲ出シタコトガ
アルケレドモ、今日ニ於テハ左様ナ事ハナ
イ、斯ノ如キ案ハ北海道民ガ悉ク喜バナ
案デアルト云フ所ノ御意見ヲ御述ベニナ
タノデアル私ハ實ニ此大膽不敵ナル御意見
ニ驚カザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)此
ニ於テ特ニ憲政會ノ諸君ニ能ク聽イテ頂キ
タノデアル、昨年ノ十二月ノ北海道會一

今茲ニ讀上ゲマス、昨年十二月、今此議場ニ現ハレテ居ル所ノ北海道拓殖計畫案ノ大體案ガ世ニ發表セラレタル後ニ於テ、北海道會ニモ憲政會ノ道會議員ガ、絶對多數ヲ得テハレドモ、最大多數黨デアル北海道會議場ニ於テ、満場一致ヲ以テ如何ナル建議案ヲ出シタカト云フコトヲ諸君ノ御耳ニ入レマス(拍手)誠ニ之ヲ朗讀スルコトハ時間ノ上ニ於テ私自身モ苦痛ニ感ジマスケレドモ、暫ク御許アラムコトヲ希望シマシマス、諸君、自作農創成ニ關スル件、滿場一致北海道議會ニ於ケル所ノ、是ハ昨年ノ十二月十二日ノ建議案デアリマス、道内所在ノ農地ヲ普ク自作化シ、小作農ノ地位境遇ヲ轉換向上スルト共ニ、農地ノ利用ヲ周到ナラシメ、地產増殖ヲ圖リ以テ人口食糧兩問題ノ調節ヲ、農民ノ安定ニ資スル社會上、經濟上ノ重要ナル施設トシテ、自作農ヲ創成スルガ爲メ、本道ニ特別ノ法律ヲ布キ徹底シテ其方法ハ國債券ノ交付ニ依リテ民有未利用地及ビ既墾田畑中ノ小作地ヲ一旦國ノ手ニ買收シ、土地ノ情況ニ應ジテ道路、橋梁、排水、飲用水等所要ノ設備ヲ施シ、之ヲ區劃分割シテ、低利年賦(利率年三厘五厘以内三十箇年賦ノ程度トス)償還ノ途ニ依リ、農業希望者ニ分テ、其利子ノ差額ニ對シテハ國費ヲ以テ補助シ、土地ノ選定、買收、評價、整理改良、分割賣拂ノ方法、代價ノ決定等ハ別ニ機關ヲ設ケテ官民兩者ヨリ委員ヲ撰任シ、公正ニ審査評決スルヲ骨子トセラレンコトヲ望ムト云フ建議案ガ出テ居ル、而シテ其理由ノ中、最も緊要ナル所ヲ簡單ニ述ベマス、之ヲ全部引用シマスト長クナリマス、之ヲ要約ナル所ヲ申上ゲテ置カウト思ヒマス、諸君、此法案ハ「幸ニ衆議院ニ於テハ三度之ガ建議案ヲ通過シ、第五十二議會ニハ法律案トシテ衆議院ヲ通過シ、第五十二議會ニ此處ニハアリマス、五十三議會ニ此處ニハアリマス、御承知ノ如ク、三派悉ク聯合ノ下ニ二千萬圓ノ案ガ衆議院ヲ通過シタコトハ、私ノ申上ゲルマデモナイコトデアアル、ソコデ「五十二議會ニ於テモ、議員ヨリ法律案ヲ衆議院ニ提出セラレテ、委員會ヲ通過シ、國論ノ歸嚮既ニ略ボ定マリタルノミナラズ、政府ニ於テモ大ニ是ニ顧リ所アリ、北海道第二期拓殖計畫案

中ニ民有未墾地開發ノ一項ヲ加ヘ民有未利用地ニシテ農耕ニ適スルモノノ内、四十萬六千餘町步ニ對シ、自作農ヲ助成スル爲メ、土地購入代金トシテ、大正十六年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十箇年間ニ、四千九百餘萬圓ノ低利資金ヲ供給シ、其利子四分八厘ノ内、一分三厘ヲ拓殖費ヨリ補助スルノ案ヲ立テ、近ク議會ニ提案セラレントスト聞ク」是ハ此通りデセウ「多年道民ノ熱望シ而モ其實施ヲ得ザリシ自作農創成ノ片鱗ガ拓殖計畫案中ニ現ハレタルハ、欣快ニ堪ヘザル所ナリト雖モ、審ニ之ヲ検討シレバ其實行ニ當テ效果ヲ危マルモノト渺シトセズ」此處ニ大切ナ理由ガアルノデアリマス、諸君「今次拓殖計畫案中、民有未墾地開發ノ規畫ハ全然府縣ニ於ケル農林省ノ自作農創成ノ施設ヲ模倣セルモノニシテ、本道ノ實情ニ適應セザルノ感アリ、即チ府縣ニ在リテハ止地ト小作者ト兩々密着シ而モ民有耕種地ニシテ大面積ニ互ルモノ、如キハ極メテ僅少ナルヲ以テ、單ニ資金ノ供給ト利子ノ補助ニ依リ、或ル程度マデ自作農化ノ效果ヲ舉ゲ得ベシト雖モ、本道ニ至テハ土地餘リアリテ人少ク、開拓ノ業、主トシテ道外ヨリ招來スル移民ノ力ニ待タザルベカラズ、然ルニ之ヲ任意ノ發動ニ委シ、若干ノ宣傳勸誘ヲ以テ、本道ノ實際ヲ理解セザル府縣人ニ土地ヲ購入セシメントスルガ如キハ、竟ニ座上ノ談ノミ、加フルニ本道ニ於ケル民有未利用地ノ多クハ、一團地百町步乃至數百町步ニ互ル大面積ニシテ、而モ之ニ負債ノ伴ハザルモノ稀ナリ、假令國ニ於テ低利資金ヲ供給スルモ、如何ニシテ個々ノ希望者ヲ糾合團結シ、是等負債附ノ大地積ヲ購入分有セシムベキカ、所詮國家ノ手希ニ一旦之ヲ買收シ、適當ニ區畫分割シテ希望者ヲ招致スルニアラザル限リ、自作農扶植ノ目的ヲ達成スルコト能ハザルベシ」是ガ北海道一致ノ聲デアリマス、此事ハ澤田君、坂東君ガ如何ニ本案ニ反對セント欲スルト雖モ、此事實ヲ否定スルコトハマサカ容スルコトハ出來マス、(拍手)扱テ私ハ今本案提出ノ理由ヲ申上ゲルニ當テ、第一ニ先ツ諸君ノ冷靜ナル御判斷ヲ仰ゲントスルノハ、反對者ハ、議論ノ中心トシテ是ハ疑惑ノアルモノデアアル、不純ナル意味ヲ含ムト云フコトヲ以テ、洵ニ世人ニ嫌ガラセノ聲ヲ放ツコトハ、私ハ遺憾トスル者デアアル、殊ニ今日ノ時事新聞ニハ、政府側

ノ意見トシテ聞クモ忌ハシキ所ノ條項ヲ續續述ベラレテアリマスニ依リ、是等ニ對テ先ツ私ハ一言申述べテ見タイト思フデアリマス、諸君我ガ北海道、北海道ノコトハ、餘リ多ク申シマセデモ、諸君御分リデアリマセウガ、今日ノ國家經濟ノ上ニ於テ此自作農ヲ創設スルノニ、内地府縣ニ求ムベキカ、北海道ノ拓殖地ニ求ムベキカト云フコトヲ先ツ前提ニ置イテ、是ガ判斷ヲ下サナクハバ、田ハ少クモ一反歩平均六十五十圓内外デアラウ、而シテ畑亦三百圓内外デアアル、然ルニ北海道ノ土地ノ價格ハ田ニ於テ平均百二十圓、畑ニ於テ三十圓内外デアアルト云フコトモ亦反對論者諸君、是ハ事實トシテ否定スルコトガ出來ナイデアラウ、然ラバ此廣漠タル所ノ富源ヲ開發シテ、此地價ノ安イ所ニ國家ガ利子ヲ補助シテ、自作農ヲ創成セント欲スルコトハ、當然國家國策トシテ毫モ疑フベカラザルコトハ、ハアルマイカ、諸君ハ今日社會政策ノ上ニ於テモ、食糧政策ノ上ニ於テモ、深ク頭ヲ悩マセラレテ居ル、此時ニ於テ自作農ヲ創定スルニ、此廣漠タル所ノ富源ヲ開發スル北海道アルコトヲ忘レテ何トスル、此北海道ガ人口問題、食糧問題ハ左程ニ苦痛ヲ惹ヘルニ及バヌノデアリマセウ、諸君、内地ノ人口ハ一里ニ於テ三千有餘ノ稠密ナル所ノ人口ヲ持テ居ル、北海道ハ四百三十里ヲナイ所ノ稀薄ナル所ノ人口ヲ持テ居ル、併ナガラ其地味ノ豐富ナルコトハ、又國家萬民之ヲ知ルト雖モ、其交通不便ニシテ墳墓ノ地ヲ離レルトトヲ潔シトセザルガ爲ニ、北海道ガ未ダ運送トシテ開發ノ振ハザル今日ニ於テ、自作農ヲ創定セントスルコトハ、國策デアリ又社會政策デアルトシタナラバ、此北海道ニ向テ國家ガ力ヲ舉ゲルト云フコトハ、當然ノ歸結デアアルマイカ、此國家國策ヲ實行スル所ノ當然ノ歸結ニ向テ、吾々ガ此法案ヲ提出シタル上ニ於テ昨年モ坂東君ハ此法律ハ不純ナル分子ガアル、只今モ御聞キケレドモ、何ダカ誘拐ノトカ、買收ニ來タルカ云フヤウナ、洵ニ嫌ガラセナコトガ果シテアルカドウカ、或ハサウ云フ人ガアツタカ知レマセヌガ、併ナガラ私ハ斯ノ如キコトガ、此法案ノ根本ニ於テ、之ヲ否決スルノ理由トナルヤ否ヤ、モウ少シ事實ノ眞

相ニ向テ、當議會ハ慎重、冷靜ナル所ノ研究ノ上、判斷アラシムコトヲ希望スル者デアリマス、尙ホ私ハ此北海道ヲ理解スル者ハ、既ニ道會ニ於テ満場一致此建議ノアリタルガ如ク、前ノ北海道廳長官土岐君亦吾々ト同一ナル所ノ此立法趣旨ノ下ニ、拓殖計畫案ヲ組立テラレタコトヲ、北海道ノ代議士諸君ハ現ニ御承知デアラウ、又現長官中川君モ吾々ト同意見デアルト云フコトヲ何人ガ否定シマスガ、既ニ拓殖調查會ニ向テ、是ト同一ノ趣旨ニアル所ノ計畫案ヲ出シタデハナイカ、斯様ニ北海道ヲ理解スル者ニ於テハ、ドウシテモ北海道ノ不在農地、荒地ヲ開クニ於テハ、此方策ニ依ラナクハレバナラヌト云フコトハ、何人モ亦皆認メテ居ルノデアアル、既ニ委員會ニ於テ憲政會ノ小池君ナドモ認ムル所デアアル、アルケレドモ今拓殖計畫案ヲ立テハ一方ニ於テ、斯ウ云フ案ヲ拵ヘハ不十分デアリ、不十分デアラウ寧ろ是ハ自作農創定法律案ト云フモノデモ拵ヘタラドウダト云フヤウナ意見モ、委員會デ出シテ居ルノヤナナイカ、此計畫案ニ於ケル所ノ自作農創定案ガ不十分デアルト云フコトヲ、憲政會ノ總務ニシテ北海道選出ノ小池君ガ認メテ居ル、今日此場合ニ於テ、吾々ガ本案ニ向テカラニ熱心ナル主張ヲナスノニ、何處ニ不純ノ空氣ガアルカ、何處ニ不純ノ分子ガアルカ、斯ノ如ク北海道論ト云フモノハ殆ド一決シテ居ルニモ拘ラズ、此法律此希望ガ中央ニ來ルト云フト、直ニ政黨化シテ、憲政會ノ非募債主義ノ爲ニ、今日ノ內務次官侯君ノ爲ニ、此農民ノ希望ト云フモノガ蹂躪サレテ居ルト云フコトハ、北海道民盡ク之ヲ知ル所デアアル(拍手)起リ「簡單ニ願ヒマス、能ク分リマス」ト呼フ者アリ「簡單ニヤリマス、諸君」或ハ諸君中ニハ未ダ本案ノ内容ニ付テ詳シク御研究ニナラヌ方ハ、今日此議會ニ於テ僅カ五萬圓、十七億圓ノ豫算ノ中デ五萬圓ノ教育費問題ガ暗礁ニ上テ居ル時ニ、唯一口ニ北海道ノミニ六千萬圓ト云フ聲ニ驚カサレ、是ハ六十五萬圓ト云フコトハ、今後十二年或ハ十五年ノ間ニ於テ年々百萬圓、百五十萬圓、或ハ進んで二百万圓ト云フ公債ニ向テ、唯、其利子ヲ——國家ガ一步三厘ノ利子ヲ補助スルト云フコトニ止マルノデアリ、極メテ其數字ノ上ニ於テハ微弱ナル

モノデアルト云フコトヲ、私ハ一言申上ダ
テ置カナレバナラヌ、殊ニ此北海道ノ開
發、一或ハ諸君ノ中ニ北海道ノミガ中
央ノ金ヲ持テ行クコトヲ云フヤウナ、御考
方ガアルカモ知ラナイ、北海道ハ畏クモ
明治二年、明治天皇ノ北海道開拓勅ヲ下
シ賜タル以來ニ於テ、今日迄、北海道ガ
國家ニ貢獻シタル所ノ納稅金ハ幾許デアル
カ、實ニ多大ナルモノデアル、而シテ北海
道拓殖ノ爲ニ、國家ノ支出ナシタル所ノ歲
出ハ幾ラデアル、北海道ノ收入ヨリハ國家
ノ收入ノ方ガ多イト云フコトハ私申上ダ
迄モナク數字ガ明ニ示シ居ルデハナイ
カ、即チ明治二年以來彼ノ鍋島侯ノ開拓使
以來、九億二千七百餘萬圓ト云フモノヲ、
大正十三年迄ニ國家ハ投ジテ居ルケレド
モ、北海道ハ九億四千六百萬圓、一千五百
餘萬圓カラノ收入ヲ國家ニ貢獻シテ居ル
上ニ於テ、今公債ノ一部ノ利子ヲ負擔ス
ル位ノコトハ何事カアル、而モ是ハ國家國
策ノ上ニ最モ大切ナル問題デハナイカ、今
日我國ニ於テ百町歩以上、否五十町歩以上
ノ土地ヲ所有スル所ノ人ノ統計ヲ見マシタ
ナラバ、全國ニ三千有餘アルケレドモ、其
三分ノ一、一千六十餘戶ト云フモノハ盡ク
北海道デアル、此大ナル戶數ノ中ニハ、先
刻僕君モ或ル一部ノ大地主ノコトヲ申サレ
マシタガ、確ニ不在農地、荒廢地ガ多ク
シテカラス、其荒廢地ヲ少々利子ヲ補給
シテカラニ、食糧ニ困リテ居ル者住居ノ生
活難ヲ感ヘル所ノ者ス、此處ニ移住セシメ
テ、北海道ヲ開發スルコト云フモノハ、是ハ
當然ガサレバカラザル所ノ政策デハアル
マイカ、此見地ニ於テ、北海道ノ此法律案
ハ小作人ニ所有權ヲ與ヘルト云フヤウナ、
内地同様ナル取扱ヲ爲スト云フコトハ、今
日ノ北海道ノ眞實ノ狀態ヲ沒却シタ、即チ
拓殖ノ意味ヲ忘レテ居ルモノデアル、此故
ニ私ハ本案ヲ提出ナシタル所以デアル、此
ガ、尙ホ諸君ニ申上ダテ置タ、其概目相
施行方針ノ御演說ノ中ニモ、自作農創定ノ
コトニ付テハ最モ熱烈ナル御意見ガアタ
殊ニ又此事ハ社會政策ニ關係スル所ニ於
テ居リマシタ、所ガ只今澤田君ハ北海道ノ
拓殖ト社會問題トハ別デアルト云ハレタ
ガ、問題ノ別ニスレバ別問題デアル、併ナ
ガラ拓殖其モノハ社會政策デアルトシタナ

ラバ、此政策ヲ執ルノ三何ノ差支ガアルカ、
彼ノ豫算總會ニ於テ町田農林大臣ハ吉植君
トノ質問應答ノ際ニ於テ、吉植君ニ向テ
近來自作農地ノ統計ハ幾段ヲ殖エテ來ルカ
ヲ、左様ニ御心配ナサルコトハナイト云フ
御意見ヲ述ベラレタ、如何ニモ全國ノ自作
農ノ統計ハ日々々々殖エテ來ルデアルマ
セウ、併ナガラ北海道ニ於テ自作農ノ「パ
ーセント」ハ北海道總ノ統計ニ依テ、爭フ
ベカラザル事實デアルガ故ニ、北海道ニ於
ケル自作農、小作農ガ如何ナル「パーセン
ト」ニ依テ増減シテ居ルト云フコトヲ、御
參考ノ爲ニ申上ダテ置キマス、大正三年ニ
於ケル小作人ノ「パーセント」ハ四十二「パ
ーセント」九、是ガ大正七年ニハ四十三「パ
ーセント」六デアル、而シテ最近ハ四十七
「パーセント」三デアル、自作農ハドウハ
ナリ居ルカト云フト、大正三年ニ於テハ
四十二「パーセント」七、ソレガ大正七年ニ
於テハ四十一「パーセント」八、更に進ンデ
最近ハドウデアルカト云フト、三十七「パ
ーセント」五ニ減シテ居ルデヤナイカ、全國
ノ自作農ノ統計ハ殖エテ居ルデモ、北海道
ニ於ケル自作農ノ統計ト云フモノハ、斯ノ如
ク年々減退シテ、アルト云フコトヲ思ヒマ
シタナラバ、北海道ニ對シ自作農創定ノ
法律ハ、他ノ府縣同様ニ之ヲ取扱フコト云
フコトハ、到底今日國家國策上ニ許サズ所
デアルト云フコトハ、私ガ多ク申ス迄モナ
イコトデハアリマス、又私ハ先般僕
内務次官ガ憲法上ノ疑義ニ付テ申サレマシ
タガ、是ハ各學者ノ見解デアリマス、各
ノ見ヤウデアリマスガ、如何ニ反對セン
ガ爲ニ反對シ、已ニ立テタ拓殖計畫ノ根本
ニ多少ノ齟齬ヲ遺入ル所ガ、斯様ニ憲
法上ノ道理ヲ擲出シテ、強テ牽強附會ノ議
論ヲ以テ之ニ反對セントスル、其大膽ナル
ニハ驚カザルヲ得ナイノデアル、諸君、
私鐵鐵道ノ如キ法人會社ノ爲ニモ、必要
ナル場合ニハ個人ノ土地ノ所有權モ土地
收用法ニ依テ買收スルコトヲ認メテ
居ルデヤナイカ、然ルニ國家ノ上ニ於
テ土地ヲ買收スルコト云フモノ、何ノ憲
法上ノ疑義ガアルデアラウカ、私ハ斯ノ
如キ事ニ向テ憲法上ノ疑義ガアルト云フ
コトハ、是ハ勿論學者トシテ左様ナ人モア
リマセウガ、寧ろ憫ムシキザル學說デア
ルト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌモノデア
マス、諸君、而シテ此法案ガ出來上タト

シテ、他日ニ於テ是ハ或ル一派ノ或ル地主
ノ救済デアルト云フコトデアルガ、何ガ故
ニ地主ノ救済ニナリマス、即チ土地收用
法ト云フモノヲ應用スルコト云フハ茲ニアル
デハナイカ、即チ其價格ノ協定出來ナイ時
分ニハ、國家ガ之ヲ強制シテ收用スルノデ
ハナイカ、而シテ本案ノ眞髓ハ何處ニアル
カ、處理法案、處理委員會ハ現在諸君、憲
政會議諸君ノ信賴スル所ノ政府ガ、勅令ヲ以
テ定ムル所デハナイカ、何ガ故ニ本案ニ於
テ處理委員會ガ出來ルカ、吾々ノ希望スル
所ハ、此處理委員會ナルモノハ各階級知識
ヲ網羅シテ、或ハ大地主、或ハ勞働小作
人、或ハ大學教授、或ハ代議士、或ハ道會
議員、幾多ノ階級ヲ網羅シテ此處理委員
ナルモノヲ組織シテ、公平ナル見地ノ下ニ
於テ何レノ土地、何レノ價格ト云フコトヲ
評定スルコトガ出來ルと思フカ、斯様ナ
コトハ唯「歐カラセ」シテ、自己ノ立テタ
ル此拓殖計畫案ノ徒ニ遂行ヲ期スルノミ、
即チ政黨ノ黨略ノ因ハレテ國家ノ國策ヲ
忘レ、北海道ノ拓殖ヲ忘レタル所ノ議論
アルト謂ハナレバナラヌモノデアル、私ハ
斯様ナ見地ニ於ケルシテ、此法案ガ業ニ既
ニ昨年ハ委員會ニ於テ通過シテ居ル
ガ、會期迫リ爲ニ未了トナタリタデアル
ガ、今年ハドウカ諸君ハ冷靜ナル御判斷
ノ下ニ、我國ノ此人口食糧政策及社會政策
爲ニ、此法案ヲ通過サレ、サウシテ吾人ノ
欲望スル所ノ生活難ヲ緩和セラレシメ
切ニ希望シテ止マヌ者デアリマス、尙ホ茲
ニ一言加ヘテ置キタイセタカ、ト呼フ者アリ
マス、此法律「モウ止セタカ」ト呼フ者アリ
マス、私ハ極ク簡單ニヤツテ居ル、是ハ長クヤ
レバ「マダ」時間以上ニ涉ル、マダヤレト
言フモノ聲ガ許サヌカラヤラヌケレドモ、
簡單ニヤツテモマダ言フコトガアル、惟
フニ先刻此法律案ニハ本黨ノ中ニモ反對者ガ
アルト云フコトヲ言ハレタガ、私ハ憲政會
ノ中ニモ分ラヌ人ガ澤山アリハセマカト思
フ、私ハ此實際ノ事ハ今日ノ此時事新報ノ
記事ノ上ニ於テ、洵ニ誤ラレタ記事ノ載
テ居ルコトヲ感マザルヲ得ヌモノデアル、
此記事ハ政府筋ヨリ出デタルコトハ明カデ
アル、憲政會筋ヨリ出デタルコトハ明カデ
アル、此記事ノ中ニドウ云フコトガ書イテ
アルカ、實ニ牽強附會ナル記事ガ書イテア
ルデハナイカ、是ハ此法律案ガ本議會ヲ通

過ナシタル後ニ於テ、貴族院ヲ通過シナケ
レバナラヌ、ソレデ私ハ天下ノ疑惑ヲ解ク
ガ爲ニ此事ニ付テ一言辯明スルノ必要ヲ感
ズル者デアリマス、農地處理ハ裏面ガ怪
イ、丁度今日此ニ於テ反對論ヲ述ベラレタ
澤田君ガ坂東君ノ言フコトヲ其儘此所ニ
映シテ居ル、裏面ガ怪イ、ソレハドウ云
フ風ニ怪イ、詳シク言フト中ニ長クナル
カラ、要點デケテ申シマスガ、第一ニ官有
地ヲ無償ニテ拂下ダ、樹木ヲ伐採シテ荒蕪
地トセルモノヲ有償ニテ買上ダルガ如キハ
不合理デアルト云ウテ居ル、是ハ北海道ノ
拓殖ノ歴史ヲ知ラヌ者ノ言フ言葉デアル、
諸君、今日無償デ拂下ダ地面ヲ國家ガ買
上ダルノデハアリマセウ、北海道ノノ
遠ク墳墓ノ地ヲ離レ、熊ト共ニ開拓ニ從事
シタル所ノ「アノ農民ガ、今日此北海道ノ開
拓ヲ生シタノハ、其當時カラ移住シタル
所ノ、實ニ國產上ニ忠實ナル國民ノ賜デア
ルト云フコトヲ忘レハナリマセウ、此北
海道ヲ開ク歴史ノ上ニ於テ、北海道ノ土地
ヲ無償ニテ貸付シタト云フコトハ、其當時
ノ政策ニ於テ當然爲シ得ルコト、謂ハナケ
レバナラヌ、此無償デ受ケタ人ハ北海道ヲ
開カンガ爲ニ、法律上ノ保護ノ下ニ於テ無
償デ土地ヲ得タト云フコトハ、何等不思議
ハナイ、然ルニ今日ニ於テハ當テ無償デ受
ケタ土地デアルケレドモ、既ニ或ル程度ノ
價值ヲ持テ居ルケレドモ、自分ノ力ニ於テ
ハ之ヲ開墾スルコトガ出來ナイニ依テ、若
モ相當ノ買人ガアツタラ賣ルト云フモノハ何
ノ差支ガアル、又之ヲ國家ガ買アルト云フ
トハ、不當ナル値買ヲ行フ惡イケレドモ、現
在ニ於テハ相當ノ價格ヲ持テ居ル、今澤田
君デアアルカ、僕君デアツタカ、北海道ニ於
テハ一反一圓五十錢デ國家ガ賣拂フ、然ル
ニ一反一圓五十錢モ出シテ買フ必要ガ何所
ニアルカト云フコトヲ言ハレタ、成程北海道
ニ未開地賣下ノ法律ニ於テハ一反一圓五
十錢デアリマス、併ナラニ是等ノ土地、民
有未墾地ノ交通便利ナ處ニ在ル土地ト、今
日ノ北海道ノ未開ノ道、賣拂フ所ノ土地
ト云フモノハ、大ナル相違ナルト云フ
事實ヲ知ラナレバナラヌ、北海道ニ居ル
諸君ハ知ラナレバ、唯、知ラナ
府縣ノ人ハ、一圓五十錢デ道廳ガ拂下
ルノニ、十二圓デ國家ガ買フ、斯ナ馬鹿
鹿シイコトハナイデハナイカ、一口ニ言
ウタナラバサウデアルケレドモ、價值アルモ

ノデアアルカ、無イモノデアアルカト云フコトハ、即チ處理委員會ト云フモノハ、幾多ノ階級ヲ網羅シテ、極メテ公平ナル組織ニ依ッテ、現政府、諸君ノ信賴スル所ノ政府ガ勅令ヲ以テ拵ヘレバ宜イノデナйка、即チ此法律ハ左様ニ出來テ居ルノデナйка、此法律ガ不當ナル價格ヲ以テ今日國家ガ背負込ムト云フヤウナ憂ガ何所ニアル、斯様ナル所ノ杞憂、若シ諸君ガ眞ニ之ヲ憂フルナラバ杞憂デアアル、又眞實デナクテ斯ノ如キ議論ヲ言ハル、ナラバ、強イテ反對センガ爲ニ、黨略ノ爲ニ、唯、此拓殖計畫其モノヲ通過セシメントスルガ爲ニ、此法案ニ反對スルモノデアアルト云ハレテモ、答辯ノ辭ハアルマイ、尙ホ此裏面ガ怪シイト云フ中ニハ斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、其結果利益ヲ受ケルノハ地主デアアツテ、小作階級ニハ寧ロ不利益トナルガ如キ非社會政策的案デアアル、是ハ私ハ事實ガ分ラヌ、諸君、只今迄反對サレタル中ノ論者モ左様ナコトヲ言ッテ居ルガ、何ガ故ニ地主ニ利益ガアツテ、小作人ニ不利益デアアルカ、小作人ニ強イテ買ハセルノデナйка、希望者ガナケレバ賣ラナイ、又處理委員會ニ於テ公平ナル相場デナイレバ買ハナイノニ、特ニ地主ニ何ガ故ニ利益デアアル、此法律ハ何處ノ何者ノ土地ヲ一反歩幾ラデ買ヘト云フヤウナ馬鹿氣テ居ル法律デアナйка、總テ處理委員會ニ於テ公平ナル制斷ノ下ニ買得ル法律デアアル、何故ニ地主ノミガ利益ヲ受ケル、若シ價格ニ於テ地主ガ理由ナク峻拒シタル時分ニハ、國家ハ收用法律ニ依ッテ買デモ之ヲ買上ゲルト云フコトノ法案デアナйка、然ルニドウシテ是ガ地主ヲ擁護スル法律デアアルカ、諸君斯様ナコトヲ言ウテ、單ニ今日地主擁護地主擁護ト云フ言葉ノ一語ヲ以テ、不純デアアル、不純デアアルト云フ言葉ノ一言ヲ以テ、此法律ノ内容眞相ヲ能ク究メズシテ、徒ニ輕々ニ本案ヲ否決爲スガ如キコトガアリマシタナラバ、國家百年ノ大計ヲ誤ルモノデアアルト云フコトヲ茲ニ斷言シテ憚ラヌノデアリマス、餘リニ……(此時發言スル者アリ) マダ澤田君ヤルナラバ……簡單簡單ト言フカラ止メルノダガ……

○議長(粕谷義三君) 私語ヲ禁ジマス

○丸山浪彌君(續) 諸君、私ハ此法律案ヲ大多數ヲ以テ横暴のニ可決ヲ望ム者デハアリマセヌ、十分ニ審議セラレンコトヲ望ム者

デアリマスケレドモ、唯、反對黨ノ言フコトノミヲ憲政會諸君耳ニシテ、吾々ノ言フコトニ耳ヲ藉サヌ、私ハ澤田君ノ言フコト、坂東君ノ言フコトモ一言半句洩サズ謹聽シテ居ッテ、諸君、憲政會ノ諸君ハ私ノ演說ニ對シテ彌次半疊、極メテ不眞面目デアアル、斯様ナ不眞面目ナコトデ此國策上ノ大問題ガドウシテ解決ガ出來ルカ、唯、簡單々々ト言フケレドモ、既ニ簡單ト呼バハル聲ハ何レニカ不純ナ分子ヲ含シデ居リハセヌカ、黨略的デアナйка(拍手)諸君、既ニ時間モ參リマシタカラ、私ハ此程度ニ於テ止メマスガ、尙ホ又反對論者ノ御意見ヲ拜聽致シタル結果ニ於テハ、私ハ本法案ヲ十分ニ審議シタイノデアリマスカラ、更ニ又諸君ノ御耳ヲ汚スコトガアルノデアリマス(拍手)

○寺田市正君 既ニ定刻ニ近キマシタカラ、本日ハ是ニテ延會セラレンコトヲ望ミマス

(拍手起ル)

○議長(粕谷義三君) 寺田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時五十一分散會

衆議院議事速記録第九號中正誤

頁 段 行 誤 正

一一九 二 三四 破産ノ身上 人ノ資格ニ對
效果ニ關スル破産ノ效
律案 果ニ關スル法
律案

衆議院議事速記録第十號中正誤

頁 段 行 誤 正
一四八 二 三八 三國港 三國港築港